

第50号

栃木県眼科医会報



2017年6月発行
栃木県眼科医会

うるおい、届けたい

Santen

BAK[®]
フリー

ドライアイ治療剤(ムチン/水分分泌促進点眼剤)
処方箋医薬品
(注意-医師等の処方箋により使用すること) **薬価基準収載**

ジクアス[®]点眼液3%
DIQUAS[®]ophthalmic solution 3%
ジクアホソルナトリウム点眼液

禁忌 (次の患者には投与しないこと)
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効能・効果】
ドライアイ
＜効能・効果に関連する使用上の注意＞
涙液異常に伴う角膜上皮障害が認められ、ドライアイと診断された患者に使用すること。

【用法・用量】
通常、1回1滴、1日6回点眼する。

【使用上の注意】
1.副作用
承認時
総症例655例中、副作用(臨床検査値異常変動を含む)が認められたのは155例(23.7%)であった。主な副作用は、眼刺激感44件(6.7%)、眼脂31件(4.7%)、結膜充血24件(3.7%)、眼痛18件(2.7%)、眼そう痒感16件(2.4%)、異物感14件(2.1%)、眼不快感7件(1.1%)等であった。
使用成績調査(第6回安全性定期報告時)
総症例3,196例中、副作用が認められたのは202例(6.3%)であった。主な副作用は、眼刺激感30件(0.9%)、眼脂30件(0.9%)、眼痛22件(0.7%)、流涙増加20件(0.6%)、眼瞼炎19件(0.6%)等であった。副作用が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

種類	頻度	頻度不明	5%以上	0.1～5%未満
過敏症	—	—	—	眼瞼炎
眼	角膜上皮障害(糸状角膜炎、表層角膜炎、角膜びらん等)、結膜炎	刺激感	眼脂、結膜充血、眼痛、そう痒感、異物感、不快感、結膜下出血、眼の異常感(乾燥感、違和感、ねばつき感)、霧視、羞明、流涙	
その他	—	—	頭痛、好酸球増加、ALT(GPT)上昇	

発現頻度は承認時までの臨床試験の結果に基づき算出した。

2.小児等への投与
低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない(使用経験がない)。

3.適用上の注意
1)投与経路:点眼用에만使用すること。
2)投与时:
(1)薬液汚染防止のため、点眼のとき、容器の先端が直接目に触れないように注意するよう指導すること。
(2)他の点眼剤と併用する場合には、少なくとも5分以上の間隔をあけて点眼するよう指導すること。

●詳細は添付文書をご参照下さい。
●添付文書・使用上の注意(解説)の記載には十分ご留意しご使用下さい。

製造販売元
参天製薬株式会社
大阪市北区大深町4-20
資料請求先 医薬事業部 医薬情報室

Diquas[®]

2015年10月作成
DA15J000B51WB_A

栃木県眼科医会報（第50号）目次

巻頭言 第50号にあたって.....原 裕..... 1

学 術

第72回栃木県眼科集談会	
特別講演 自治医大における黄斑外来の現状	井上 裕治..... 3
一般講演抄録	4
第73回栃木県眼科集談会	
特別講演 私とProstaglandin	増田寛次郎..... 7
一般講演抄録	8
第55回栃木県眼科医会研究会	
講演Ⅰ 小児の眼底疾患アップデート	近藤 寛之.....11
講演Ⅱ 黄斑部手術	白神 史雄.....12
第39回獨協医科大学眼科・栃木県眼科医会合同講演会	
講演Ⅰ 眼科外来での急変対応～もしもの時に備えて～	松島 久雄.....13
講演Ⅱ スポーツと眼科学	枝川 宏.....13
第24回栃木県眼科セミナー	
特別講演 黄斑機能とその評価	緒方奈保子.....14
第26回下野眼科談話会	
講演Ⅰ 急性網膜壊死の診断基準と疫学調査研究について	高橋 博.....15
講演Ⅱ 今、なぜか、VZV	薄井 紀夫.....16
第10回栃木県内科眼科関連疾患懇話会	
講演Ⅰ どうする？糖尿病黄斑浮腫の治療	志村 雅彦.....17
講演Ⅱ 糖尿病管理の現状と今後の課題	加来 浩平.....18
第6回栃木ぶどう膜炎カンファレンス	
特別講演 VEGF阻害薬の理論と糖尿病黄斑浮腫に対する実践	石田 晋.....19
第5回栃眼医獨協眼科病診連携の会	
講演Ⅰ 外来で行う眼腫瘍手術	古田 実.....20
講演Ⅱ 脈絡膜疾患に対する画像診断技術の進歩	三田村佳典.....21
第9回下都賀眼科診療セミナー	
講演Ⅰ 緑内障の定量評価	芝 大介.....22
講演Ⅱ 最近の角膜の外科治療	山上 聡.....22
第22回栃木県眼科手術談話会	
特別講演 手技と知識で乗り切る、白内障手術合併症・難症例	大内 雅之.....23
一般演題抄録	24



見える、を護る。

緑内障治療[※]に唯一の α_2 、アイファガン[®]



アドレナリン α_2 受容体作動薬
緑内障・高眼圧症治療剤

薬価基準収載

アイファガン[®]点眼液0.1%
AIPHAGAN[®] OPHTHALMIC SOLUTION 0.1%

プリモニジン酒石酸塩点眼液
処方箋医薬品[※]

5th
Anniversary

※他の緑内障治療薬が効果不十分又は使用できない場合

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】
(1) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
(2) 低出生体重児、新生児、乳児又は2歳未満の幼児(「小児等への投与」の項参照)

【効能・効果】
次の疾患で、他の緑内障治療薬が効果不十分又は使用できない場合：緑内障、高眼圧症
効能・効果に関連する使用上の注意
プロスタグランジン関連薬や β 遮断薬等の他の緑内障治療で効果不十分又は副作用等で使用できない場合に本剤の使用を検討すること(【臨床成績】の項参照)。

【用法・用量】
通常、1回1滴、1日2回点眼する。

【使用上の注意】(抜粋)
1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
(1) 脳血管障害、起立性低血圧のある患者[血圧低下により、症状が悪化するおそれがある。]
(2) 心血管系疾患のある患者[血圧及び脈拍数の変動により、症状が悪化するおそれがある。]

2. 重要な基本的注意
(1) 全身的に吸収されるため、アドレナリン α_2 受容体作動薬の全身投与時と同様の副作用(眠気、めまい、徐脈、低血圧等)があらわれることがあるので留意すること。
(2) 眠気、めまい、霧視等を起こすことがあるので、本剤投与中の患者には、自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事する場合は注意させること。

3. 相互作用
併用注意(併用に注意すること)
●降圧剤
●中枢神経抑制剤(バルビツール酸誘導体 オピオイド系鎮痛剤 鎮静剤 麻酔剤 等)
●アルコール
●モノアミン酸化酵素阻害剤

4. 副作用
承認時の臨床試験での総症例444例中、副作用は122例(27.48%)に認められた。主な副作用は結膜炎(アレルギー性結膜炎を含む)38例(8.56%)、点状角膜炎30例(6.76%)、眼瞼炎(アレルギー性眼瞼炎を含む)20例(4.50%)、結膜充血17例(3.83%)、眼そう痒症10例(2.25%)、眼の異常感5例(1.13%)、接触性皮膚炎4例(0.90%)であった(承認時)。副作用が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

2015年1月添付文書改訂

●その他の使用上の注意につきましては、添付文書をご参照ください。
※ご使用に際しては、「警告・禁忌を含む使用上の注意」の改訂に十分ご留意ください。

資料請求先：千寿製薬(株)カスタマーサポート室

製造販売元 千寿製薬株式会社
大阪市中央区平野町二丁目5番8号

販売 武田薬品工業株式会社
大阪市中央区道修町四丁目1番1号

02805

2017年1月作成

報 告

平成28年度公益社団法人日本眼科医会定例代議員会	吉澤 徹	25
平成29年度日本眼科医会総務・経理合同常任委員会	吉澤 徹	27
平成28年度都道府県眼科医会連絡会議	原 裕	29
平成28年度日眼医全国審査委員連絡協議会	木村 純	32
平成28年度都道府県健保担当理事連絡会報告	井岡 大治	33
平成28年度都道府県眼科医会介護・在宅医療担当理事連絡会	井岡 大治	34
平成28年度第1回社保国保審査委員連絡会	井岡 大治	35
平成28年度第2回社保国保審査委員連絡会	井岡 大治	36
第40回日眼医全国眼科学校医連絡協議会出席報告	苗加 謙応	38
第17回全国勤務医連絡協議会出席報告	上田 昌弘	39
平成28年度日本眼科医連盟協議委員会出席報告	原 裕	42
平成28年度第2回関東甲信越眼科医会連合会各県会長会議次第開催報告	原 裕	43
平成28年度第2回関東甲信越眼科医会連合会連絡協議会次第開催報告	吉澤 徹	44
平成29年度栃木県眼科医会総会開催報告	福島 一哉	47
平成28年度栃木県眼科医会会務報告	福島 一哉	48
平成28年度栃木県眼科医会決算報告		55
平成29年度栃木県眼科医会事業計画		58
平成29年度栃木県眼科医会予算		59
平成29年度栃木県眼科医会役員		61
平成28年度栃木県眼科医会忘年会開催報告	斉藤 哲也	62
平成28年度関プロ会報編集委員会報告	大柳 静香	63
平成28年度「目の愛護デー」記念行事報告	堤 雅弘	64
第85回栃眼医親睦ゴルフコンペ…スコア表・一言コメント	石崎 道治	66

追 悼

故 松島 雄二先生 追悼	石崎 道治	68
故 原 たか子先生 追悼	小暮 正子	70

獨協医科大学の近況	永田万由美	71
自治医科大学の近況	新井 悠介	72
新入会員自己紹介	堀 秀行、長谷川憲司、鈴木 悦子	73
	今泉 敦志、佐野 一矢、山崎 駿	
随筆	大柳 静香	75
平成28年度アイバンク募金箱 ご協力御礼	堤 雅弘	77
おしらせ		78
ASCRS Film Festival Best of the Bestを受賞して	永田万由美	79
大学眼科外来診察担当者		81
平成28年度眼科コメディカル講習会修了証授与者		82
栃木県眼科一次救急診療規程		83
栃木県眼科医会選挙規程		84
栃木県眼科医会会則		86
編集後記	大柳 静香	88



第50号にあたって

会 長 原

裕（大田原市）

栃木県眼科医会報が第50号に成りました。巡り合わせでこの節目の巻の巻頭言を書かせていただく事、誠に光栄に思います。

栃木県眼科医会報の初版は、昭和63年で、この時の会長は吉澤清先生でした、現副会長の吉澤徹先生のお父様です。この年には第24回関東甲信越眼科学会、第5回関東眼科学会、第4回日韓眼科ジョイントミーティングの3学会の同時開催が宇都宮で行われました。当時栃木県眼科医会副会長であった早津尚夫先生、現理事早津宏夫先生のお父様の、関ブロ講習会担当記を読み返すと、懇親会場の宇都宮グランドホテルが増改築工事の真っ最中で、「平安の間」が3分の2しか使えず、自慢の庭園が見られず、近くのトイレが使えないと言う、大変な苦労があったようです。

同時開催の第4回日韓眼科ジョイントミーティングは、獨協医大の小暮文雄教授のお力で開催され、韓国からの演題が15題、日本から42題の演題が出され、参加者は韓国から45人の医師、同伴者が10名、日本側から105人の参加者が集まり盛会であったと記載されています。

現在も毎年行われている「目の無料相談会」は、昭和62年より行われ、最初は東武デパートの5階大催事場において開催されていました。稲葉光治先生の昭和63年度目の無料相談実施報告によると、受診者総数122名、相談医師は午前と午後で計10人であり、スリットランプ、視力表、直像鏡を準備し、さながら眼科の診察室のようでした。

さて昨年は第52回関東甲信越ブロック講習会を栃木県で開催いたしました。会員の先生の皆様方のお力で難関を乗り越えることができました。この時も開催するホテルが開催数ヶ月前に買収され、そのためホテルの運営方針が変わるのではな

いか、優秀な調理人や、スタッフがなくなるのではないかと非常に気を揉みました。懇親会の料理に問題がないか、二回も試食会を開き、二次会用のカラオケの機械を最新の物にレンタルし直し試聴もしました。今思い出しても恥ずかしいのですが、フィナーレの「栃木県の歌」に合わせる踊りまで練習までしました。

開催前から危ぶまれていた大幅な赤字も起こさず、出席した先生方には楽しかったと、また、栃木県眼科医会はまとまりがいいねとも、お褒めの言葉をいただきました。

関東甲信越ブロック講習会を行った翌年は「目の健康講座」を開くことになっています。今年は10月22日（日曜日）ホテルニューイタヤで「目の健康講座」を行います。演者は宇津見義一先生、河島洋一先生、溝上志朗先生の3人です。一般の聴衆に分かりやすい演題をご依頼致しました。コンタクトレンズ、点眼薬の使用法、緑内障の話です。

例年、目の健康講座、無料相談会をやっておりますが、今回は日本眼科医会の強力な後援があり、新聞、テレビ、ラジオと多数の広告を出します。

聴衆が少しでも増え、県民の方に目の安全性についてアピールができればいいなと、思っております。

眼科一次救急は次第に定着し、日曜休日に目に異常があると栃木医療センターに紹介すると言うことは浸透してきました。日曜、休日あるいは年末年始の1日を、栃木県の眼科のために費やしてくれる先生方のおかげです。本当に深く感謝申し上げます。

また毎月保険審査のために多大な時間を割いていただいている先生方に、感謝の意を表したいと

思います。

国保担当 苗加謙応先生、自治医科大学 川島秀俊教授

社保担当 獨協医大 千葉桂三先生、大野研一先生、木村純先生（本年度より大久保彰先生）

労災担当 旭英幸先生

感染症サーベランス 城山力一先生（本年度より大柳静香先生）

難病指定 獨協医大 妹尾正教授

自分たちがやっている毎日の診療、眼科医療を持続的、安定的に維持するためには、同業眼科医師との協力、連携が不可欠です。さいわい栃木県には先輩たちの努力があつて、大学病院、病院の眼科、眼科診療所の間のコミュニケーションがうまく取れています。

自分の仕事に専念し、瑣末なことにとらわれない状況を維持するためには会員間の密な連携が重要です。会員の皆様の日頃の栃木県眼科医会に対するご理解とご支援に、深く御礼申し上げます。

第72回栃木県眼科集談会

平成28年11月11日(金)

於：宇都宮市医師会館



特別講演

自治医大における黄斑外来の現状

自治医科大学糖尿病センター 眼科講師 井上 裕 治

自治医大における黄斑外来では、73%は加齢黄斑変性であり、抗VEGF治療が主体となっている。抗VEGF薬は薬価も高く、過剰投与にならないようにする必要がある。また、不十分な投与で悪化せることがないようにすることも必要である。自治医大で行っている治療方法について概説した。抗VEGF療法3回の導入後、まず4ヶ月間毎月診察し、悪化認められればすぐに治療する。そしてその再燃期間を元に、診察および治療の期間を決定していく方法である。3年間は治療効果が持続

しており、有効な方法であると考えているが、さらに効率良い治療法が必要とされている。視力良好例や、脈絡膜新生血管の検出が困難である網膜色素上皮剥離に対する治療成績についても当院における成績を解説した。

他に黄斑外来で診療する頻度が高い中心性漿液性脈絡網膜症および近視性新生血管黄斑症についてお話しした。光線力学療法や抗VEGF療法について、その有用性および問題点を指摘した。

一般講演抄録

1. エタノール摂取後に視力低下し、その後視力改善がみられた1例

獨協医科大学 眼科○武村 千 紘
鈴木 重 成
中村 恭 子
妹尾 正

【緒言】アルコールにより視神経が障害される可能性は、アルコール弱視としても知られている。無水エタノール摂取後に視力低下をきたした症例を経験したので報告する。

【症例】26歳男性、自殺企図にて無水エタノールを摂取し、中毒症状が改善しないため救急搬送された。その後視力低下を自覚し近医を受診、中毒性視神経症にて当院眼科紹介受診となった。初診時に中毒症状はなく、両眼視力低下、中心フリッカー低下、マ盲点拡大、蛍光眼底造影にて腕網脈循環時間の延長を認めた。MRI上、器質的変化を認めなかった。ステロイドパルス療法を施行し、視機能は改善した。光干渉断層計（OCT）にて視神経乳頭の萎縮は認めなかった。

【考察】中毒症状後に視力低下を自覚した患者を、その経過よりエタノールによる視神経症を疑った。初期における視神経の機能的障害であり、形態学的障害までに至らなかったと推測される。

【結論】中毒性視神経症では、生活習慣も含め、詳細な問診が不可欠である。

2. 深層学習による糖尿病網膜症病期分類

自治医科大学 眼科○反保 宏 信
高橋 秀 徳
井上 裕 治
川島 秀 俊

機械学習による一般画像分類は、2014年に深層学習が実用化され特徴点を自動で抽出できるようになり、正確性が飛躍的に向上した。2015年にはGoogleとMicrosoftの深層学習による人工知能が人間を超える分類正答率を挙げた。そこで我々はこの公開されているGoogleの深層学習ニューラル

ネットワーク、GoogLeNetを糖尿病網膜症の病期分類に応用した。

TRC50（TOPCON, 東京）で撮影した中心45度のカラー眼底写真9939枚を用いた。改変Davis分類で非糖尿病網膜症・単純糖尿病網膜症・前増殖糖尿病網膜症・増殖糖尿病網膜症に分類した。9443枚で深層学習を行い、残りの496枚で検定した。深層学習には地球シミュレータの50分の1の能力を持つ自作ワークステーションを用いて160時間かけた。分類の正確性は81%であった。眼底画像による糖尿病網膜症病期分類においても、50%程度の正確性とされている従来の機械学習に比べ深層学習は有用である可能性がある。

3. 栃木県内で検出された東洋眼虫症疑症の一例

獨協医大眼科○山崎 駿
松島 博之
向井 公一郎
伊藤 栄
鈴木 重成
妹尾 正

獨協医大熱帯病寄生虫病学講座○サトウ マルセロ
千種 雄一

【緒言】東洋眼虫症は九州を中心とした西日本で多く報告されていたが、近年北上傾向にある。我々は2013年に栃木県内で最初の症例を報告した。今回栃木県内で2例目となりうる東洋眼虫症を疑う症例を経験したので報告する。

【症例】44歳の男性。10年前にタイ・アメリカ・イタリアへの渡航歴があるがその他特記すべき既往はない。2016年4月12日の起床時より左眼の違和感を自覚。同日の夕方頃より症状の増悪があり受診。細隙灯顕微鏡で左眼の結膜充血、角膜びらんおよび耳側結膜下に蠕動運動する虫体を1隻認めたため直ちに虫体を摘出した。摘出後速やかに自覚症状は軽快し、現在まで新たな虫体の発見は認められていない。摘出した虫体は東洋眼虫を疑い獨協医大熱帯病寄生虫病学講座で解析を行ったところ、形態学的特徴から東洋眼虫は否定的であり他の旋尾線虫目の虫体であるという解析結果であった。

【考察】原因不明の結膜炎で受診し、旋尾線虫目

の寄生虫症であった症例を経験した。結膜炎症例の鑑別の一つとして寄生虫症を念頭にいれて診療にあたる必要がある。

4. *Bacillus cereus*による重篤な眼内炎の1例

自治医科大学 眼科○添 田 めぐみ
渡 辺 芽 里
小 幡 博 人

【緒言】*Bacillus cereus*は芽胞形成性のグラム陽性桿菌であり、土壌や水中に広く生息する。*Bacillus*属は数種類の強い外毒素を有し、外傷性眼内炎を発症すると急速で劇症の経過をたどり予後不良である。今回、外傷性角膜穿孔後に急速に*Bacillus cereus*眼内炎に陥った症例を経験したので報告する。

【症例】症例は71歳男性。農作業中に左眼を竹で突き、外傷性角膜潰瘍が疑われ受傷翌日に当科へ紹介となった。左眼視力は手動弁で、多量の眼脂が認められ、角膜潰瘍部は穿孔しており角膜は全体的に強い浸潤と浮腫で混濁していた。直ちに、セフォゾラン、ポリコナゾールの全身投与とレボフロキサシン、セフメノキシム、ポリコナゾールの頻回点眼とオフロキサシン眼軟膏、ピマリシン眼軟膏による治療を開始した。2日後、角膜擦過物の培養検査から*Bacillus cereus*が検出されたため、セフォゾラン、ポリコナゾールの投与を中止し、バンコマイシンとイミペネムの全身投与とセフトジジム、バンコマイシン、ベタメタゾンの点眼を追加した。炎症がやや沈静化した11日目に角膜パッチ移植術を施行したところ、術中外傷性白内障と水晶体嚢の破損を認め、超音波乳化吸引術と前部硝子体切除術も併施した。現在、角膜混濁は軽快傾向であり、矯正視力は0.05まで改善を認めている。

【結論】急激に進行する外傷性角膜潰瘍・眼内炎は*Bacillus cereus*を疑い、早急に感受性のある抗菌薬を投与する必要がある。

5. 初発翼状片における無切除Z形成術の検討

獨協医科大学付属病院 眼科○伊 藤 栄
妹 尾 正

【目的】翼状片の増殖組織を除去しない術式として無切除Z形成術が報告されている。今回、初発翼状片に対する無切除Z形成術の手術成績を他の術式と比較したため報告する。

【対象と方法】2008年4月から2016年4月までに当院で初発翼状片手術を施行し6ヶ月以上経過を追うことのできた49例65眼。術式で①翼状片切除＋有茎弁移植術（36例51眼）、②無切除Z形成術（13例14眼）の2群に分け、性別、年齢、翼状片の部位、翼状片の大きさ（グレード分類）、再発・再手術の有無、再発までの期間について検討した。

【結果】患者の平均年齢、性別、翼状片の部位、翼状片の大きさを2群間に差はなかった。有茎弁移植術を施行した群では再発は7例（13.7%）。再手術まで必要となったのは4（7.84%）例であった。無切除Z形成術を施行した群では再発は3例（21.4%）。再手術まで必要となったのは1例（7.14%）であった。再発までの期間は全ての症例において術後1年以内であり、術後4ヶ月以内が70%を占めた。

【結語】無切除Z形成術と有茎弁移植術で再発率に差はなかった。

6. ドライアイと診断されていたがん浸潤による神経障害性角膜症の1例

自治医科大学 眼科○高 橋 良 太
坂 本 晋 一
小 幡 博 人

【緒言】片眼性の角膜上皮障害がみられる場合、三叉神経の障害が原因となっていることがある。難治性角膜上皮障害がありドライアイと診断されていたがん浸潤による神経障害性角膜症の1例を経験したので報告する。

【症例】68歳男性。10年前に右口蓋がん（病理組織型：腺様嚢胞がん）に対して手術と放射線治療歴がある。1年前から右眼の違和感を自覚し、複数の眼科にてドライアイ、あるいは、右顔面神経麻痺による角膜障害と診断され、治療受けるも改善せず当院紹介となった。初診時、視力右眼0.07（0.08）、左眼0.1（1.2）、眼圧右眼7 mmHg、左眼14 mmHg。右角膜に帯状の角膜

上皮障害を認めたが、結膜上皮障害はみられなかった。

シルマー試験は右4mm、左5mmと低下していた。Cochet-Bonnet 型角膜知覚計にて、左眼は50mmで知覚があったが、右眼は10mmでも知覚がなく、右眼の角膜知覚が低下していた。既往歴から神経障害性角膜症を疑い頭部MRIを行ったところ、腫瘍の局所再発と三叉神経・顔面神経に沿った浸潤が認められた。

【結論】片眼性の難治性角膜上皮障害を認める場合、角膜知覚検査を行うことが大切である。角膜知覚が低下している際には、三叉神経障害の可能性を考え、頭部MRI等の画像検査が必要である。

7. 治療を承諾せず急性緑内障発作を生じた2例

原眼科病院○大河原 百合子
原 岳
橋本 尚子
本山 祐大
成田 正弥

峯 則子
原 たか子
原 孜

急性緑内障発作は放置すると失明に至る重篤な疾患である。従来発作の予防治療にはLaseriridotomy (LI) が行われてきたが、近年は、隅角開大効果が高い、LIによる角膜内皮障害を阻止する目的で、白内障手術が行われるようになっている。症例1. 原発閉塞隅角症 (PAC) の診断で、前房深度1.46mm、治療を進めたが、本人がその後受診せず。6年後に霧視を訴えて受診した時には眼圧33mmHg、隅角は全周閉塞していた。LIで発作を解除、その後白内障手術を行い、眼圧は無治療で13mmHg、前房深度は3.8mmに改善した。症例2. 白内障と虹彩後癒着があり、IrisBombeの可能性を考えて白内障手術を勧めたが、手術を希望せず、経過観察中に急性の眼圧上昇、66mmHgに達した。LIにて発作を解除し、のちに白内障手術を行い、眼圧は無治療で11mmHg、隅角は耳側37.5度、鼻側36.0度に改善した。

第73回栃木県眼科集談会

平成29年4月16日(日)

於：自治医大研修センター中講堂



特別講演

私とProstaglandin

日本失明予防協会 理事長 増田 寛次郎

1970年、ウサギの虹彩をすりつぶして、脂溶成分を抽出している高尾宗良氏がいました。ウサギの眼にその抽出物質を点眼すると、結膜、虹彩の充血、縮瞳、時間が経つと前房内にフィブリンの析出が起きます。この抽出物が後にProstaglandin (PG) と判明したものです。私は、PGに興味を持ちました。高尾先生の後を引き継いでPGの特性の研究を始め、虹彩からの抽出物の点眼だけでなく、結膜に物理的な刺激を与えても、前房穿刺をしてもPG点眼と同様な眼刺激状態が起ること、前もってPG生合成阻害薬である非ステロイド性消炎薬 (NSAID) を与えておくとこれらの眼刺激症状は抑えられることなどが分かりました。

大学の臨床科の大きな使命の一つは、基礎研究

で得られた成果を臨床で役立てることです。内眼手術は眼に対する物理的な大きな刺激であり、起こる眼刺激状態はまさにPGによって惹起される眼刺激症状と酷似していると考えられます。術後眼刺激症状を抑えるのにNSAIDの術前からの投与は理にかなうことです。それが現在内眼手術の際に使用されている種々のNSAID点眼薬開発につながりました。

さらに思いもかけずPGそのものが眼圧下降薬としても開発され、現在種々のPG関連物質の点眼薬として開発され、緑内障治療薬の第1選択となっていることはご承知の通りです。

基礎研究で得られた成果が臨床に応用されたモデルケースとなりました。

1. 深層学習によるカラー眼底写真からの脈絡膜厚推測

自治医科大学 眼科○反 保 宏 信
高 橋 秀 徳
添 田 めぐみ
高 橋 良 太
伊野田 悟
坂 本 晋 一
新 井 悠 介
井 上 裕 治
川 島 秀 俊

Singapore Eye Research Institute 柳 靖 雄

【目的】機械学習による一般画像分類は、2014年に深層学習が実用化され特徴量を自動で抽出できるようになり、正確性が飛躍的に向上した。2015年には深層学習による人工知能が人間を超える分類正答率を挙げたと報告されている。しかしながら眼底写真の解析への応用の報告は少ない。そこで我々はこの深層学習ニューラルネットワークをカラー眼底写真からの脈絡膜厚推測に応用した。

【対象と方法】2014年から2016年に自治医科大学附属病院にてSS-OCT [DRI OCT-1 (TOPCON, 東京)] と眼底カメラ [VX-10 (KOWA, 愛知)] で中心窩断層像および中心45度のカラー眼底を同日に撮影された1000枚の画像を用いた。網膜下血腫・漿液性網膜剥離・網膜色素上皮剥離、黄斑浮腫は除外した。期間内に6回以上受診した患者のデータは初回から5回のみを採用した。750枚の画像を地球シミュレータの20分の1の能力を持つ自作ワークステーションを用いて24時間深層学習させ、残りの250枚の画像で検定を行った。

【結果】標本標準偏差34 μ mの誤差で眼底写真のみから脈絡膜厚が推測できた。

【結論】深層学習により眼底画像から中心網膜厚の推測が可能であった。

2. 前房内希釈散瞳薬投与の実験的検討

獨協医科大学 眼科○伊 藤 栄

【目的】希釈した0.5%トロピカミド・フェニレフリン塩酸塩（ミドリリンP®点眼薬）前房内投与の影響を家兎で実験的に検討した。

【対象と方法】前房内灌流液（BSS Plus®）で、異なる7種類の濃度に希釈したミドリリンP®液を作成した。調整したミドリリンP®希釈液1mlを用いて各群の家兎前房内を置換し、2分後に4～5mlのBSS Plus®で洗浄した。検討項目は瞳孔径と角膜内皮細胞の組織学的変化とした。瞳孔径は角膜径との比率（瞳孔径/角膜径×100%）を計測した。角膜内皮細胞は走査型電子顕微鏡にて観察した。

【結果】濃度0%群以外の群で投薬直後に60%以上の瞳孔径の拡大が認められた。濃度33%、100%の群で角膜内皮細胞のmicrovilliの微小管構造の変性及び角膜内皮細胞の脱落を認めた。

【結語】臨床で用いる約3%ミドリリンP®希釈液の前房内注入では、角膜内皮細胞への形態学的な影響は認められなかった。

3. BRAF阻害薬ベムラフェニブ使用中にVogt-小柳-原田病を発症した1例

自治医科大学 眼科○伊野田 悟
高 橋 良 太
川 島 秀 俊

がん研有明病院 吉 田 淳

東京医療センター 皮膚科 伏間江 貴 之

自治医科大学 皮膚科 大槻 マミ太郎

【緒言】悪性黒色腫切除不能例に対するBRAF阻害薬Vemurafenib使用中にVogt-小柳-原田病を発症した1例を報告する。

【症例】51歳女性。46歳時、右下腿悪性黒色腫に対する腫瘍切除及び術後化学療法6クール施行、48～49歳時にIFN β 局所注射治療歴があった。50歳時、多発肺転移・骨盤内リンパ節転移を認め、Vemurafenib導入前眼科検査目的に当科初診。初診時特記する眼所見なく、Vemurafenib 1920mg/dayにて導入された。導入47日目に羞明・充血を自覚し当科再診、光干渉断層象

及び蛍光眼底造影で両眼性漿液性網膜剥離、髄液検査で無菌性細胞数増加を認め、原田病と診断。Vemurafenib薬とし、ステロイドセミパルス療法施行。以後、後療法を行い原田病は徐々に改善。後療法中、原病に対し多剤併用化学療法（DAC-Tam療法）が行われた。以後原田病再燃はなかったが、Vemurafenib導入開始約6ヶ月目に原病により死亡した。

【結論】 BRAF阻害薬Vemurafenib使用中に発症した原田病を経験した。Vemurafenib使用中の原田病発症の報告はないが、有害事象の1つと考えられ、今後の報告の蓄積が待たれる。

4. 当院におけるフェムトセカンドレーザーを用いた表層角膜移植の術後成績

獨協医科大学 眼科○中 村 恭 子
妹 尾 正
後 藤 憲 仁
石丸眼科 石 丸 慎 平

【目的】 当院で施行したフェムトセカンドレーザー（FSL）を用いた表層角膜移植術（ALK）の術後成績を評価する。

【対象と方法】 2013年から2015年までにIntraLase iFS（Abbot社）を用いたALKを施行した8例10眼。120°のサイドカットアングルの角膜切開と角膜層状切開を組み合わせたデザインを用いた。レシピエントでは角膜層状切除を適宜追加した。術中・術後合併症、最高矯正視力、自覚乱視度数、フーリエ解析を用いて乱視成分を検討した。

【結果】 術中にデスメ膜穿孔1眼、術後に角膜混濁残存4眼、角膜炎2眼認めた。全症例で視力改善を認めた。自覚乱視は術後一カ月で増加し、その後軽減した。非対称成分、高次不正乱視成分で有意差を認めた。

【結論】 FSLを用いたALKは良好な成績であった。角間縫合、角膜混濁残存、インターフェースの層間混濁、角膜の不正乱視が矯正視力に影響している可能性がある。

5. 骨形成不全疾患患者の青色強膜における角膜の異常

自治医科大学 眼科○渡 辺 芽 里
反 保 宏 信
川 島 秀 俊

埼玉医科大学総合医療センター 小 幡 博 人

【緒言】 青色強膜を生ずる疾患で最も多いのが骨形成不全症である。骨形成不全症に伴う青色強膜の角膜と強膜を前眼部OCT（CASIA、SS-1000®、トーマー）で精査した。

【症例】 38歳女性。幼児期より手足の骨折を繰り返していた。学童期から近視を指摘され、眼鏡やHCLを装用していた。28歳時に骨形成不全症と診断。青色強膜を指摘され、精査目的に当院紹介受診となった。初診時所見：視力右0.04（1.2）、左0.04（1.2）、眼圧右13mmHg、左12mmHg、両眼に青色強膜。角膜曲率半径の中間値は両眼とも小さく、眼軸長は右24.7mm、左24.8mmで、屈折性の強度近視であった。前眼部OCTでは、角膜は全体に菲薄化しており、角膜厚は中心部で、右404μm、左406μmであった。強膜の厚さを測ると、右335μm、左292μmで、正常対照者の同部位よりも薄かった。

【結論】 骨形成不全症に青色強膜を合併する眼では、強膜の菲薄化のみならず、角膜が全体に菲薄化し、角膜曲率半径が小さく、角膜にも異常をきたしていることがわかった。

6. 3焦点眼内レンズの使用経験

いばらき眼科クリニック○大 内 萌 子
鈴 木 美 帆
土 屋 美 美
茨 木 信 博

国内承認された多焦点眼内レンズは、遠近2焦点で、中間距離の視力低下を生ずる。また、ハロー、グレアといった多焦点に特徴的な不具合もある。未承認ではあるが、中間距離の視力向上を目的に3焦点眼内レンズが開発され、構造上不具合も少ないとされている。本研究では、3焦点眼内レンズ（fine vision（PhysIOL社））の遠方から近方に至る視力について、2焦点眼内レンズ（SN6AD1（日本アルコン）、ZMB00（AMOジャパン））

と比較検討した。さらに、3焦点での不都合についても検討した。2焦点では遠方と近方に2峰性に視力良好であったが、3焦点では遠方から近方にいたるまで、視力不良なところを認めなかった。3焦点での不具合として、ハロー、グレアの訴えはなかったが、視力良好にもかかわらず、イライラする、何とも言えない違和感がある等の不定愁訴を訴える症例も見られた。

7. 抗VEGF薬の後発白内障への影響

獨協医科大学 眼科○青 瀬 雅 資
向 井 公一郎
松 島 博 之
岡 安 彬 彦
後 藤 憲 仁
妹 尾 正

【目的】抗VEGF薬の後発白内障に対する影響について実験的に検討する。

【方法】白色家兎に白内障手術を施行し。術直後、3、14、21日目に、片眼に1.25mg/0.05mlの抗VEGF薬（アバスタチン、中外製薬）を（抗VEGF群）、僚眼に0.05mlの生理食塩水（コントロール群）を前房内注射した。術後1,2,3週に前眼部解析装置（EAS-1000, NIDEK）で後囊中央部の散乱光強度を測定した。また、術後3週に眼球を摘出しパラフィン切片を作製後、HE染色をし、光学顕微鏡（BX51, OLYMPUS）で後囊下中央部に増殖した水晶体細胞層の厚さを計測することで後発白内障の程度を検討した。

【結果】術後3週の後囊中央部の散乱光強度と後囊下中央部の厚さは、抗VEGF群がコントロール群に比べ少なかった。

【結論】抗VEGF薬を白内障術後に前房内注射することで、後発白内障の進行を抑制できる可能性がある。

8. 視野解析ソフト FORUM（フォーラム）の使用経験

原眼科病院○橋 本 尚 子
原 岳
成 田 正 弥
峯 則 子

本 山 祐 大
大河原 百合子
原 たか子
原 孜

フォーラムは、構造と機能を照合させて評価をする緑内障解析ソフトである。構造はOCTの網膜神経線維層（RNFL）や網膜神経節細胞層（GCA）の厚みを評価に用い、視野はハンフリー視野計の結果を用いて、コンボレポートを作成し評価する。ハンフリー30-2ではOCTのRNFLと、10-2ではGCAと対応させて評価する。OCTの変化と視野を対応させ照合することで、まだ視野変化が現れていないが構造の変化が見られる場所を確認できる。そのため、緑内障早期から中期の症例の評価に有用であると思われた。緑内障早期から中期の症例に対して、フォーラムを用いて緑内障の診断確率を高め、また、現在の変化の把握や、今後の視野変化の進行予測の手助けになると考えられた。

9. 血液は静脈から動脈へ流れる？—網膜中心動脈分枝閉塞症の血行動態—

伊野田眼科クリニック○釣 巻 穰
吉 田 淳 子
原 口 瞳

【方法】網膜中心動脈分枝閉塞症の血行動態を超広角走査レーザー眼底鏡（オプトス200TX）による蛍光眼底撮影で検討した。

【症例】症例1は81歳男性で起床時に視野異常を自覚、発症12時間以内の検査で右眼上耳側分枝動脈完全閉塞を、症例2は69歳女性で前夜に視野異常を自覚、翌日昼頃の検査で左眼下耳側分枝動脈不全再開通を認めた。

【結果】非閉塞部動脈をA、静脈をV、閉塞部動脈をa、静脈をvとすると、症例1では初めにA→vとV→v、次いでA→aとV→a、さらにv→aの血流があった。症例2では早期にA→vとV→v、A→a、V→aの血流を認めたが、その量はわずかで、その後は遅れて流入したa→vが主となった。

【結論】網膜中心静脈分枝閉塞症では各動静脈の管腔内圧勾配により血流が形成されている可能性がある。

第55回栃木県眼科医会研究会

平成29年1月13日(金)
於：宇都宮グランドホテル



小児の眼底疾患アップデート

産業医科大学眼科学教室 教授 近藤 寛之

小児の眼底疾患は遭遇する機会が少ない眼科疾患のひとつですが、さまざまな疾患があり、原因も先天性の疾患や遺伝性疾患など多様です。それぞれの疾患を詳しく理解するのは少しハードルが高いことかもしれません。しかし、最近の眼底疾患の検査ツールの進歩はめざましく、持てる情報と検査法を上手に活用することで、よりの確な診断ができるようになっていきます。今回は、新しい検査機器による診断のコツや落とし穴を解説します。また、疾患の病態生理が解明され、新しい捉

え方が必要となった疾患についても、その考え方を紹介いたします。

小児の眼底疾患はこれまでは治療が難しいと思われていた疾患が多いのですが、早期診断によって、予防的治療、早期手術、遺伝カウンセリングなど、患者さんの視機能の維持・向上や悩みの軽減に役立つ機会が増えています。皆さまにもぜひ小児眼科の「診療力」のアップをしていただきたいと思います。



黄斑部手術

岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科眼科学分野 教授 白 神 史 雄

まず、黄斑円孔、黄斑上膜、網膜分離症などの黄斑部手術を紹介する。その後、層状黄斑円孔、黄斑下血腫、難治性黄斑円孔、抗VEGF療法に抵抗する難治性糖尿病黄斑浮腫などに対する硝子体手術による外科的黄斑再構築について我々の開発した新しい術式を紹介する。層状黄斑円孔においては、円孔エッジにある黄斑色素を含んだ網膜上組織を除去せずに、円孔内に戻す操作を重要で、正常な黄斑形態に近づけることが可能です。黄斑下血腫に関しては、38G/25Gの針を用いて低濃度の組織プラスミノゲンを網膜下の血腫内に注入し、空気で眼内を置換することによって黄斑から

下方に血腫を移動させてしまう方法である。難治性黄斑円孔に関しては、残存したことから遊離ILM片を円孔内に移植し、通常通りのガス注入、うつ伏せによってILMを円孔内にとどめ置き、それにミュラー細胞が増殖して、円孔を閉鎖してしまう方法である。難治性黄斑浮腫に関しては、38/25針を用いて主に浮腫のある部分の網膜下にBSS+を注入し、網膜内の膠質浸透圧を低下させ、網膜色素上皮を介して浮腫液吸収させると同時に、網膜内のサイトカインも除去してしまう。要は網膜下をクリーニングするのである。

第39回獨協医科大学眼科・栃木県眼科医会合同講演会

平成28年7月15日(金)

於：獨協医科大学臨床医学棟10階講堂



眼科外来での急変対応～もしもの時に備えて～

獨協医科大学越谷病院 救命救急センター 教授 松 島 久 雄

高齢化社会が進み、さまざまなリスクを伴う患者様の受診が増加しています。眼科外来は他科と比較して患者数が多く、高齢者を診察する機会が多いことも特徴の一つです。その結果、多くのリスクと毎日直面していることになります。診療中に患者様の調子が悪くなり、診療を中断しなければならない場面に遭遇してしまう可能性は高く、対応に苦慮した経験は多少なりともあるのではないのでしょうか。急変対応を求められた場合、どの

様な点に注意し、どの様に対応すべきなのか。状態が安定しない場合、どのタイミングで救急通報し、応援が駆けつけるまでに何をしておくべきなのか。これらは最悪の事態を避けるために最低限身につけなければいけないスキルです。外来での急変時に求められる対応、見逃してはいけないサイン、そしてもしもの時の心肺蘇生法について、今回はわかりやすく解説します。



スポーツと眼科学

医療法人社団慈眼白山会 えだがわ眼科クリニック 理事長 枝 川 宏

最近のスポーツ医学は以前のように内科や整形外科だけでなく、婦人科・歯科・皮膚科など多くの分野も関わっています。しかし、眼科とスポーツ分野との関わりは少なく、わが国では積極的に選手の眼を診察する眼科のドクターはほとんどいないのが現状です。したがって、選手の眼の安全は必ずしも守られているとはいえず、選手の競技能力も十分に発揮されているとはいえません。また、巷では選手の視覚を向上させるとするエビデンスが不明確な機器や本の宣伝も多くなって

て、スポーツ現場だけでなく一般の人々にも混乱が起きています。このようなことから、眼科医がスポーツ分野に果たすべき役割は今後ますます重要になってくると思われます。

今日は我が国のトップ選手のデータと他分野の研究成果を提示して、スポーツにおける眼の重要性とスポーツ眼科の必要性についてお話したいと思います。また時間があれば国立スポーツ科学センターとナショナルスポーツセンターについてもお話したいと思います。

第24回栃木県眼科セミナー

平成29年2月24日(金)
於：宇都宮グランドホテル



黄斑機能とその評価

奈良県立医科大学眼科学教室 教授 緒 方 奈保子

加齢黄斑変性、糖尿病網膜症や網膜静脈分枝閉塞症に伴う黄斑浮腫など、黄斑機能に障害があると著しい視力低下をきたす。近年はこれらの疾患に対して抗VEGF薬治療が第一選択とされることが多くなった。その治療効果の評価には光干渉断層計（OCT）が有用である。OCTによる形態的所見から黄斑の機能評価や治療効果の判定、さらに治療効果も予想し評価することができる。また、

OCTは非侵襲的で短時間でできる眩しくない検査であり小児でも実施可能である。小児不同視弱視眼では解剖学的な異常はないとされてきた。しかし、OCTで詳細にみると黄斑部の網膜、脈絡膜に正常眼と構造が異なることがわかってきた。さらに治療で視力が改善すると網膜の構造に変化がみられる。黄斑の機能とその評価について最近の知見を紹介したい。

第26回下野眼科談話会

平成29年3月10日(金)

於：宇都宮グランドホテル



急性網膜壊死の診断基準と 疫学調査研究について

東京医科歯科大学眼科 講師 高 瀬 博

急性網膜壊死は、単純ヘルペスウイルスまたは水痘帯状疱疹ウイルスの網膜感染による壊死性網膜炎であり、視力予後は極めて不良である。その治療法には定まったコンセンサスが確立されているとは言い難く、本症患者の視力を守るために我々がすべき最も重要な事は、早期の診断と治療開始である。そのため我々は、厚労省の助成を受けて急性網膜壊死研究班を立ち上げ、急性網膜壊死の診断基準を作成し、また本症診療の現状に関

する全国調査研究を行った。これらの結果を基に、本講演では急性網膜壊死の我が国における疫学、基本的な臨床像、さらに様々な病型のバリエーションを紹介し、日常診療において本症を見逃さないためのポイントを概説する。加えて、我が国における急性網膜壊死の治療の現状を紹介し、より適切な治療のために我々がすべき事は何かを考えていきたい。



今、なぜか、VZV

総合新川橋病院 副院長 薄井 紀夫

1971年、大阪で水痘に罹患した3歳男児の水疱液から分離された水痘帯状疱疹ウイルス（varicella zoster virus: VZV、岡株）は、現在もWHOが推奨する唯一のワクチン株として世界中で用いられています。わが国はワクチン開発国であるにもかかわらず、ずっと有料（数千円！）の任意接種ワクチンのままでしたが、2014年10月からようやく国が定める無料の定期接種ワクチンへと格上げされました。これにより、これまで50%に満たなかった健常児への接種率は飛躍的に向上し、わが国のVZV感染症は大きく様変わりするはずです。その変化は、20年前から定期接種化が導入された米国を参考にすれば、①水痘の頻度ならびに重症化の減少（ワクチンの直接的効果）、②短期的な帯状疱疹の増加（VZV既感染者は水痘罹患者に

接するとVZVに対する免疫賦活がなされ帯状疱疹を発症しにくくなる。したがって水痘が減ることによって帯状疱疹は増加する）、③長期的な帯状疱疹の減少（水痘ワクチン世代は、野生株水痘感染者に比べ体内で増殖するウイルス量が少ないために潜伏ウイルスも少なく帯状疱疹の発症は減少する）と予測されます。

水痘ワクチンによる影響は、当然、多彩な眼合併症を生じる眼部帯状疱疹やVZV再活性化の特殊な表現型であるVZV性虹彩毛様体炎や急性網膜壊死にも反映されるはずですから、眼科医は今しばらく、増加あるいは重症化するVZV感染症に注意しなければなりません。

今さらですが、なおさら知っておきたいVZVについて、一風変わった講演をします。

第10回栃木県内科眼科関連疾患懇話会

平成28年10月20日(木)

於：宇都宮グランドホテル



どうする？糖尿病黄斑浮腫の治療

東京医科大学八王子医療センター眼科 教授 志 村 雅 彦

新生血管の発症による増殖病変を主体とする増殖糖尿病網膜症については、全身管理の改善と、網膜光凝固や硝子体手術などの局所治療により治療予後は大幅に向上した。一方、視機能を司る黄斑部に病変が限局する糖尿病黄斑浮腫については、その病態さえ不明な点が多いまま評価の定まらない治療法が乱立しているのが現状である。糖尿病黄斑浮腫の原因は、想定されるだけでも血管壁の障害や変形に伴う透過性亢進や、網膜細胞の

機能低下や組織浸透圧の変化による膨化、硝子体牽引、さらには組織の慢性炎症などが複雑に絡み合っている。これに対し現状の治療は古典的な網膜光凝固、硝子体手術であり、近年では抗炎症ステロイドと抗VEGF抗体の局所投与が加わったものの、治療の適応については議論が始まったばかりである。本講演では現状における糖尿病黄斑浮腫の病態とその治療適応について例を挙げながら示していきたい。



糖尿病管理の現状と今後の課題

川崎医科大学内科学 特任教授 加 来 浩 平

糖尿病患者は増加の一途をたどっている。有病率は中高年以降で高く、受診患者も60%以上を高齢者が占める。患者の高齢化が進む一方で、非高齢者で受診率が極めて低いことは憂慮すべき点である。治療目標達成に向けた疾病管理に薬物療法が果たす役割は大きい、早期介入、早期併用は重要なポイントである。本邦では、現在作用機序が異なる7種類の経口血糖降下薬が使用可能である。中でもDPP4阻害薬は、今や薬物療法の主役として幅広く使用されている。

最近登場したSGLT2阻害薬は過剰なグルコースの尿中排泄させるインスリン作用から独立した作用機構をもつ新規血糖降下薬である。糖毒性の改善に伴いインスリン抵抗性やインスリン分泌能が改善する。エネルギーロスが体重減少をもたら

し、主に内臓脂肪の減少が期待できる。血糖・血圧・脂質改善効果に加えて体重抑制を可能にする反面、尿糖増加による尿路・性器感染症、SU薬やインスリンとの併用時の低血糖、内因性インスリン分泌の著明低下者でのケトアシドーシスのリスクなどが留意点としてあげられる。これらはいずれも予測が可能であり、適切な患者のトリージによって回避は可能と思われる。

糖尿病薬物療法の適応を考える際には、常にリスク（安全性）とベネフィット（有効性）のバランスを考慮すべきであり、しかも患者毎に個別化されねばならない。長期にわたる糖尿病管理において、患者QOLに配慮した治療法、治療薬の選択は医療者が常に留意すべきことである。

第6回栃木ぶどう膜炎カンファレンス

平成28年10月20日(金)
於：宇都宮グランドホテル



VEGF阻害薬の理論と 糖尿病黄斑浮腫に対する実践

北海道大学大学院医学研究科眼科学分野 教授 石田 晋

糖尿病網膜症に合併する黄斑浮腫は、視力低下に直結する病態である。近年、糖尿病黄斑浮腫に対する治療は大きく変革している。硝子体手術の進歩に加えて、新しい診断機器として光干渉断層計（OCT）の開発により浮腫性変化の詳細な定量が可能になった。さらに、分子病態の解明により、抗炎症ステロイド薬や血管内皮増殖因子（VEGF）阻害薬による薬物療法が導入された。これらは、糖尿病網膜症の診療を担当する眼科医にとって画期的な進歩である。

黄斑浮腫の病態解明における大きな突破口は、血管内皮増殖因子VEGFの存在が1989年に報告されたことによる。VEGFはそもそも1983年に血管透過性因子VPFとして発見された分子と同一のものと判明した。血管閉塞性網膜疾患において視力低下につながる二つの主要病態は浮腫と血管新生であるが、浮腫にはVPFとして、血管新生にはVEGFとして関与するため、抗VEGF療法は有力な治療戦略として一定の成果を挙げている。VEGF分子に結合しその生物活性を阻害する方法は複数あるため、これが既存のVEGF阻害薬の多様性につながっている。主な阻害薬の基本構造だけを見てもranibizumabは中和抗体断片、afiber

ceptは2つのVEGF受容体融合タンパクであり、そもそも創薬デザインから大きく異なる。これらのVEGF阻害薬について、その薬剤特性の相違点をしっかり理解しておくことが必要と思われる。

VEGF研究に並行して、糖尿病網膜症と炎症との関連を解析する一連の研究により、糖尿病網膜症における浮腫病態は、VEGFが白血球を誘導した炎症の結果であると判明した。さらに現在では、VEGFはさまざまな炎症関連分子のネットワークの中で作用しながら炎症を惹起する炎症性サイトカインであることも判明し、血管閉塞性網膜疾患に合併する浮腫病態の少なくとも一部は炎症の結果と捉えられるようになった。したがって、VEGFの関与する炎症病態としての黄斑浮腫にステロイドで介入する妥当性も理解できる。このような背景により、抗炎症ステロイド薬の黄斑浮腫に対する臨床応用が広まり、特にトリアムシロンの有効性が数多くの短期報告で示された。しかしながら、これらの薬物療法はいつまで続けるのか、硝子体手術やレーザー治療といかに組み合わせて行くか、などといった至適な治療プロトコルを検討していくことは今後の課題である。

第5回 栃眼医獨協眼科病診連携の会

平成28年11月18日(金)

於：宇都宮グランドホテル



外来で行う眼腫瘍手術

福島県立医科大学 眼科学講座 准教授 古 田 実

「眼瞼の腫瘍は、直接見て触れられるので、見た目診断がしやすい」という意見には一理あるが、かなりの確率で診断するためには、それなりに難しい。なぜかという、皮膚だけに限っても表皮、基底層、真皮があり、付属器として毛包、汗腺、脂腺、血管や神経終末などがある。これらすべてに先天病変、炎症性変化、良性腫瘍、悪性腫瘍が数種類ずつある。要するに種類が多いのだ。それ故ちょっと勉強して診断を当てると純粋に嬉しい。覚え方はやはり、オーソドックスに頻度と色

別で整理するのが最も効率的である。自分の臨床診断が当たっているかを確認するには自分で切除するか紹介するかである。大学に紹介しても、一般的に地方の大学病院は日帰り手術室の整備や、中央手術室を日帰り手術への開放には消極的である。当院では紹介当日に、抗VEGF薬注射の合間に外来手術を行うことが多いが、病診連携や患者の利便性を考えながらの利点や注意点も考えてみたい。



網脈絡膜疾患に対する画像診断技術の進歩

徳島大学大学院医歯薬学研究部 眼科学分野 教授 三田村 佳典

最近のテクノロジーの急速な進歩は網脈絡膜疾患の診断・治療に大きな変革をもたらしている。OCTをはじめとする眼底画像診断の進歩は、これまでとらえることができなかった眼底所見を明瞭に提示することを可能にし、網脈絡膜病変の検出や病態の解明、治療効果の定量化に極めて有用なツールとなっている。

OCTはOCT2000に始まり、現在ではspectral-domain OCTが主流となり飛躍的に解像度が向上した。Time-domain OCTで観察されていた視細胞内節外節境界（Ellipsoid zone）については以前から黄斑円孔などの黄斑疾患で解析が行われて

きたが、近年はspectral-domain OCTを用いて、より詳細な黄斑形態の解析がなされるようになった。

また、近年、enhanced depth imaging OCT（EDI-OCT）や長波長光源を用いたswept-source OCT（SS-OCT）により脈絡膜などの深部組織の断層像が可視化できるようになり、脈絡膜の生理や病態に関する多くの新しい知見が報告されてきている。我々の研究内容を含めてOCTを用いた網膜・脈絡膜構造解析の最新の知見についても紹介したい。

第9回下都賀眼科診療セミナー

平成28年9月23日(金)

於：宇都宮東武グランドホテル



緑内障の定量評価

慶應義塾大学医学部眼科 助教 芝 大 介

緑内障診療における視神経障害の程度の評価は2つの点で極めて重要である。1つめは緑内障視神経症の有無を診断することであり、2つ目はその経時変化を評価することである。1つめの診断に関してはあくまで眼底検査の補助でしかない点を改めて強調したい。2つ目の経時変化の評価としては進行の有無、進行速度の推定があげられる。

この分野においてはまだ十分に確立されたエビデンスはないが、診断とは異なり、眼底検査よりはむしろ視野検査・OCTといった比較的新しい検査が有用と考えられている。本講演では近年の研究成果をもとに、将来にも役立つ今行うべき緑内障評価法についてご参集の先生方と一緒に考えてみたい。



最近の角膜の外科治療

日本大学医学部眼科 主任教授 山 上 聡

角膜移植の術式としてはボーマン膜から内皮層までの上皮細胞以外の全層を移植する全層角膜移植術中心の時代から角膜内皮移植術(DSAEK)や深層層状角膜移植術(DALK)などが行われるようになってきた。術式が増えたということはその手術適応も従来通りの考え方では対応できなくなっている。角膜移植と一緒に必要な白内障

手術はその難易度が上がってきている。また角膜輪部上皮に存在する角膜上皮幹細胞疲弊症眼に対しては培養自己輪部上皮細胞シート移植や培養自己口腔粘膜上皮シート移植などの再生医療が行われてきた。このような背景を踏まえて術式選択の幅が広がった角膜の外科治療について概説する。

第22回栃木県眼科手術談話会

平成29年5月19日(金)

於：宇都宮市医師会館5階講堂



特別講演

手技と知識で乗り切る、 白内障手術合併症・難症例

大内眼科院長 大内 雅之

本邦において、白内障眼内レンズ手術の多くは、硝子体術者のいない施設、後眼部手術を行っていない術者によるものであり、全ての前眼部術者が適切な合併症処理を習得することは、眼内レンズ手術の増加と共に急務である。

本講演では、まず破囊処理の原則と基本手技を、順を追って解説する。具体的には、切開創の拡大、残存核の娩出、硝子体処理と残存皮質の除去であるが、ここでは、核、硝子体、皮質の相互関係を強調したい。さらに、この原則の上で、状況に応じた、選択的、応用的手技を解説する。

術中合併症は、発生前後に様々な因子が関与し、その状況や重症度にはバリエーションが存在するため、最終目標のイメージと、どこまでの拡大手技を取るかの判断も瞬時に求められる。前述の破囊処理の原則に持ち込むために、追加的手技を要するケースもあれば、逆に、手技を省略・簡素化して、より低侵襲で通常の症例と同等の結果を得られるケース、あるいは、やや異なったアプローチで、対応がより容易になるケースもある。

本講演では、これら応用的手技も多数紹介することで、術者の引き出しを増やしていただきたい。

一般演題

1. 白色白内障と前囊切開

国際医療福祉大学塩谷病院眼科○上 田 昌 弘
超音波白内障手術を安全に実施するためには、前囊切開でCCCを成功させることが極めて重要である。しかしながら白色白内障では、前囊の視認性が極めて悪く、また水晶体が膨化して前房が浅い症例、皮質の液化をきたした症例など、CCCの完成が難しい場合がある。現在、白色白内障の手術では、何らかの色素を使用して前囊を染色する方法が広く行われているが、それでも前囊切開のコントロールが難しい症例が存在する。

症例は、68歳男性。両眼の視力低下を主訴に、平成25年2月28日、当科を初診した。初診時視力は、右=0.01 (n.c.)、左=30cm/手動弁。両眼とも前房は極めて浅く、膨化した白色白内障を認めた。その後、同年3月8日に左眼、3月18日に右眼の白内障手術を施行した。両眼ともトリパンプルーによる前囊染色を行い、粘弾性物質を前房内に注入したが、前房はあまり深くならなかった。27G鋭針で作成したチストームにて前囊切開を開始したところ、液化した皮質が流出してきた。27G鈍針にて、液化した皮質を吸引しながら前囊切開を継続したが、切開がうまくコントロールできず赤道部に流れてしまい、結局can-opener法となった。発表では、左眼の手術ビデオを供覧しながら、CCCを成功させるための具体的な方法についてディスカッションを行った。

2. 小児眼瞼手術の自験例

獨協医科大学眼科○宮 下 博 行

【目的】眼瞼下垂症に対する前頭筋つり上げ術では、つり上げ材料として自家大腿筋膜、ゴアテックス人工硬膜、ナイロン糸など、いくつかのものが提案されている。今回、小児の眼瞼下垂症に対して、ナイロン糸を用いた前頭筋つり上げ術を施行したので報告する。

【症例の概要】初診時年齢：4歳11ヶ月。自然頭位は頸部後屈位(chin-up)となっており、眉毛挙上がみられた。頭位矯正下では両眼とも角膜頂点反射がみられなかった。挙筋機能は右4

mm、左5mmと不良であった。

【経過】5歳7ヶ月時、両眼瞼下垂症手術(前頭筋つり上げ術)を全身麻酔下に施行した。つり上げ材料に5-0ナイロン糸(モノフィラメント)を使用した。術後の自然頭位は改善し、頸部後屈位(chin-up)はみられなくなった。眉毛挙上にてMRD-1は両眼2-3mmとなった。

【考察および結論】先天性眼瞼下垂症は、眼瞼挙筋の先天性な変性が原因であるため、挙筋の可動域は小さい。挙筋前転術による改善効果は得られにくいと考え、前頭筋つり上げ術を施行した。つり上げ材料としてナイロン糸を選択したため、大腿筋膜など自家組織を採取する必要性がなく侵襲が小さいことや、ゴアテックス素材の人工硬膜に比べて安価に行えるなどのメリットが得られた。将来的にナイロン糸を抜去すれば、別のつり上げ材料を用いての眼瞼下垂症手術が可能である。

3. Double-Needle TechniqueによるIOL強膜内固定術の自験例とコツほか

たかはし眼科○高 橋 雄 二

ダブルニードルテクニックは、特殊な道具や準備を必要としない眼内レンズ強膜内固定術である。この術式は、術前検査にて予期できない突発的に起こる後囊破損や核落下、チン小帯の断裂に対し、比較的短時間でできる眼内レンズの固定方法であると考えられる。

昨年5月より、当院にて白内障手術中に突発的に起きた水晶体核落下例に対し、この術式を数例施行した。今回の発表では、私が昨年初めてこの術式を施行したビデオを供覧した。初めての症例ということで、私の拙い手技を公開することになったが、ビデオを供覧しながら、最初にこの手術を行う際に気をつけるべき事を、出席者全員で考え議論した。フランジを作成する際、ループを眼内レンズのセンタリングや深さにあわせて適切に切除して固定すると、術後の眼内レンズのチルトや遠視化を防ぐことができる。



平成28年度 公益社団法人日本眼科医会 定例代議員会

代議員 吉 澤 徹（鹿沼市）

- 日時：平成28年6月26日(日)9時～15時30分
- 場所：ザ・キャピトルホテル東急「鳳凰」
- 出席者：本県より 原 裕 吉澤 徹
- 代議員総数143名、出席代議員140名で、会は成立した。
- 定款第26条第2項により、議長：川野晃嗣（鹿児島県）、副議長：麻薙薫（千葉県）が指名された。
- 定款第29条により、議事録署名人として、中村丹雄（茨城県）、滝本久雄（埼玉県）が選任された。

高野会長挨拶

- 1）平成28年4月14日に発生した熊本地震について。今回の震災では、東北地震と違い、すぐに現地の眼科医会長との連絡も取れ、地域の眼科医療も正常に戻ったため、ビジョンバンの派遣はしなかった。熊本眼科医会の避難所診療報告については、既に常任理事の皆良田研介氏が日本の眼科第87巻第5号に投稿した通りである。現地の会員の活動に感謝し、被災からの速やかな復興を祈念する。
- 2）本年度の活動方針として、特に重要な以下の3点を掲げておきたい。
 - (1)本会の安定した事業の推進と予算運営。執行部の全国へのブロック訪問については、積極的に行っていく予定であるが、費用負担については、各ブロックからも半額支出をお願いする。その他日本眼科医会常任理事の各県での講演会なども引き続き行っていきたいので、各県で工夫して依頼してほしい。
 - (2)勤務医対策について。現在本会会員数では、勤務医数が増え続け、全体の54.7%を占めるようになっている。今後勤務医が本会活動に参加しやすい環境を整えていく必要がある。そのために本会常任理事に勤務医担当の理事

を増員し、活動していく予定である。

- (3)平成30年度診療報酬改定に向けて。次回の改定では、介護報酬とのダブル改定がされる予定であり、今後の医療・介護施策において極めて大きな節目となるものと思われる。日本眼科社会保険会議などを通じ、幅広い活動を通じ、改定内容の改善に努めていく予定である。
- 4）ビジョンバンについて。今年3月で災害復興事業計画が終わり、運用主体と所有権は宮城県眼科医会から日眼医に移譲された。それに伴い、本会から約50万円、関係諸団体から合わせて300万円程度の年間予算が見込まれる。プロジェクトビジョンバン委員会を通じて活動方針を決めていく予定である。今年の8月には、パラオにおける医療支援活動として、自衛隊の輸送艦に搭載され現地におもむき、眼科診療を行う予定である。
- 5）CL問題について。コンタクトレンズ適正化委員会を年に4回開催し、行政、日本CL学会、日本CL協会とも協議して対策を進めていく予定である。
- 6）眼科健診事業について。来年度から、全国で3カ所程度のモデル事業地区を選定し、健診を開始する。その後、厚労省に報告書を提出する予定である。
- 7）メタボ、ロコモなどに倣う、眼科領域でのバズワードの募集、勤務医向けのメーリングリストへの参加呼びかけ、など

議事について

第一号議案 平成27年度公益社団法人日本眼科医会 会務ならびに事業報告の件

第二号議案 平成27年度公益社団法人日本眼科医会決算の件

第三号議案 公益社団法人日本眼科医会顧問、参与委嘱の件

定款44条により、顧問10名、参与8名が委嘱された。

第四号議案 平成29年度公益社団法人日本眼科医会会費賦課徴収の件

例年通り、A会員 45,000円、B会員 15,000円、C会員 7,000円となる。

第五号議案 公益社団法人日本眼科医会役員増員選挙の件

勤務医対策理事として、今本量久代議員（大阪府）が推薦され、満場一致で選任された。
以上の議案は定款に基づき、承認された。

物故会員報告の件

27年度の物故会員85名の氏名が報告され、出席者全員が起立し、冥福を祈って黙祷を捧げた。（当県では斎藤武久先生、早津尚夫先生、山川高子先生が該当）

表彰の件

表彰規程により、会長表彰68名、感謝状6名、会長賞7名の表彰が行われた。（当県では原たか子先生、牧野伸二先生が会長表彰）

ブロック代表質問について

今回の代表質問では、27題の質問が各ブロックより提出されたが、当県からは、障害者支援法に基づく医師意見書に、眼科領域で記載ができるのは現在最後の特記事項のみとなっており、視覚障害という重要な項目が入っていないのはいかなものか、という質問がなされた。これに対しては現在のところ公衆衛生部ではそれに着目した活動は行っていない事、また、障害者総合支援法による障害支援区分は、生涯の重さや種類ではなく、日常生活にどの程度の支援が必要であるかを知るためのものであり、実際の判定には介護保険認定とはほぼ同じく、調査員の報告と師意見書の特記事項の内容が従来から重視されている事から、まず特記事項の有効な書き方を周知してほしい事、また調査項目内容への検討も検討していきたい、との回答を得た。

その他、色覚検査、運転免許更新時の視野検査の導入、新専門医に対する対応、CL処方箋の法制化問題、ビジョンバン運用問題など、日眼医が主に取り組んでいる事業計画について、幅広い質問についての答弁が行われた。

BAUSCH + LOMB

Bio true

「ヒトの眼が持つ健康と快適のしくみ」をコンタクトレンズに。

ボシュロム

1日使い捨てソフトコンタクト

バイオトゥルー ワンデー

独自素材「ハイパージェル™」採用

BAUSCH + LOMB

Bio true

ONE day lenses

Refreshed by the

technology of your eyes.

○コンタクトレンズは高度管理医療機器です。必ず眼科医に相談し、検査・処方を受けてお求めください。○コンタクトレンズを正しく快適にご使用いただくためには、ご使用前に必ず添付文書をよく読み、正しくお使いください。

販売名：バイオトゥルー ワンデー 医療機器承認番号：225008ZX00177000

www.biotrue.jp

ボシュロムジャパン株式会社

- 26 -

平成29年度 日本眼科医会総務・経理合同常任委員会

日本眼科医会総務常任委員 吉 澤 徹（鹿沼市）

●日時：平成29年5月14日(日)10時～14時30分

●場所：日本眼科医会事務所

〒105-0014 東京都港区芝2-2-14

一星芝ビルディング7階

高野会長挨拶

川野明嗣議長の挨拶

今回は本会と社会保険委員会が同一日に行われる事になってしまい、経理常任委員のうち、北海道、東京地区から計2名の欠席者が出た。それぞれオブザーバーとしての代理人に出席いただいている。

高野繁会長の挨拶

1. 今回、日程の都合上やむをえなかったとはいえ、会議日程の重複により2名の欠席者が生じた。今後の運営に対しては役員目線に陥らないよう、より一層会員目線での運営を心がけていきたい。
2. 日本の眼科4月号の巻頭言にあるように、以下の3項目を今年度の重要活動項目としたい。
 - (1)公的な眼科健診制度の構築。本年度より、世田谷区、仙台市、松江市の3カ所で、眼科健診のモデル事業が開始される。結果をもとにして、来年度には厚労省に報告書を提出する予定である。
 - (2)C L問題について。昨年度4回開催されたC L処方箋、適正販売に関する検討会の内容をもとに、年度早々に要望書を厚労省に向けて提出し、何らかの局長通知（販売規制に繋がるもの）を引き出したい。
 - (3)平成30年度診療報酬改定に向けて。日本眼科社会保険会議で議論された内容を、保険局医療課にしっかり伝えていきたい。また、秋にまとまる医療経済実態調査の結果や、年末に

決定する改定率などにも注意して、医療課の動向に対応していく予定である。

議題

1. 平成28年度日本眼科医会事業報告（案）について
2. 平成28年度日本眼科医会決算について
3. 平成29年度事業計画について
4. 平成29年度日本眼科医会予算について

以上の議題について、出席者による検討を加え、賛成多数による承認を得た。

5. 平成30年度会費賦課徴収について

昨年度と同じく、A会員 45,000円、B会員 15,000円、C会員 7,000円となる。

6. その他

- 1) 代議員会常任委員会の代理出席等の申し合わせについて
原則として代理出席は認めない。やむを得ない場合は当該委員による委任状と、当該ブロックのブロック長の推薦状の提出により、代理人の出席を認める。ただし、その場合も、議決権は与えられない。
- 2) ブロック代表質問制実施の要望書について
質問は各ブロックでまとめ、合計3問まで、最大でも5問までとし、4問以上は優先順位をつけて提出するように。
また、質問事項は事務処理の都合上、代議員会の22日前、6月2日(金)の午前12時に日眼医事務局必着とする。
- 3) 代議員会ガイドブックについて
運営常任委員会は、過去3年間の代議員会の

まとめとして、「代議員会ガイドブック」を作成した。ブロック代表質問作成時の参考とする他、代議員間の意思疎通を円滑に行うためのツールとして使用していただきたい。

ただし、ガイドブックは日本の眼科のような公式文書ではなく、日眼医の一般会員に対して責任を負うものではないため、速記録などに引用した箇所がある場合には、ゲラ刷りの段階で

「ガイドブック何頁のB-073で記載されている」といった引用は削除され、いつの質疑ですでに議論されている、といった表現に変更する必要がある。

4) 次回開催について

平成30年5月13日開催予定である。(場所は日本眼科医会事務所)



機械のトラブルから
ご開業のお手伝いまで
あらゆるニーズに
お応えします。

SINCE 1930

眼科・光学医療器械専門

株式会社 志賀医科器械店

本社 新潟県新潟市東区竹尾713-3
〒950-0862 TEL.025-272-0391 FAX.025-272-0673
E-mail: shigaika@shigaika.com

前橋営業所 群馬県前橋市石倉町5-5-12
〒371-0841 TEL.027-256-8033 FAX.027-256-8034

栃木営業所 栃木県佐野市富岡町193-5-102
〒327-0844 TEL.0283-27-1245 FAX.0283-27-1247

福島営業所 福島県郡山市富田町字上ノ内7-2
〒963-8041 TEL.024-962-7739 FAX.024-962-7740

仙台営業所 宮城県仙台市若林区六丁の目中町28-20-102
〒984-0012 TEL.022-355-6065 FAX.022-355-6067

東京営業所 東京都豊島区南長崎5丁目33-3
〒171-0052 TEL.03-3565-6328 FAX.03-3565-6338

平成28年度 都道府県眼科医会連絡会議

代議員 原

裕 (大田原市)

- 日 時：平成28年10月16日(日)9時～14時
- 場 所：東京コンファレンスセンター・品川

議 題

【1】執行部提出議題について

1. 平成29年度「定時代議員会」について（総務部管理）

平成29年度の代議員会は、定時代議員会のみで開催となります。定時代議員会では主に「平成28年度事業報告」「決算」を審議していただき、さらに、「平成29年度事業計画」「予算」の報告も合わせて行います。平成29年度定時代議員会に向けての日程、代議員会に上程する議案などについて説明させていただきます。

2. 平成29年度「都道府県眼科医会連絡会議」について（総務部管理）

平成29年度に代議員会が一回になることにより、都道府県眼科医会の先生方と執行部の連携が希薄化しないよう、財務の許す範囲内で情報共有や意見交換の機会を確保したいと考えています。その一つの方法として、都道府県眼科医会連絡会議の運営を工夫いたします。各都道府県会長の先生方に実施させていただいた本会議の運営に関わるアンケートの結果などをお示いたしますので、ご意見をいただきますようお願いいたします。

3. 公益法人事業協力金（寄付金）募集について（経理部）

日本眼科医会は国民の保健・福祉に寄与することを目的とする団体で、平成24年4月からはより一層の社会的貢献を背負う公益社団法人としての一步を踏み出しました。今後は事業の充実・発展のために善意の寄付を会員のみならず、広く社会から募り、それを原資に事業を支えていくことが課せられた課題であり、寄付文化の

醸成に向けての積極的な寄付募集は本会の価値を高めることとご理解をお願いする次第です。

4. 眼鏡士問題について（医療対策部）

眼鏡士問題について、最近の情報を共有する。現在、公益社団法人日本眼鏡技術者協会は、「認定眼鏡士」制度を運用しているが国家資格ではない。このため、「眼鏡技術者国家資格推進機構」として「職業能力開発促進法」に基づく国家検定制度である「技能検定制度」を活用した「技能士」という国家資格を目指している。「技能士」とは、技能検定に合格した人に与えられる国家資格で現在127の職種があり、技能検定に合格しないと名乗ることはできない名称独占資格である。

5. 「C L処方せん、適正販売等に関する検討会」について（医療対策部）

これまでともすれば縦割り行政の弊害で、十分なる成果が得られなかったC Lの諸問題について、厚労省3局（医政局、医薬・生活衛生局、保険局）と眼科側3者（日本眼科医会、日本C L学会、日本C L協会）が一堂に会して議論する検討会が立ち上がった。その内容と展望を解説します。

6. 新専門医制度について（学術部）

2014年日本専門医機構が発足し、2017年日本専門医機構が行う新しい専門医制度への移行が始まります。現在の公益財団法人日本眼科学会認定眼科専門医は、一定の基準をみたしていれば日本専門医機構認定眼科専門医に移行できることが決まりました。

眼科では2017年度学会認定専門医更新者から移行手続きが始まります。移行措置の期間（2017年度から2021年度）は学会認定専門医を選択することもできます。そこで一度学会認定専門医を選択したのち、その次の更新時に機構認定専

門医を選択することができます。この方法では、周囲の状況をみながら機構認定専門医に移行できるため、時間的にも余裕ができます。2026年度までは学会認定専門医資格となります。この間は学会認定専門医と機構認定専門医が混在することになりますが、それ以降学会認定専門医は眼科専門医でなくなってしまいます。

今回の機構認定専門医の更新では、臨床証明、専門医共通講習、眼科領域講習で眼科医会が関係する予定です。臨床証明は、従来通り都道府県眼科医会会長印をもって証明します。学会、医師会、眼科医会の入会は義務付けできませんのでご注意ください。専門医共通講習、眼科領域講習でも、都道府県眼科医会のご協力を宜しくお願い申し上げます。

【2】執行部報告事項について

1. 総務部管理

- 1-1) 会員福利厚生プランについて
- 1-2) 役員講師派遣について

2. 総務部企画

- 2-1) 平成28「医学生、研修医等をサポートするための会」について

3. 経理部

- 3-1) 日眼医の財務状況について

4. 公衆衛生部

- 4-1) 平成28年度「目の愛護デー」行事について
- 4-2) 「目の電話相談」事業について
- 4-3) 「視覚障害認定基準の改定に関する取りまとめ報告書」について
- 4-4) 警察庁「高齢者講習における新たな視野検査方法導入に向けた調査研究」について
- 4-5) 世界緑内障週間における「ライトアップinグリーン運動」へのご協力をお願い

5. 広報部

- 5-1) 「記者懇談会」の開催実績について

6. 学校保健部

- 6-1) 「色覚診療の手引き」の発行について
- 6-2) 「眼科学校保健資料集」の発行について

- 6-3) 第70回日本臨床眼科学会における学校保健部企画のセミナーについて

7. 学術部

- 7-1) 第70回日本臨床眼科学会について

8. 社会保険部

- 8-1) 眼科診療実態調査について
- 8-2) 眼科有床診療所実態調査について
- 8-3) 全国健保担当理事連絡会について
- 8-4) 全国介護・在宅医療担当理事連絡会について

9. 医療対策部

- 9-1) 平成28年度上半期医療対策部の主な活動
- 9-2) ヒドロキシクロロキン製剤使用時の安全管理に係る啓発について
- 9-3) コンタクトレンズ検査料の請求に関する注意喚起について

10. 勤務医部

- 10-1) 眼科後期研修医の実数調査について
- 10-2) 日本の眼科－座談会掲載「男女共同参画について」
- 10-3) サマーキャンプ参加者支援の取り組みについて
- 10-4) 第70回臨眼イブニングセミナー「医長が知っておくべきいくつかの常識」
- 10-5) 第17回全国勤務医連絡協議会の開催について

【3】各都道府県眼科医会提出議題について

1. 徳島県（盛会長）

新専門医制度がいずれ開始されることに伴い、眼科医、特に勤務医の先生方の日眼医加入率低下が危惧されています。会員数維持には日眼医の活動内容を理解していただくことが最も重要と考えますが、高野会長はじめお忙しい日眼医執行部の先生方の各地の講演努力だけでは困難と思われます。

そこで高野会長が各地の講演に使用されておられる日眼医の活動紹介スライドがあればお借りして、県の総会で「今年度の日眼医活動」として会員に紹介させて頂くことは出来ないでしょうか？

数年前、徳島県で高野会長にご講演頂いた後に、眼科医連盟の会員数が増えた実績もあります。代議員会報告を会報等に記載していますが、多くの会員に読んでいただいているとは思えず、大多数の会員が出席する総会の場で日眼医の活動方針を紹介することができれば、眼科医会活動の理解が深まり、組織率向上維持に役立つと考えます。

2. 富山県（狩野会長）

平成26年度の文科省学校保健統計調査の結果は、裸眼視力1.0未満の児童・生徒が経年的に明らかに右肩上がりに増加しており、その原因は過度の近作業にある事を示唆しています。また、総務省が行った統計調査では10代のスマートフォン利用者が激増していることも判明しています。そのような背景の中で、文科省の有識者会議（デジタル教科書の位置づけに関する検討委員会）が「2020年度から『デジタル教科書』を導入する」とする中間報告をまとめました。報告書には人体への影響についてもわずかに触れていますが、「視力や脳の発達等、健康面への影響について不安を持つ保護者等もいる」との記載のみです。

児童・生徒を取り巻く環境は、大人の生活環境と限りなくオーバーラップして、各種メディアにあふれているのが現状です。「デジタル教科書」の導入が子供たちの目にどのような影響を与える

かわかりませんが、眼科医として学校現場への提言も必要かと思います。日眼医としてはどのようにお考えでしょうか。

3. 宮崎県（柴田会長）

CL処方箋の法制化はCLがユーザーの手に渡る際に眼科医が関与するために必要であると考えるが、執行部のお考えはいかがでしょうか。

4. 大阪府（佐堀会長）

点眼薬のスイッチOTC化に備えての今後の対応について

セルフメディケーションを目標とする国の方針としては、湿布薬、ビタミン剤、点眼薬、漢方薬などの保険外しの計画を出してきています。湿布薬の保険外しがこの春突如出され、整形外科が中心に撤回の署名運動を展開し、1回の処方につき「湿布薬70枚まで」という制限は設けられたものの保険診療から外すという当初の狙いを撤回させることに成功しています。

眼科領域では、平成24年に挙げられたヒアレインミニはまだOTC化されていませんが、ドライアイ治療薬を皮切りに順次多くの点眼薬の保険外しが計画されてくる可能性が大きくなっています。今後こういった動きに対して眼科医会はどう対応するのか、切羽詰まった問題としてどうとらえているのかなど今後の対応について教えてください。



平成28年度 日眼医全国審査委員連絡協議会

社会保険審査委員 木村 純（宇都宮市）

●日時：平成28年6月5日(日)

●場所：AP品川アネックス

野中隆久常任理事の開会の辞で午前10時に始まりました。初めに高野繁会長のご挨拶。今回の診療報酬改定について、眼科学的検査の包括化は阻止できたこと、短期滞在手術等基本料3は片眼と両眼を区分した点数が設定されたが、片眼約5000点の引き下げは予想以上だったこと、CL検査料について院内交付の割合で4つに区分されたが施設基準は一般の診療所にはほとんど影響ないこと、などのお話がありました。

来賓の松本純一日本医師会常任理事、竹内忍日本医師会疑義解釈委員会・保険適用検討委員会委員、村上晶日本眼科学会社会保険委員会委員らの紹介の後、山岸直矢副会長のご挨拶があり、続いて各都道府県眼科医会提出議題について質疑応答となりました。

いくつかの質問と日眼医見解を簡単に紹介します。

＜水晶体拡張リング使用が新設されたが短期滞在手術等基本料3においても算定可能か＞

短期滞在手術等基本料3に包括され別に算定できない。

＜CL検査料が4区分化されCL院内交付の高い医療機関でCL検査料が引き下げられたが、厚生労働省はCL院内交付について推奨する、しない、どちらの立場での改正なのか＞

厚生労働省としては、患者のCL購入の選択肢の一つとしての院内交付は推奨するが、そのすべてを院内交付とすることは認められないという立場を今回の改定で明確にすることにより、将来的に100%院内交付をして患者を囲い込み診療報酬とCLの交付差益を併せて経営原資として考えるCL

診療所の設立を防ぐことが目的ではないかと考える。

＜後部ぶどう膜炎や後部硝子体混濁で眼底三次元画像解析は算定可能か＞

後部ぶどう膜炎は算定可能。後部硝子体混濁は症状名であり算定するには該当病名が必要。

＜眼底三次元画像解析を緑内障病名で連月請求する場合、保険者からの再審査請求はあるでしょうか（事前アンケート）＞

再審査請求があるが審査委員が認めている（6）
再審査請求があり査定している場合がある（26）
再審査請求はない（15）

＜6歳未満の弱視または不同視等が疑われる場合、3月に1回屈折と矯正視力を併せて算定できることになったが、どのような病名が必要か＞

弱視、不同視、調節性内斜視などが考えられる。疑われる場合となっているが今のところ診断がついてからも算定できると考える。が今後でなくなるかもしれない。また、3月に1回とは初診時も含むもので、初診から3か月は併算定できない。

また、昼食時にはブロック別の協議会が行われ関東甲信越東京ブロックでは主にCL検査料について意見交換しました。一度CL検査料を算定するとカルテ保存期間である5年間は初診料の算定は認めないところが大半でした。栃木県では、CLとは関係のない診療の際はCL検査料ではなく一般検査で算定可としていますですがその場合も過去にCL検査料を算定している場合は初診にはなりません。初診が認められるのは、CLの使用を一時的ではなく完全にやめている場合です。「CL装用を中止している」などのコメントでは意味が曖昧なため初診料の算定は認めない場合もありますのでご注意ください。



平成28年度 都道府県眼科医会健保担当理事連絡会

保険担当理事 井岡大治（足利市）

●日時：平成28年10月23日(日)

●場所：AP品川アネックス

H28/10/23(日) 今回、都道府県眼科医会健保担当理事連絡会は初めてAP品川アネックスで開催されました。

予算縮小のため仕方ないとは思いますが、以前の会議場に比して極めて狭い会議室が使用されました。(井岡には狭過ぎます！)

来賓は、宇都宮 啓先生（元厚生労働省保険局医療課長）、村上 晶先生（日本眼科学会社会保険委員会委員）の2名でした。

高野会長からは、将来期待される眼科検診システムのモデル事業の準備が始まり、国から3000円の予算で仙台、松江、世田谷区、の三カ所でモデルケースの実施を予定しているとの報告がありました。

またコンタクトレンズ関連の協議は、これまでは眼科医会、コンタクトレンズ学会、コンタクトレンズ協会の三者で話し合われていましたが、現在は厚生省の保険局、医薬生活衛生局、医政局の3つの局からの代表が協議に参加し情報共有を行いコンタクトレンズ医療がより良い方向に導かれるよう共同作業を行うとのことでした。

また抗VEGF薬による眼科医療費の高騰を危惧し、薬価を下げる又は患者支援制度の導入等を検討するよう働きかけていくとの内容の話もありました。

来賓の宇都宮先生は保険の仕組みについての講演がありました。現在の社会は、＜人口ピラミッドの変化→ライフサイクルの変化→生まれた土地以外での生活→知り合いがいない→ケアが困難になる→病院で治しても帰宅後に再悪化する＞という悪循環が生じている。このため住民による自助

互助が必要になり地域包括ケアシステムの構築が期待される、というような話がありました。

副会長の山岸先生からは、審査における地域の差異について問題視されているとの話がありました。電子レセプトにより厚生省は全国の眼科の膨大な審査データを蓄積しており、それにより今後様々な地域による審査上の差異についての問題が指摘される可能性を危惧されています。このため以後ローカルルールという表現は、「青本の内容を一方的に解釈しているとの誤解」が生じる可能性が潜んでおり、その言葉の使用を控えるべきとの話がありました。

その後、各県からの要望、質疑等に対しての協議、応答が行われました。この会議の詳細は、H29年2月20日発行の「日本の眼科」第88巻第2号に『記録』として掲載されましたのでご参照ください。

また、昼食時にブロック別社会保険協議会の関東甲信越ブロックの話し合いがあり、東京で＜NPO法人：医療費を守る会＞の影響で10件程の個別指導があったとの報告があったが、関東甲信越ブロックで他はないようでした。近畿、東海方面では影響があったようです。

今回はH29バーチャル会議にて実際に開催される予定です。

日眼医に要望のある方はぜひ井岡までお知らせください。

平成28年度 都道府県眼科医会介護・在宅医療担当理事連絡会

保険担当理事 井 岡 大 治（足利市）

●日時：平成29年1月26日(木)～2月27日(月)

＜日眼医：社会保険部要約＞

今年もバーチャル形式で会議が行われ、提出された議題30題が協議されました。

バーチャル会議は送られた書類情報を読み取り、疑問があれば返信メールを送るといった電子文書のやり取りなので今ひとつ盛り上がりには欠けてしまっていますが、全国で真面目に往診、在宅に取り組む眼科医の意見に接しいろいろと考えることができました。

副会長の山岸先生のお言葉を転用させていただきます。

「保険診療と同様、介護・在宅医療にも都道府県によってその取扱いに差異のあることが知られています。眼科の在宅医療が往診料か在宅患者訪問診療料かいずれによって算定するかの問題です。厚生労働省や日本医師会を訪問し、この件を要望し問い合わせました。中医協では診療側委員が在宅患者訪問診療料の複数科での算定を要望

し、支払側が医療費の検証を求めた 構図であったことが判明しました。

本年度の中医協でも再度同様に診療側が在宅患者訪問診療料の複数科での算定を要望しています。結果、医療費の手当が必要ない場合は速やかに実施され、新たな医療費が発生する場合は次回平成30年度診療報酬改定時に財源の手当を検証した上、実施されとのことです。

この件は日本医師会の最重点要望項目になっており、これからも在宅患者訪問診療料の 複数科での算定についてその動向を注視する必要があります。」

まだまだ先行きが不透明ではありますが、介護・在宅医療を必要とする患者さんが減ることはあり得ないので、各自の医療機関の先行きを見据えて準備の怠ることのないようお勧めいたします。

この会議の詳細は、H29年5月20日発行の「日本の眼科」第88巻第5号に『記録』として掲載されましたので、できれば会員の皆様には御一読されるようお願いいたします。

平成28年度 第1回栃木県社保国保審査委員連絡会

保険担当理事 井岡大治（足利市）

- 日 時：平成28年6月27日(月)
- 場 所：宇都宮医師会館
- 出席者：社保 千葉桂三先生、木村純先生、大野研一先生／国保 苗加謙応先生／健保担当 城山力一先生 井岡大治／欠席：川島秀俊先生

H28年度第1回栃木県社保国保審査委員連絡会で話し合われた事項の抜粋をお知らせします。全国審査員連絡協議会、関ブロ健康保険委員会の討議内容を協議、確認しながら行われました。（全国審査員連絡協議会の詳細な記録は＜H28/8/20発行の日本の眼科第87巻第8号＞に掲載されています。）

以下に連絡会のまとめを記します。

＜全国審査員連絡会の内容＞

- アレルギー性結膜炎の診断後一ヶ月以上経過し、前の病名が治癒になっていれば、次の受診時に初診算定は可能。
しかし、屈折病名がつけてあった場合、6ヶ月以内は初診算定は厳しい。
- 退院時リハビリテーション指導料を算定する場合、算定した日付を記載するように、2回の退院に2回算定はできなくなった。（月をまたげば算定できなくもないが、縦覧されると過剰と判断される可能性高い）
- ＜眼底カメラ撮影3自発蛍光撮影法の場合＞はOCTとの同日算定は今のところ算定可能とのこと。（いつ方針が変わるか分かりません）
- 6才未満で「弱視又は不同視等が疑われる場合」は、3ヶ月以上あけば、弱視、不同視、調節性内斜視などの確定診断後でも、再診時に屈折検査と矯正検査の併施算定可能。

- インタール点眼液 UD 及びタプロスミニ点眼液などの点眼処方の場合、角膜上皮障害を生ずる病名があれば処方可能。
- パーフルオロン®、SILIKON®1000 ポリジメチルシロキサン等を2種類以上使用する場合は注記が必要です。
- 術後の眼軟膏は、片眼0.5gまで請求可。
- 白内障手術の麻酔方法の1つである前房内麻酔は、現在のところ認められない。（全国で）

＜関ブロ健康保険委員会での内容＞

＜コンタクトレンズ診療＞

- 当該眼科で過去にCL処方をした事がある患者さんに、初診請求する場合、「〇年〇月〇日からコンタクトレンズ装用を自己中止した」とレセプトにコメントをいれ、カルテにも明確にその旨の記録を残せば、初診請求ができる場合もあるが、実際には請求は難しい。特に社保は。
- コンタクトレンズ診療以外のケガや疾患で受診した場合は、再診請求で出来高算定が可能だが、コンタクトレンズ装用中止やコンタクト外診療などのコメントが必要になる。
- 抗VEGF硝子体注射の後の術後創傷処置は請求不可。（手術ではないから）
- 抗VEGF硝子体注射後の抗生剤内服、点滴は不可。（必要であればそれに見合う病名が必要になるが過剰と見なされる可能性が高いのでご注意ください）
- 白内障術後の抗生物質点滴は、1－3日間が妥当と思われる。

平成28年度 第2回栃木県社保国保審査委員連絡会

保険担当理事 井 岡 大 治（足利市）

- 日 時：平成28年11月9日(水)
- 場 所：獨協大学病院 東棟4階第2会議室
- 出席者：社保 千葉圭三先生 木村純先生 大野研一先生／国保 苗加謙応先生／健保担当 城山力一先生 井岡大治／欠席：川島秀俊先生

H28年度第2回栃木県社保国保審査員連絡会で話し合われた事項の抜粋をお知らせします。この回は宇都宮医師会館の使用が出来なかったため、獨協医科大学の千葉先生のご厚意により大学の会議室をおかりして開催いたしました。以下に連絡会のまとめを記します。

- 再診でコンタクトレンズ診療の患者が、眼鏡処方を出した場合はコンタクトレンズ外診療とコメント入れて、出来高算定可能。
- 白内障術前での鼻涙管洗浄は、病名なしで算定可能。
- 間違えの訂正です。「栃木県眼科医会報第49号 P57 右欄中程の＜7. 凝固スクリーニング検査:PT,APTT,フィブリノゲン＞」に誤りがありました。フィブリノゲン検査は栃木県では以前から過剰と判断されています。正しくは＜7. 凝固スクリーニング検査:PT,APTT,>です。
また術前検査でのCRP検査は算定不可です。CRP検査は全身の炎症状態を 継続してチェックする必要のある疾患名がある場合に算定可能となります。
- 霰粒腫、マイボーム腺梗塞に抗生剤点眼は不可、マイボーム腺炎はOK。
- 弱視の病名があれば同月に眼底検査2回は算定可能。
- 同月内に屈折検査2回算定は、薬剤負荷した事が分かるレセプトを作れば算定可能。

- 糸状角膜炎に対する糸状物除去に対しては、＜K252角膜・強膜異物除去術＞で算定する事を推奨され、同月内に複数回の算定も可能だが、あまり多いと過剰と見なされますので程々に。

<H28/11/11 H28年第2回健保研究会の会員からの質問 >

- 質問1) 学校検診の色覚検査で二次検査(初診)石原式、東京医大式で異常が出た症例で、PD-15を行ったところ、過剰として査定されました。(国保2件)
- 回答) PD-15は色相配列検査(D267-1 70点)が算定できます。そして東京医大式は定量的色盲表検査(D267-1 以外 48点)が算定できます。石原式は、診察料に含まれ請求できません。
両方を算定したい場合は、色覚検査2種(118点)という請求ではなく、色相配列検査(70点)、定量的色盲表検査(48点)と各々を分けて記載して下さい。

- 質問2) 最近、SLE(全身性エリテマトーデス)に対する治療薬として、ヒドロキシクロロキンを内科で投与される予定、もしくは投与中の方の眼合併症検査依頼が増えております。眼合併症検査は、視力、眼圧、眼底検査、視野検査、色覚検査となります。これらの検査は保険病名として「クロロキン網膜症疑い」で全て通るのでしょうか?御教示頂ければ幸いです。
- 回答) HCQ: ヒドロキシクロロキン硫酸塩: 商品名プラケニル錠、SLEの薬(元々はマラリアの薬) 眼科検査を受ける事が義務づけられた薬、日眼医からは「ヒドロキシクロロキン網膜症の疑い」または「クロロキン網膜症の疑い」と疑い病名をつけるが推奨されています。審査員にはこの件は報告済みです。

ルーチン検査 7項目＜視力、眼圧、細隙灯検査、眼底検査＞視野検査、色覚検査（PD-15石原式、SPPⅡ）、OCT が必要。

6ヶ月以上期間が空けば7項目の検査は算定可能。

また、木村純先生が2期4年の任期を終えH29年5月で社保審査委員を退任される事になりました。木村先生は栃眼医理事をお辞めに

なって直ぐに社保審査員の就任となり、休む間もなく栃木県の眼科医のために尽くしていただきました。今後はご自身の時間がゆっくり取れるようお願いしております。この場を借りて心から御礼申し上げます。

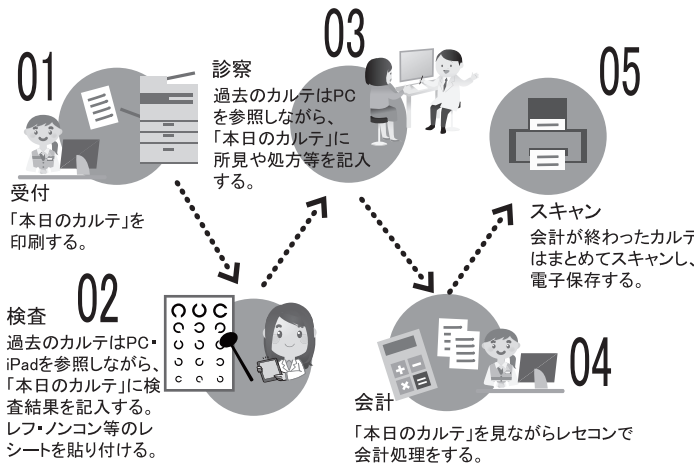
審査に関して分からない事や不思議な返戻、納得できない返戻がありましたら、栃眼医事務局または担当の井岡まで質問をお願いします。

NEW コンセプトカルテシステム

iカルテ
カルテビューアシステム

カルテ保管の悩みを解消!!

～紙カルテの運用をそのままに電子化を実現～



カルテに印字されるQRコードはプログラムから簡単に発行することができます。

文書に対してQRコードを添付して管理します。QRコードの情報をもとに、カルテを自動的に仕分けて保存します。

QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です



眼科医療機器専門商社

株式会社 **リッツメディカル**

URL <http://www.ritz-med.co.jp/>

本社営業部／愛知県豊川市伊奈町新屋 279 番地

Tel 0533-72-5210 Fax 0533-78-3120

埼玉営業所／埼玉県富士見市水谷 1-1-26

Tel 049-268-3358 Fax 049-268-3287

【営業所】東京・品川・西東京・千葉・埼玉・茨城・横浜・厚木・山梨・松本・長野・静岡・浜松・名古屋・名古屋西・春日井・愛岐・三重・京都・大阪北・大阪・奈良・和歌山・兵庫・広島・高松・北九州・福岡・宮崎・熊本・鹿児島



第40回日眼医全国眼科学校医連絡協議会出席報告

学校保健担当理事 苗 加 謙 応 (宇都宮市)

●日 時：平成28年9月25日(日) 10:00~15:00

●場 所：東京グランドホテル

●出席者：苗加

例年通り会長あいさつの後、昨年度の事業報告、本年度の事業予定についての報告があった。

その後各支部からの提出議題及び日眼医からの回答および質疑応答が行われた。重要性の高いもの、興味深かったものを示す。

Q. 近視に対する低濃度アトロピンの処方に対して

A. 現在多施設による0.01%アトロピンの近視抑制に関する研究が嫉視されている。日眼医ではこの結果を待っているが、現段階では積極的に推奨する立場ではない。

Q. 近視予防の啓発につて

A. 手持ちゲームやスマホは距離を30cm取ること、小児のメディアとの接触は1日2時間以内を推奨している。

Q. コンタクトレンズ使用の低年齢化について

A. 処方箋がなくてもコンタクトレンズを購入できる販売システムの弊害である。現在日眼医ではコンタクトレンズ処方箋適正に関する検討会を行っている。

Q. オルソケラトロジーに関して

A. 現在ガイドラインは20歳以上である。児童生徒への使用は慎重にすべきである。

Q. 色覚異常の名称について

A. 過去に呼び名を変更したが定着せず、文部科学省でも色覚異常の名称を用いていることからこのままで様子を見る

Q. 学校での色覚検査表は何を用いるのか

A. 石原式色覚検査表Ⅱ コンサイス版14表を推奨している、

Q. 色覚検査と就職の関係について

A. H26の文部科学省の通知によって色覚検査を学校で周知されず就職に不利益が出た場合学校や教育委員会が責任を問われる可能性がある。

Q. パソコンやスマホのブルーライトについて

A. エビデンスが少なく日眼医では断定できない

Q. 3D映像について

A. 急性内斜視の報告もあり、連続鑑賞は15分以内が望ましいという報告がある

Q. 眼科学校医の設置率

A. 正確な測定は不可能。公立で60~70%。ただし眼科学校医設置義務の法的根拠はない。

以上



第17回全国勤務医連絡協議会出席報告

勤務医担当理事 上 田 昌 弘 (国際医療福祉大学塩谷病院)

- 日 時：平成28年11月20日(日)10時～15時
- 場 所：東京コンファレンスセンター・品川
(5階「大ホールB」)
- 出席者：都道府県代表：47名
勤務医委員代表：3名
日眼医執行部：7名
オブザーバー：3名
- 総合司会：前田 利根 (担当常任理事)

●高野 繁会長 挨拶

(1)眼科検診の推進

糖尿病網膜症や緑内障のように、自覚症状が出てから眼科を受診した場合、かなり進行してしまっている疾患がある。これらの疾患を早期に発見するには、現在全国で行われている各種検診の中に、眼底検査(眼底写真撮影)を組み入れていくことが最も効果的と考えられる。今回、厚労省から3年間の科研費をいただくことができたため、宮城県仙台市、島根県松江市、東京の世田谷区の3地区を選び、今後、勤務医担当理事を中心に調査研究を進めていく予定である。

(2)身体障害者の診断書(申請書)における視機能判定方法

現在は、左右別々に測定した視力の和をもって判定の基準としており、視能率の結果を加味した上で、視覚障害の等級が判定されている。この方法は20年前に決められたことであるが、会員の間では、以前から「違和感がある」との意見が多い。そこで、左右の視力を合計するという方法はやめて、自動視野計を使えるようなものに変えていきたいと考えている。

(3)運転免許更新時の視野検査の導入

緑内障や網膜色素変性など、視野がかなり悪くても、視力さえ良ければ免許の更新ができて

しまうケースがある。地域によっては利便性が損なわれるという問題もあるが、運転に関する安全性を考えた場合、眼科医会としては、運転免許更新時に何らかの形で視野検査を組み入れていきたいと考えている。

(4)勤務医対策の強化

今回の会長の任期では、勤務医対策をしっかりやらせていただきたい。今年6月に臨時の選挙を行い、今本量久先生を勤務医枠の新たな理事として選出した。まずは、多くの先生方に勤務医メーリングリストに登録していただき、これまで以上に、勤務医にとって役に立つ情報を発信していきたいと考えている。

○日眼医報告

前田利根常任理事により、下記の項目について報告と説明が行われた。

(1)平成27年度事業報告、平成28年度事業計画

(2)平成28年度眼科後期研修医の実数調査

平成16年に新臨床研修制度が実施されてから、新眼科医の数は減少傾向が続いていたが、平成24年に底を打ち、その後は微増が続いている。平成24年には第1回眼科サマーキャンプが開催されており、一定の効果があったものと考えている。

(3)「日本の眼科」(87巻8号掲載)座談会「男女共同参画について」

(4)第70回臨眼イブニングセミナー「医長が知っておくべきいくつかの常識」

(5)勤務医メーリングリストへの登録について

(6)平成27年度・平成28年度 勤務医部各種委員会開催概要一覧

○集中討議(議長:平野耕治勤務医委員会委員長)

集中討議に先立ち、参加者に事前に配布した

アンケートの内容について、会場での挙手による調査が行われた。結果は下記の通りである。

(1)参加者（約50名）の勤務している病院の形態

D P C I 群：37%、D P C II 群：24%、D P C III 群：29%、D P C 導入なし：10%

(2)両眼の白内障手術を入院して行う場合

- 1) 短期滞在手術等基本料3（以下「短手3」）（両眼）で行う（4泊5日以内の入院）
- 2) 短手3（片眼）＋出来高（片眼）を1回の入院で行う（5泊6日以上入院）
- 3) 短手3（片眼）＋出来高（片眼）を2回の入院で行う（退院後1週間以内に再入院）
- 4) 短手3（片眼）を2回算定（退院後8日以下に再入院）
- 5) その他

結果は、1) 26%、2) 23%、3) 2%、4) 45%、5) 2% であった。

今回の診療報酬改定の前は、4) が全体の約90%と言われていたが、今回の調査では、1回の入院で両眼手術する施設と、2回の入院に分ける施設とが、ほぼ半数ずつであった。

(3)病院から白内障手術に関して何らかの要求があるか

- 1) 白内障手術は外来手術にシフトするよう指示あり：6施設（12%）
- 2) 白内障手術は積極的に入院で行うよう指示あり：11施設（22%）
- 3) 特に要求はない：残り約33施設（66%）

1. 急性期病院における眼科の立場について

今回（平成28年度）の診療報酬改定では、医療・看護必要度の見直しが行われ、7対1の看護基準を取得するための必要度が15%から25%に引き上げられた。しかしながら局所麻酔の手術が多い眼科では、看護必要度に関して貢献することができない。また、病院がD P C II 群を取得しようとする場合、外保連の手術指数が低く設定されている白内障手術はすべて外来手術で行うよう、病院側から指示されている施設もある。

一昔前まで、眼科は病院の中でも「稼ぎ頭」で、病院の経営にかなり貢献していた時代があっ

た。ところが診療報酬改定を重ねていくうちに、眼科の貢献度は減少し、白内障手術が逆に「お荷物」のような感じになってしまった。地方の大学で眼科への入局者が減少したこともあり、地方の中核病院では眼科がなくなったり、常勤医師から非常勤医師に変更になったりと、地方における眼科勤務医の減少が進んでいる現状がある。

現在、中医協のD P C 評価分科会では、平成30年度の診療報酬改定に向けてD P C 制度をどうするか、非常に問題になっている。D P C I 群とは大学病院の本院。II 群は大学病院の本院に準じた一定の要件を満たす医療機関。III 群はそれ以外、という分類である。D P C II 群を維持するために無理に手術数を減らしたりするより、III 群で行った方が経営上のメリットが大きい場合もある。また、今の制度は、看護必要度にしてもD P C にしても、基本的には現場の状況を正確に評価しようということで作られた制度である。ところが、制度は完璧ではないので、病院経営コンサルタントのような制度の裏をかく人たちが出てくる。このため、「制度に現場を合わせる」という現象が起きており、眼科にそのシワ寄せが来ているのではないと思われる。

2. 短期滞在手術等基本料3について

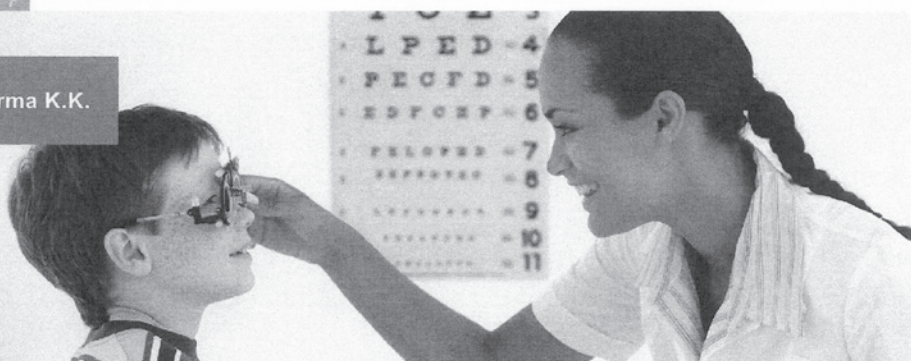
今年（平成28年）4月の診療報酬改定で、白内障手術（水晶体再建術）を入院して行った場合に算定する「短期滞在手術等基本料3（片眼）」が、27,093点から22,096点へと大幅に引き下げられた。また、入院して5日以内に両眼の白内障手術を行った場合は、「短期滞在手術等基本料3（両眼）」（37,054点）で算定することになった。

今回の改定で、血液透析は「短手3」の対象外となったが、全身麻酔下での白内障手術は「短手3」のままなので、対象外としてほしいとの要望が多かった。また、合併症が起りやすい症例では入院期間が長くなる傾向があるため、やはり診療に要した費用や労力に見合った評価をしてもらいたいとの意見もあった。

午後に行われた「提出議題およびディスカッション」については、紙面の関係で省略させていただきます。

詳しくは、「日本の眼科」3月号（平成29年）をご覧ください。

Alcon Pharma K.K.



一人でも多くの患者さんに「見えるよろこび」を届けます

2017年4月1日から日本アルコン株式会社の医薬品事業本部と
ノバルティス ファーマ株式会社の眼科領域事業部が統合し
「アルコン ファーマ株式会社」として活動を開始しました。

私たちは新しい発想で、これまで以上に患者の皆様、医療関係者の皆様に
貢献できるよう最善を尽くしてまいります。

Alcon Pharma

アルコン ファーマ株式会社

<https://www.alconpharma.jp>

平成28年度 日本眼科医連盟協議委員会出席報告

栃木県眼科医会会長 原 裕（大田原市）

- 日 時：平成28年10月16日(土)14時～15時
- 場 所：東京コンファレンスセンター・品川
- 進 行：小沢会計責任者職務代行者

定刻に開会、高野委員長、三宅最高顧問の挨拶後、小沢会計責任者職務代行者が議事を進行。

1. 委員長あいさつ

2. 来賓あいさつ

井上信治衆議院議員
自見はなこ参議院議員

3. 議題

【報告】

- (1)平成27年度 活動報告について(高野委員長)
- (2)（2）平成27年度 会計報告について
(皆良田会計責任者)

(3)平成28年度 中間活動報告について
(高野委員長)

(4)眼科医療政策推進議員連盟総会について
(高野委員長)

「抗VEGF薬について（仮）」

11月10日(木) 16時～17時

(5)平成28年度 会計見込について
(皆良田会計責任者)

【協議】

- (1)支援議員について（高野委員長）
自見はなこ参議院議員について
- (2)その他

4. 閉会のあいさつ (白井副委員長)

平成28年度 第2回 関東甲信越眼科医会連合会各県会長会議次第開催報告

栃木県眼科医会会長 原

裕（大田原市）

●日 時：平成29年3月5日(日) 11時～12時

●場 所：ホテルキャメロットジャパン
5Fジュビリー

報告事項

茨城県：1) 平成28年度「目の健康講座」
について

栃木県：1) 第52回関東甲信越眼科学会に
ついて

1. 開会の辞 小口 和久 世話人

2. 協議事項

神奈川県：1) CLの啓発活動について（カ
ラーCLも含めて）

2) 診療報酬アップの要望。眼科
専門医としての技術料なども
含めて、眼科診療を守るため。

千葉県：1) 関プロ会報発送のための日眼
医からの住所シール入手につ
いて

2) 今後の関プロ学会について

3. 第53回関東甲信越眼科学会開催について

（山梨県）

日時：平成29年5月28日(日) 9：00～12：00

場所：常盤ホテル

4. 次回開催日時・場所

日時：平成29年5月27日(土) 16：00～17：00

場所：常盤ホテル

5. その他

6. 閉会の辞 内田 徹也 会長（山梨県）

平成28年度 第2回 関東甲信越地区眼科医会連合会連絡協議会開催報告

副会長 吉澤 徹（鹿沼市）

●日 時：平成29年3月5日(日) 13:00～15:00

●場 所：ホテルキャメロットジャパン
4Fフェアウィンド

●出席者：本県より 原 裕 吉澤 徹
宮下 浩

平成28年度第2回関ブロ連絡協議会 出席者名簿
(敬称略・順不同)

神奈川県：小口 和久（世話人・県会長・代議員）
宇津見義一（代議員）

金子 敏雄（代議員）

岡田 裕（代議員）

種田 芳郎（関ブロ顧問・代議員）

草野 良明（理事）

齋藤 昭雄（代議員）

松本 覚（代議員）

秋元 清一（関ブロ顧問）

松島 新吾（世話人指名）

奥脇 賢一（代議員）

埼玉県：滝本 久夫（県会長・代議員）

猪俣 俊晴（代議員）

柳垣 秀徳（代議員）

正田 秀雄（世話人指名）

八木橋俊之（関ブロ顧問）

金子 襄（世話人指名）

千葉県：麻薙 薫（県会長・代議員）

柿田 哲彦（理事）

佐野 研二（代議員）

津山 嘉彦（代議員）

瀬古 歩（代議員）

水野谷 智（世話人指名）

入江 純二（関ブロ顧問）

茨城県：中村 丹雄（県会長・代議員）

中村 悦子（世話人指名）

手塚 聡一（代議員）

埼玉県：塙本 宰（世話人指名）

栃木県：原 裕（県会長・代議員）

吉澤 徹（代議員）

宮下 浩（関ブロ顧問）

山梨県：内田 徹也（県会長）

細田 裕治（世話人指名）

新潟県：中山 徹（県会長・代議員）

白柏 基宏（世話人指名）

群馬県：丸山 明信（県会長・代議員）

馬場 敏生（世話人指名）

長野県：野中 隆久（県会長・常任理事）

栗林 利治（代議員）

北島 秀一（代議員）

永田 征士（世話人指名）

司会 奥脇 賢一（神奈川県）

1. 開会の挨拶

関ブロ世話人 小口 和久

来年度から日眼医のブロック訪問の費用は、日眼医と関ブロが半額ずつ負担する事になったため、関ブロ会員にはご了承いただきたい、との事。

2. 黙祷

平成28年（1月1日～12月31日）関東甲信越地区眼科医会物故会員16名について起立し、黙祷を行った。

本県における物故会員は以下の通り

早津 尚夫先生、1月13日ご逝去、享年81歳

斉藤 武久先生、1月15日ご逝去、享年79歳

山川 高子先生、2月28日ご逝去、享年99歳

3. 議題

1) 世話人より提案・協議事項

(1)平成29年度事業計画案について

奥脇 賢一（神奈川県）

(2)平成29年度予算案について

松島 新吾（神奈川県）

定款により、事業計画案、予算案は承認された。

2) 各県より提出議題

神奈川県

(1)C Lの啓発活動について（カラーC Lも含めて）

神奈川県で8,000人を対象にして行った調査では、医療機関でCLを購入した割合は中学生の20%、高校生の11%に過ぎず、ネット販売の比率が高まっている。眼障害の防止にはCLの作製、販売、管理の現場において、もっと眼科医が関わらなければならない。そのための啓発活動が必要である。

(2)診療報酬アップの要望。眼科専門医としての技術料なども含めて、眼科医療を守るため。

診療報酬アップが望めるかどうかは、総医療費がプラス改定になるかどうかが非常に大きく影響するが、今後前眼部O C Tの新規記載に伴い、これまでのO C T点数の削減される事などがないようにしてもらいたい。

千葉県

(1)関プロ会報發送のための日眼医からの住所シールの入手について

今後、印刷会社に対し、各県眼科医会が守秘義務についての誓約書を交わすようにしていただきたい。

(2)今後の関プロ学会について

長野県

(1)平成29年からマイナンバーにより支払い報酬には支払者側と受け取り側のマイナンバーを記載した支払調書を発行しなければならないようです。各地区生涯教育事業の講師への報酬は今まで税管理はあまりなされていないように思われます。法人化されている都道府県眼科医会は特に支障ないと思われませんが、任意団体の各県眼科医会は今後マイナンバーでの支払い方法は

か検討されているでしょうか。

各県とも今の段階では特別な対策は行っていない模様。

3) 各県より報告事項

茨城県

(1)平成28年度「目の健康講座」について

日時：平成28年10月2日（日）

場所：水戸京成ホテル

テーマ～目が見えることの喜び～

講演Ⅰ ご存じですか？加齢黄斑変性症
塙本 幸先生

講演Ⅱ いつ手術しますか？白内障
加畑 隆通先生

その他 目の無料相談 展示コーナー 白内障
緑内障体験コーナー

4) 日眼医報告

野中 隆久（常任理事）

平成29年度から、定例代議員会は年一度の開催となる旨報告があった。

開催日時：平成29年6月24日(土) 17：00～19：30

25日(日) 9：00～15：00

5) 日眼医代議員総務・経理常任委員会報告

総務 吉澤 徹（代議員）

経理 岡田 裕（代議員）

平成28年5月15日(日) 日本眼科医会事務所会議室で開催された。

6) 関プロ会報編集委員会報告

奥脇 賢一（神奈川県）

平成28年2月5日(日) 新横浜プリンスホテルで開催された。

次期会報編集委員会は平成30年2月4日の予定。

7) 第52回関東甲信越眼科学会について

日 時：平成28年6月18日(土) 17：00～18：30
（会長会議のみは5月28日(土)パレスホテル大宮）

平成28年6月19日(日) 9：00～12：00
場 所：宇都宮グランドホテル

8) 第53回関東甲信越眼科学会について

日 時：平成29年5月27日(日) 16:00～18:30

平成29年5月28日(日) 9:00～12:00

場 所：常盤ホテル

会長会議および連絡協議会

特別講演

1) 網膜疾患のOCT

山梨大学教授 飯島 裕幸 先生

2) 最近の緑内障手術

山梨大学准教授 柏木 賢治 先生

3) 涙道診療の常識山梨大学非常勤講師、

公立福生病院 津村豊明 先生

医療従事者講習会

1) 眼科コメディカルに必要な緑内障の知識

山梨大学講師 間瀬文彦 先生

2) 『クレーム対応に関して』

参天製薬株式会社 眼科経営シニアコンサルタント 土谷裕之氏

3) 『ここまで進化した乱視用・老視用ソフトコ

ンタクトレンズと度数合わせのコツ』 米国ドクター・オブ・オプトメトリー 村岡卓 氏

9) 次回関プロ連絡協議会開催日時・場所

日 時：平成30年5月19日(土) 17:00～18:30

場 所：新潟グランドホテル

4. 閉会の挨拶

宇津見義一（神奈川県）

続けて、15:00～16:00までの時間に、平成28年度日眼医ブロック訪問があり、高野繁会長、白井正一郎・山岸直也・神鳥高世 各副会長、野中隆久常任理事、柿田哲彦・草野良明 各理事が出席した。

高野会長が日眼医の現状の説明を行い、各副会長が眼鏡技能士問題、多焦点眼内レンズの問題、財務体質改善プロジェクトなど、担当分野についての解説を行った。これらは6月25日の定例代議員会のブロック質問などで、あらためて討議されることになる。

ロート1day フレッシュビュー® Color

1day (1日使い捨て) 仕事もオシャレも手を抜かない女性の、ナチュラルなサークルレンズ

ロート1day フレッシュビュー® **ロートモイストアイ**

1day (1日使い捨て) なめらかエッジデザインで心地よい装着感。UVカット機能付き。

2week (2週間使い捨て) 高酸素透過性の次世代素材、シリコンハイドロゲルで夕方までうるおいが続きます。

Color (サークルカラー) Larimar Blue (ラリマーブルー) Hazel Opal (ヘイゼルオパール) Crystal Gray (クリスタルグレイ)

モイストアイ (シリコンハイドロゲル)

○医療機器承認番号：22700RZ000039A06
○販売名：ワンデー・フレッシュビュー

○医療機器承認番号：22700RZ00071A02
○販売名：ロートモイストアイ

コンタクトレンズは高度管理医療機器です。必ず眼科医の検査・処方を受けてお求めください。

●レンズの使用期間を超えた使用はしないでください。●装着時間を正しくお守りください。●取扱方法を守り、正しくご使用ください。

●定期検査は必ず受けください。●少しでも異常を感じたら直ちに眼科医の検査をお受けください。

●破損など不具合のあるレンズは絶対に使用しないでください。●添付文章を必ずお読みください。

NEVER SAY NEVER

Rohto製薬

医薬向け価格をお届けしています。ロートプロフェッショナルサイト <https://lqpro.rohto.co.jp/>



平成29年度栃木県眼科医会総会開催報告

総務担当理事 福島 一哉 (宇都宮市)

●日 時：平成29年4月16日(日)

●場 所：自治医科大学研修センター

●会員数（平成29年3月31日現在）

A 会員65名 B 会員86名

C 会員13名 M 会員7名

合計171名

当日出席者 81名 委任状 31名

計112名：総会は成立

司 会：総務担当副会長 吉澤 徹

1. 開会挨拶

会 長 原 裕

挨拶要旨：栃木県眼科医会1次救急は会員の皆様のおかげで順調に稼働している旨報告。

国保・社保の審査員の先生方への謝辞、第52回関東甲信越眼科学会開催への謝辞、および本年8月の開催される第56回日本白内障学会総会・第43回水晶体研究会、第33回日本視機能看護学会学術総会の開催案内等があった。

2. 議事

(1)報告

①平成28年度栃木県眼科医会会務報告

総務担当副会長 吉澤 徹

②平成28年度栃木県眼科医会会計報告

経理担当理事 城山 力一

③平成28年度栃木県眼科医会会計報告監査報告

監 事 宮下 浩

(2)協議

①平成29年度栃木県眼科医会事業計画の件

総務担当副会長 吉澤 徹

②平成29年度栃木県眼科医会予算の件

経理担当理事 城山 力一

③選挙規定改訂に伴う会則等一部改訂の件

会 長 原 裕

④永年勤続表彰者対象年齢の件

会 長 原 裕

⑤平成29年度第1回日本眼科医会定例臨時代議

員会の件 代議員 原 裕

(3)その他

①第52回関東甲信越眼科学会開催報告

会 長 原 裕

②目の健康講座の件

会 長 原 裕

③コメディカルに関する学会等への協賛の件

吉澤副会長から、今後コメディカルのスキルアップのためには栃木県眼科医会としても協力して対処してはどうかと動議が出され、賛成多数で議決された。

3. 健保研究会

司会：保険担当理事 井岡 大治

会員からの質問に返答

4. 閉会挨拶

副会長 旭 英幸

平成28年度栃木県眼科医会会務報告

栃木県眼科医会総会

総務担当理事 福島 一 哉 (宇都宮市)

1. 総務関係

(1) 会員数 (H29. 3. 31. 現在)

A 会員65名、B 会員86名、C 会員13名、 M 会員 7 名、 合計171名

(2) 会員の異動

入会者：2名

C 山 崎 駿 (獨協医大眼科)

C 新 井 亜由美 (獨協医大眼科)

転入者：5名

B 中 島 基 宏 (栃木市 青木眼科医院)

東京都より

B 鈴 木 悦 子 (足利市 柏瀬眼科)

群馬県より

B 川 野 淳 子 (真岡市 原眼科医院)

東京都より

B 佐 野 一 矢 (自治医大眼科)

鳥根県より

B 今 泉 敦 志 (新小山市市民病院眼科)

茨城県より

転出者：3名

B 山 崎 滋 久 (足利赤十字病院)

大阪府へ

B 小 幡 博 人 (自治医大眼科)

埼玉県へ

B 中 島 基 宏 (青木眼科医院)

石川県へ

退会者：2名

A 岩 井 紳 (宇都宮市 いわい眼科)

B 原 たか子 (宇都宮市 原眼科病院)

異動者：

① 会員種別の変更

B→A 青 木 真 祐 (栃木市 青木眼科医院)

A→B 青 木 和 加 (栃木市 青木眼科医院)

B→A 堀 秀 行 (宇都宮市 ほり眼科クリニック)

B→A 長谷川 憲 司 (宇都宮市 インターパークビレッジ眼科)

② 勤務先変更

B 大 島 春 香 (大島内科小児科医院 那須塩原市錦町4-20 TEL0287-37-2221)

B 山 田 徹 人 (那須塩原市 いしばし眼科)

③ 勤務先移転

A 永 田 紀 子 (永田眼科クリニック 宇都宮市御幸ヶ原77-6 TEL028-662-7171)

④ 新規開設

A 堀 秀 行 (ほり眼科クリニック 宇都宮市岩曾町841 TEL028-616-0222)

A 長谷川 憲 司 (インターパークビレッジ眼科 宇都宮市インタパーク4丁目1-3)

(3)定例総会開催（1回） H28. 4. 17(日) 於：自治医大**(4)理事会開催（6回）**

- 第1回 H28. 5. 18(水) 於：宇都宮市医師会館
 第2回 H28. 7. 20(水) 〃
 第3回 H28. 9. 21(水) 〃
 第4回 H28. 11. 15(火) 〃
 第5回 H29. 1. 18(水) 〃
 第6回 H29. 3. 15(水) 〃

正副会長会議 H29. 2. 19(日) 於：宇都宮東武グランデ

(5)中央及び関ブロ諸会議に出席

- H28. 4. 2(土) 平成28年度日眼医定例臨時代議員会（東京） 原（裕）、吉澤（徹）出席
 H28. 4. 3(日) 〃 原（裕）、吉澤（徹）出席
 H28. 5. 15(日) 日本眼科医会 総務経理合同委員会出席（東京） 吉澤（徹）出席
 H28. 5. 28(土) 平成28年度第1回関ブロ支部長会議開催（さいたま市） 原（裕）出席
 H28. 6. 18(土) 平成28年度第1回関ブロ連絡協議会開催（宇都宮市）
 宮下（浩）、原（裕）、吉澤（徹）出席
 H28. 6. 18(土) 平成28年度第1回関ブロ男女共同参画委員会開催（宇都宮市）
 大柳、細川・高橋（雄）出席
 H28. 6. 26(日) 平成28年度日眼医定例臨時代議員会（東京） 原（裕）、吉澤（徹）出席
 H28. 10. 16(日) 日眼医都道府県眼科医会連絡会（東京） 原（裕）出席
 H29. 3. 5(日) 平成28年度第2回関ブロ支部長会議、関ブロ連絡協議会（横浜）
 宮下、原（裕）、吉澤出席

(6)第52回関東甲信越眼科学会開催

H28. 6. 18(土)～19(日) 宇都宮グランドホテル 365名参加

2. 経理関係

- (1)栃木県アイバンクの献眼運動協力募金
 (2)会費の銀行口座よりの自動引落とし方式の推進

3. 学術関係**(1)栃木県眼科集談会**

- 第71回 H28. 4. 17(日) 於：自治医大 83名出席
 一般演題：7題
 特別講演：「糖尿病網膜症に対する光凝固術と糖尿病患者のロービジョンケア」
 町田 繁樹 先生（獨協医大越谷病院眼科 教授）
 第70回 H28. 11. 11(金) 於：宇都宮市医師会館 74名出席
 一般講演：7題
 特別講演：「自治医大における黄斑外來の現状」
 井上 裕治 先生（自治医科大学眼科学講座）

(2) 栃木県眼科医会研究会

- 第55回 H29. 1. 13(金) 於：宇都宮グランドホテル、千寿製薬と共催 47名出席
1. 「小児の眼底疾患アップデート」
近藤 寛之 先生（産業医科大学眼科学教室 教授）
 2. 「黄斑部手術」
白神 史雄 先生（岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科眼科学分野 教授）

(3) 獨協医大眼科栃眼医合同講演会

- 第39回 H28. 7. 15(金) 於：獨協医大 49名出席
1. 「眼科外来での急変対応～もしもの時に備えて～」
松島 久雄 先生（獨協医科大学越谷病院 救命救急センター 教授）
 2. 「スポーツと眼科学」
枝川 宏 先生（えだがわ眼科クリニック 院長）

(4) 栃木眼科セミナー

- 第24回 H29. 2. 24(金) 於：宇都宮グランドホテル、自治医大・興和創薬共催、当会後援 51名出席
- ミニレクチャー「自治医科大学眼科におけるぶどう膜炎の統計」
高橋 良太 先生（自治医科大学眼科学講座）
- 特別講演 「黄斑機能とその評価」
緒方 奈保子 先生（奈良県立医科大学眼科学教室 教授）

(5) 下野眼科談話会

- 第25回 H29. 3. 10(金) 於：宇都宮グランドホテル、獨協医大主催、当会後援 49名出席
- 特別講演1：「急性網膜壊死の診断基準と疫学調査研究について」
高橋 博 先生（東京医科歯科大学眼科 講師）
- 特別講演2：「今、なぜか、VZV」
薄井 紀夫 先生（総合新川橋病院 副院長）

(6) 栃木県内科眼科関連疾患懇話会

- 第10回 H28. 10. 20(木) 宇都宮グランドホテル 70名出席
- 講演1：「どうする？糖尿病黄斑浮腫の治療」
志村雅彦 先生（東京医大八王子医療センター眼科 教授）
- 講演2：「認知機能低下やフレイルを考慮した高齢者糖尿病の包括的治療」
加来浩平 先生（川崎医科大学 内科学 特任教授）

(7) 栃木ぶどう膜炎カンファレンス

- 第6回 H28年10月20日(金) 於：宇都宮グランドホテル 55名出席
- ミニレクチャー 「興味深いぶどう膜炎の1例」
鈴木重成 先生（獨協医科大学眼科学教室 講師）
- 特別講演 「VEGF阻害薬の理論と糖尿病黄斑浮腫に対する実践」
石田晋 先生（北海道大学大学院医学研究科眼科学分野教授）

(8) 栃眼医獨協眼科病診連携の会

第5回 H28年11月18日(金) 於：宇都宮グランドホテル 33名出席
「外来で行う眼腫瘍手術」
古田 実 先生（福島県立大学眼科学講座 准教授）
「網脈絡膜疾患に対する画像診断技術の進歩」
三田村佳典 先生（徳島大学大学院医歯薬学研究部眼科学分野 教授）

(9) 下野眼科診療セミナー

第9回 H28年9月23日(金) 於：宇都宮グランドホテル 58名出席
「緑内障の定量評価」
芝 大介 先生（慶應義塾大学医学部眼科 助教）
「よくある角膜疾患の診断と治療」
山上 聡 先生（日本大学医学部眼科 主任教授）

4. 医療安全対策及び福祉関係

(1) 眼科コメディカル講習会

講習会は関東各県共同主催（於：帝京大）

(2) 栃眼医親睦ゴルフコンペ

第84回 H28. 6. 5(日) 宮の森カントリー倶楽部 14名参加
優勝：稲葉 全郎 準優勝：関本慎一郎
第85回 H28. 11. 20(日) 太平洋クラブ益子 16名参加
優勝：大久保 彰 準優勝：加藤 健

(3) 栃眼医忘年会開催

H28. 12. 1(木) 於：ホテルニューイタヤ 20名出席

(4) 日眼医眼科医事紛争事例調査実施

栃木県内該当 平成26年度 1例 平成27年度 1例

5. 保険関係

(1) 中央及び関ブロの会議

H28. 6. 5(日) 日眼医全国審査委員連絡協議会（東京） 木村（純） 出席
H28. 6. 18(土) 関ブロ健康保険委員会（宇都宮市） 井岡、苗加 出席
H28. 10. 23(日) 都道府県眼科医会健保担当理事連絡会（東京） 井岡 苗加、大野 出席
H29. 1. 26(木) 平成28年度都道府県眼科医会介護・在宅医療担当理事連絡会
～2. 27(月) （バーチャル） 井岡 出席

(2) 健保研究会

H28. 4. 17(日) 栃眼医総会と同時開催 （自治医大）
H28. 11. 11(金) 集談会後開催 （宇都宮市医師会館）

(3) 栃木県社保国保審査委員（眼科）連絡会

H28. 6. 27(月) 宇都宮市医師会館

千葉、木村、大野、苗加、城山、井岡出席

H28. 11. 9(水) 獨協医大

千葉、木村、大野、苗加、城山、井岡出席

6. 広報関係

(1) 栃木県眼科医会報（第49号）発行（平成28年9月）

(2) 理事会だより（6回）発行

(3) 関プロ会報編集委員会 H29. 2. 5(日)（横浜市）

大柳出席

(4) 関プロ会報に「会長挨拶」「各県だより」「随筆」「第52回関東甲信越眼科学会報告」投稿

(5) ホームページ

7. 学校保健関係

(1) 中央の会議に出席

日眼医全国眼科学学校医連絡協議会 H28. 9. 25(日)（東京）

苗加出席

(2) 栃医学校保健部会理事会

（第1回）H28. 9. 25(日) ホテル東日本宇都宮

（第2回）H28. 2. 16(木) とちぎ健康の森

苗加出席

8. 公衆衛生関係

(1) 栃木県眼科一次救急診療当番表を会員に送付

(2) 「目の愛護デー記念行事」準備委員会

（H28. 8. 4(木) 宇都宮市健康センター（ララスクエアビル9階））

福島、堤出席

(3) 「目の愛護デー記念行事」

（宇都宮市健康センター（ララスクエアビル9階））

88名参加

H28. 10. 2(日)

14:00～15:00 目の健康講座：

「加齢に伴う目の病気～加齢黄斑変性の予防と治療」

高橋秀徳 先生（自治医科大学眼科学講座 講師）

15:00～16:00 眼科無料相談会・無料眼圧測定

相談員：大柳静香先生、石橋生朗先生、他栃眼医担当理事

※広報活動

・ポスター、ちらし配布

・読売新聞記事 9月17日(土)

・下野新聞に寄稿 9月30日(金) 細川理事

・新聞意見広告下野 9月30日(金)、読売 9月30日(金) 各紙

・栃木放送、広報

(4) 栃木県網膜色素変性症協会（JRPS）医学講話

H28. 9. 18(日) 栃木市文化会館 講師：斉藤哲也 先生

(5) 献眼募金箱（栃木県アイバンク）を各眼科受付に設置し募金運動に協力

(6) 平成27年度献眼者慰霊祭

H28. 5. 15(日) 八幡山公園献眼顕彰碑前

原（裕）参列

9. 医療対策関係

(1)平成28年度栃木県高度管理医療機器販売管理者継続研修会（H28. 11. 29(日) とちぎ健康の森）

97名出席

1. 医薬品医療機器等法その他薬事に関する法令
栃木県保健福祉部薬事課薬務課薬事審査担当 荒井 顕義 主任
2. 医療機器の品質管理
栃木県保健福祉部薬事課薬務課薬事審査担当 荒井 顕義 主任
3. 医療機器の不具合報告及び回収報告に関する内容
栃木県保健福祉部薬事課薬務課薬事審査担当 荒井 顕義 主任
4. 医療機器の情報提供 コンタクトレンズと眼合併症
獨協医科大学眼科千葉 桂三 先生

10. 勤務医関係

(1)関ブロおよび中央の会議に出席

H28. 6. 18(土) 関ブロ勤務医委員会（宇都宮市） 上田、牧野、永田（万）出席

H28. 11. 20(日) 第17回全国勤務医連絡協議会（東京） 上田出席

(2)栃木県眼科手術談話会

第21回 H28. 5. 20(金) 於：宇都宮市医師会館 39名出席

一般演題：3題

特別講演：「IOL位置異常眼の対処法—IOL強膜内固定術を中心に—」

太田俊彦 先生（順天堂大学医学部附属静岡病院眼科教授）

11. 日本眼科医連盟関係

(1)日眼医連盟協議委員会

H28. 10. 16(土)（東京） 原（裕）出席

(2)本年度連盟会費納入者（本県分） 本県は、73名 27,000円

PF Preservative Free

薬価基準収載

プロスタグランジンF_{2α}誘導体 緑内障・高眼圧症治療剤 / ラタノプロスト点眼液

ラタノプロスト PF
点眼液 0.005%「日点」^{注)}

イオンチャネル開口薬 緑内障・高眼圧症治療剤 / イソプロピル ウノプロスト点眼液

イソプロピルウノプロスト PF
点眼液 0.12%「日点」

持続性 緑内障・高眼圧症治療剤 / レボブノロール塩酸塩点眼液

レボブノロール 塩酸塩 PF
点眼液 0.5%「日点」

角結膜上皮障害治療用点眼剤 / 精製ヒアルロン酸ナトリウム点眼液

ヒアルロン酸ナトリウム PF
点眼液 0.1%「日点」

緑内障・高眼圧症治療剤 / チモロールマレイン酸塩点眼液

チモレート® PF
点眼液 0.25%・0.5%

緑内障・高眼圧症治療剤 / カルテオロール塩酸塩点眼液

ブロキレート® PF
点眼液 1%・2%

緑内障・高眼圧症治療剤 / ニブラジロール点眼液

ニブラジロール PF
点眼液 0.25%「日点」

■その他のPF点眼液

アレルギー性結膜炎治療剤

トラスマス® PF点眼液 0.5%
日本薬局方 トラニラスト点眼液

眼科用非ステロイド性抗炎症剤

シクロスター® PF点眼液 0.1%
ジクロフェナクナトリウム点眼液

アレルギー性結膜炎治療剤

クモール® PF点眼液 2%
クロモグリク酸ナトリウム点眼液

眼科・耳鼻科用合成副腎皮質ホルモン製剤

リンベタ PF眼耳鼻科用液 0.1%
ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム眼耳鼻科用液

アレルギー性結膜炎治療剤

ゲトチフェン PF点眼液 0.05%「日点」
ゲトチフェンマル酸塩点眼液

注) 処方箋医薬品：注意－医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご参照ください。



製造販売元 日本点眼薬研究所 【資料請求先】 営業企画部 学術課 名古屋市中区桜木町40番地の2

(2015年8月作成)

平成28年度 栃木県眼科医会一般会計決算報告

自平成28年4月1日～至平成29年3月31日

収入の部

費 目	平成28年度 予 算	平成28年度 決 算	比 較		備 考
			増	減	
1 関プロ分担金	418,000	421,000	3,000	－	A×63 B×77 C×15
2 眼 科 医 会 費	4,268,000	4,378,000	110,000	－	A×64 B×76 C×15
3 入 会 金	150,000	150,000	0	－	
4 補 助 金	200,000	100,000	－	100,000	栃木県医師会
5 そ の 他	1,000	73	－	927	利息
6 繰 越 金	6,057,159	6,057,159	0	－	
合 計	11,094,159	11,106,232	113,000	100,927	

支出の部

費 目	平成28年度 予 算	平成28年度 決 算	比 較		備 考
			増	減	
1 関プロ分担金	418,000	417,000	－	1,000	A×63 B×75 C×15
2 事 務 通 信 費	650,000	659,887	9887	－	眼炎症学会
3 総会学会補助	1,800,000	1,665,665	－	134,335	
4 出 張 費	450,000	305,000	－	145,000	
5 会 議 費	700,000	596,740	－	103,260	
6 慶 弔 費	100,000	0	－	100,000	
7 人 件 費	1,500,000	1,828,071	328,071	－	
8 そ の 他	500,000	379,592	－	120,408	税、ゴルフ景品
合 計	6,118,000	5,851,955	337,958	604,003	

11,106,232円－5,851,955円＝5,254,277円（平成29年度へ繰り越し）

上記会計報告を監査し適正な事を認証する。

平成29年4月5日 栃木県眼科医会監事

鈴木 隆次郎 ㊞

宮下 浩 ㊞

平成28年度 医事対策費及び日本眼科医連盟会費収支決算報告

自平成28年4月1日～至平成29年3月31日

収入の部

費 目	平成28年度 予 算	平成28年度 決 算	比 較		備 考
			増	減	
1 対 策 費	1,725,000	1,635,000	－	90,000	A × 63 B × 77
2 助 成 金	200,000	27,000	－	173,000	眼科医連盟
3 そ の 他	10,000	196,747	186,747	－	アイバンク祝い金 利息、一次救急差額
4 繰 越 金	9,809,208	9,809,208	－	－	
合 計	11,744,208	11,667,955	186,747	263,000	

支出の部

費 目	平成28年度 予 算	平成28年度 決 算	比 較		備 考
			増	減	
1 事 務 通 信 費	510,000	1,460,132	950,132	－	ホームページ作成 振込手数料
2 行 事 開 催 費	2,300,000	472,113	－	1,827,887	目の愛護デー 第52回関東甲信越眼科学会
3 広 告 費	600,000	586,500	－	13,500	新聞・ラジオCM
4 そ の 他	200,000	85,200	－	114,800	障害保険
合 計	3,610,000	2,603,945	950,132	1,956,187	

11,667,995円－2,603,945円＝9,064,010円（平成29年度へ繰越し）

上記決算報告を監査し、適正な事を認証する。

平成29年4月5日 栃木県眼科医会監事

鈴木 隆次郎 印

宮下 浩 印

平成28年度 栃木県眼科医会報会計報告

収 入

前年度よりの繰越金	65,694円
広告料 第48号(26社)	535,000円
利 息	17円

合 計	600,711円
-----	----------

支 出

第49号 印刷代	473,904円
郵便代、配送料	45,164円

合 計	519,068円
-----	----------

収 入	600,711円
-----	----------

支 出	519,068円
-----	----------

残 高	81,643円 (平成29年度に繰り越し)
-----	-----------------------

平成29年4月5日

栃木県眼科医会報編集委員長

大 柳 静 香 ㊞

平成29年4月5日

栃木県眼科医会監事

鈴 木 隆次郎 ㊞

宮 下 浩 ㊞

平成29年度 栃木県眼科医会事業計画

1. 総務部

- (1)定例総会開催（1回）
- (2)理事会開催（6回）
- (3)日眼医都道府県会長会議、代議員会への出席と会議内容の会員への伝達
- (4)関プロ眼科医会連合会の各種会議への出席と会議内容の会員への伝達
- (5)日眼及び日眼専門医制度委員会連絡事務
- (6)目の健康講座主催
- (7)男女共同参画の推進
- (8)学術講演会における託児室設置の推進

2. 経理部

- (1)適正な会費の検討及び会費徴収法等の合理化の検討

3. 学術部

- (1)栃木県眼科集談会の開催（2回）
- (2)獨協医大眼科栃眼医合同講演会の開催
- (3)栃木県眼科医会研究会、日本医師会・その他の生涯教育活動（講演会、症例検討会等）の企画、開催、後援
- (4)各種学会その他の学術行事に関する会員への案内

4. 医療安全対策及び福祉部

- (1)眼科コメディカル講習会の開催
- (2)眼科コメディカル講習会スライド複製の貸出
- (3)諸種会員親睦行事の企画、実施
ゴルフ（2回）、その他の趣味の会の開催、懇親会、忘年会等の企画
- (4)医療事故防止対策

5. 保険部

- (1)全国審査委員連絡協議会出席と会議内容の会員への伝達
- (2)各都道府県健保担当理事連絡会出席と会議内容の会員への伝達
- (3)審査委員との連絡強化と適正な保険医療の検討
- (4)健保研究会、及び勤務医会員、新規開業会員対象の保険診療講習会の開催

- (5)点数改正説明会の開催
- (6)社保国保審査委員連絡会開催

6. 広報部

- (1)会報発行（年1回）
- (2)理事会だより発行（年6回）
- (3)関プロ会報編集会議への出席
- (4)一般対外啓蒙活動の推進（検眼、CL取り扱いに関する正しい知識、視力回復センター等に関する啓蒙活動等）
- (5)対内、対外広報IT化推進（ホームページ管理）

7. 学校保健部

- (1)全国眼科学校医連絡協議会出席と会議内容の会員への伝達
- (2)健康相談としての色覚検査の実施
- (3)学校保健委員会の活用と養護教諭への啓蒙活動の推進
- (4)学校保健活動のための教材、啓発資料の整備、貸し出し

8. 公衆衛生部

- (1)栃木県眼科一次救急診療
- (2)目の健康講座開催
- (3)アイバンク事業への協力
- (4)県感染症サーベイランス事業への協力
- (5)糖尿病に関する病診連携の推進
- (6)栃木県JRPSへの講師派遣

9. 医療対策部

- (1)非医師の医業類似行為問題、特にコンタクトレンズ違法処方事例への対応
- (2)栃木県高度管理医療機器販売管理者継続研修会開催

10. 勤務医部

- (1)勤務医会員の抱える諸問題の検討
- (2)栃木県眼科手術談話会の開催
- (3)関プロ勤務医委員会および全国勤務医連絡協議会出席と会議内容の会員への伝達

平成29年度 栃木県眼科医会一般会計予算

収入の部

費 目		平成28年度 予 算	平成29年度 予 算	比 較		備 考
				増	減	
1	関プロ分担金	418,000	423,000	5,000	－	A × 64 B × 76 C × 15
2	栃 眼 医 会 費	4,268,000	4,361,000	93,000	－	A × 64 B × 76 C × 15
3	入 会 金	150,000	150,000	－	－	
4	補 助 金	200,000	100,000	－	100,000	県医師会
5	そ の 他	1,000	1,000	－	－	
6	繰 越 金	5,306,985	5,254,277	－	52,708	
合 計		10,343,985	10,289,277	98,000	152,708	

支出の部

費 目		平成28年度 予 算	平成29年度 予 算	比 較		備 考
				増	減	
1	関プロ分担金	418,000	423,000	5,000	－	
2	事 務 通 信 費	650,000	650,000	－	－	
3	総会学会補助	1,800,000	1,300,000	－	500,000	白内障学会
4	出 張 費	450,000	450,000	－	－	
5	会 議 費	700,000	700,000	－	－	理事会等
6	慶 弔 費	100,000	100,000	－	－	
7	人 件 費	1,500,000	1,500,000	－	－	
8	そ の 他	500,000	500,000	－	－	
合 計		6,118,000	5,623,000	5,000	500,000	

平成29年度 栃木県眼科医会医事対策費予算

収入の部

費 目	平成28年度 予 算	平成29年度 予 算	比 較		備 考
			増	減	
1 対 策 費	1,725,000	1,660,000	－	65,000	A × 64 B × 76
2 助 成 金	200,000	250,000	－	175,000	
3 そ の 他	10,000	10,000	－	－	
4 繰 越 金	9,809,208	9,064,010	－	745,198	
合 計	11,744,208	10,759,010	0	985,198	

支出の部

費 目	平成28年度 予 算	平成29年度 予 算	比 較		備 考
			増	減	
1 事 務 通 信 費	510,000	120,000	－	390,000	ホームページ管理費、振込手数料
2 行 事 開 催 費	2,300,000	750,000	－	1,550,000	目の健康講座
3 広 告 費	600,000	600,000	－	－	新聞、ラジオCM
4 そ の 他	200,000	200,000	－	－	障害保険
合 計	3,610,000	1,670,000	0	1,940,000	

平成29年度 栃木県眼科医会年会費

内 訳	A 会 員	B 会 員	C 会 員	準 会 員
関 プ ロ 会 費	4,000	2,000	1,000	0
栃 眼 医 会 費	52,000	13,000	3,000	52,000
医 事 対 策 費	20,000	5,000	0	20,000
合 計	76,000	20,000	4,000	72,000

平成28年度栃木県眼科医会会費納入のお願いが届き次第、お振込願います。

※ 自動振込機（ATM）からのお振込も可能ですのでご利用ください。

〔足利銀行 江曾島支店 店番号109 口座番号3799666 普通預金〕
 〔栃木県眼科医会 会計 城山 力一〕

※ 尚、お振込の際、振込者氏名欄は所属病院名ではなく、個人名（フルネーム）にてお願い致します。

栃木県眼科医会役員 平成29年度

	顧問	会長	副会長	理事	監事
那 須		原 裕			
塩 谷				高橋 雄二	
上 都 賀			吉澤 徹	堤 雅弘、細川美奈子	
宇 都 宮			旭 英幸	大久保 彰、苗加 謙応 福島 一哉、早津 宏夫	宮下 浩 鈴木隆次郎
下 都 賀				城山 力一、斉藤 哲也 石崎 道治	
小 山				蘇 沽訓、大柳 静香	
佐 野				大野 研一	
足 利	柏瀬 宗弘			井岡 大治	
芳 賀					
自 治	川島 秀俊			牧野 伸二、井上 祐治	
獨 協	妹尾 正			永田万由美、青瀬 雅資	
公的病院				上田 昌弘	

栃木県眼科医会理事職務分担表 平成29年度

	担当副会長	担当理事(正)	担当理事(副)
総 務	吉澤(徹)	福島	井岡、早津(宏)
経 理	吉澤(徹)	城山	蘇
学 術	旭	大久保(彰)	早津(宏)、牧野、井上(祐)、永田(万)、青瀬
医 療 安 全 対 策 及 び 福 祉	旭	斉藤(哲)	石崎、井岡、堤(雅)
保 険	吉澤(徹)	井岡	城山、蘇
広 報	旭	大柳	大野、早津(宏)、牧野、青瀬
学 校 保 健	旭	苗加	斉藤(哲)
公 衆 衛 生	吉澤(徹)	堤(雅)	福島、高橋(雄)
医 療 対 策	旭	高橋(雄)	斉藤(哲)、堤(雅)
勤 務 医	吉澤(徹)	上田	牧野、井上(祐)、永田(万)、青瀬
男 女 共 同 参 画	吉澤(徹)	細川	高橋(雄)、大柳、永田(万)



平成28年度栃木県眼科医会忘年会開催報告

医療安全対策及び福祉担当理事 齊 藤 哲 也（栃木市）

平成28年度栃木県眼科医会忘年会は 12月1日(木)に宇都宮のホテルニューイタヤにて開催されました。

20名の会員の先生方の出席がありました。新規開業の先生の紹介をはじめ、カラオケもあり、楽しい忘年会となりました。

原眼科医院	原 裕	ほり眼科	堀 秀 行
吉澤眼科	吉 澤 徹	井野田眼科クリニック	釣 巻 穰
旭眼科内科	旭 英 幸	原眼科医院	原 岳
しろやま眼科	城 山 力 一	獨協医大	松 島 博 之
福島眼科	福 島 一 哉	獨協医大	永 田 万由美
石崎眼科	石 崎 道 治	獨協医大	山 崎 駿
おおくぼ眼科	大久保 彰	獨協医大	新 井 亜由美
さいとう眼科	齊 藤 哲 也	自治医大	井 上 裕 治
たかはし眼科	高 橋 雄 二	自治医大	小 幡 博 人
もりや眼科	森 谷 充 雄	自治医大	新 井 悠 介





平成28年度関ブロ会報編集委員会報告

広報担当理事 大 柳 静 香（下野市）

●日 時：平成29年2月5日(日) 12時～14時

●場 所：新横浜プリンスホテル

●出席者：

神奈川県	小 口 和 久	（関ブロ世話人・支部長）
	奥 脇 賢 一	（関ブロ運営部担当理事）
	秋 山 修 一	（関ブロ会計担当理事）
	河 野 智英子	（関ブロ会報担当理事）
	松 本 覚	（関ブロ会報担当理事）
茨城県	中 村 悦 子	（編集委員）
栃木県	大 柳 静 香	（編集委員）
群馬県	馬 場 敏 生	（編集委員）
千葉県	田 村 雅 弘	（編集委員）
埼玉県	石 川 隆	（編集委員）
山梨県	保 坂 理	（編集委員）
長野県	畠 山 晃	（編集委員）
新潟県	吉 澤 豊 久	（編集委員）

議題：関ブロ会報46号の編集について

発行予定日 平成29年4月26日

原稿締切日 平成29年2月5日

第53回関東甲信越眼科学会が平成29年5月27日、5月28日に山梨県で開催される。担当県である山梨県が、表紙、巻頭挨拶および関東甲信越眼科学会の講演抄録を担当する。

第52回関東甲信越眼科学会の印象記、各委員会報告は栃木県が担当する。

日眼医報告を原 裕先生（栃木県）、目の健康講座を茨城県が担当する。

会長のことば、各県だより及び随筆は各県とも提出する。

栃木県からは、会長のことば：原裕会長、各県だより：福島一哉先生、随筆、エッセイ：早津宏夫先生、第52回関東甲信越眼科学会の印象記、各委員会報告、日眼医報告：原 裕先生、編集子囁言：大柳静香を提出した。



平成28年度「目の愛護デー」記念行事報告

公衆衛生担当理事 堤 雅 弘（宇都宮市）

本年度も、平成28年10月2日(日)宇都宮市保健センターにおきまして、「目の愛護デー」記念行事を開催いたしました。午後2時より「目の健康講座」を開催しました。本年は自治医科大学眼科学教室講師 高橋秀徳先生をお招きし「加齢に伴う眼の病気～加齢性黄斑症の予防と治療～」と題しまして、御講演いただきました。参加者は88名の方にご来場いただき、講演後の質疑応答も最近話題の疾患ということもあり様々な質問が出ておりました。講演会に引き続き、午後3時から午後4時まで「目の健康相談」を開催しました。相談員は大柳静香先生、石橋生朗先生、及び栃木県眼科医会理事数名で行いました。相談者数は41名の方にご参加いただき、皆さん熱心にご相談されました。時間的にもお待たせしてしまいましたが、

ご満足の様子で帰られていました。また開催時間中、眼科関連メーカーの皆様の協力にて、「眼圧無料測定」を行いました。こちらも盛況で参加者は60名でした。

今年は関東甲信越ブロック眼科学会が栃木で開催されましたこともあり、来年度は特別企画として市民公開講座と題し開催する予定となっております。多くの方にご来場いただきたいと思いますので、会員の皆様のお力添えをお願いしたいと思います。

最後になりましたが、休日にもかかわらずご参加ご協力頂きました皆様には厚く御礼申し上げます。今後とも会員の皆様におかれましても、本行事へのご支援の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



城山 カー（しろやま眼科）

BRITNEY SPEARSの東京ライブのチケットが手に入りました。病院を休んで、行ってきます。

大野 研一（大野眼科クリニック）

この5月にオランダに行き、画家ゴッホゆかりの地を訪れた。町歩く人は皆長身で平均身長男性184cm、女性171cm（日本人男性171cm）だそうだ。

齊藤 哲也（さいとう眼科医院）

昨年夏、久しぶりに大阪城に行ってきました。真田丸にも行きたかったのですが、あまりの暑さに気力が無くなり諦めました。残念。

上田 昌弘（国際医療福祉大学塩谷病院）

5月の連休に家族でハワイに行ってきました。多忙な生活から解放されリフレッシュ。来年のARVOはホノルルです。どうしようかな。

宮澤 敦子（宮澤眼科クリニック）

7年前から毎年夏に松本に行きサイトウ・キネン・オーケストラを聴いています。今年は小澤征爾指揮、内田光子ピアノのベートーベン、ピアノ協奏曲第3番ハ短調、Op37です。

柏瀬 光寿（柏瀬眼科）

50歳を目前に、やりたいこと、やらなくてはいけないことがたくさん。でも欲張っていないで、手放し身も心も軽くなります。そして楽に、ますます楽しく生きていくぞ～！

高橋 秀徳（自治医科大学）

最近は人工知能ばかりやっています。

稲葉 全郎（稲葉眼科）

宇都宮市医師会理事情報担当東大眼科白内障手術永原教授ターコイズグリーン日光CC那須GCサンレイクCC宇都宮CC写真医師会合唱部ゴルフ部優勝

柏瀬 宗広（柏瀬眼科）

足利市 昭和32年卒で慈大の眼科にいた頃、隣の耳鼻科の後輩に 両目の真中にある鼻位、眼科に廻したらと言ったら 一番の稼ぎ頭は渡せない。

石崎 道治（石崎眼科）

昨年12月頸椎症脊髄症のOPを受けました。手足のしびれは30歳代からありました。心当たりのある方は早めの整形外科受診をお勧めします。

原 岳（原眼科病院）

第33回日本視機能看護学会が今年の8月26日と27日の土曜、日曜に宇都宮市の総合文化センターで開催されます。看護師、ORTの方の多数参加をお待ちしています。

宮下 博行（獨協医大）

いつも大変お世話になっております。今後ともよろしくお願いいたします。

吉澤 徹（吉沢眼科）

4月の待つに2番目の孫が生まれました。子供は2人とも男でしたし、どうも女の子には縁がなさそうですが、ぜいたくを言うてはいけませんね。

森谷 充雄（もりや眼科）

森谷充雄、もりや眼科院長、2月にICL手術を受けました。メガネのない生活はとても快適です。朝起きてメガネを探すクセがなかなか直りません。



第85回栃木県眼科医会親睦ゴルフコンペ

ゴルフ担当理事 石 崎 道 治 (壬生町)

石崎 道治	腰痛の為、午前中は20オーバー。午後は腰ベルトをはずし痛みをこらえて9オーバー。まずまず。
大塚 信行	厳しい戦いでした。春の宮の森、頑張ります。
苗加 謙応	あわやホールインワンかと思うショートが1つあり、自分でびっくりしました。
関本慎一郎	全ホール歩いて回られた柏瀬先生に脱帽です。
加藤 健	今日はお昼を食べすぎました。また次回頑張ります。
稲葉 全郎	初めてのコースで不調でしたが紅葉は楽しめました。ありがとうございます。
柏瀬 宗弘	午前中はシニア、午後は赤マーク。赤マークの方がよく飛んだ気がします。
高橋 佳二	11月なのに半袖でプレーできました。今日青森にもどると雪です。
山崎 駿	初参加でしたが楽しくラウンドする事ができました。次回も宜しくお願い致します。
中村 恭子	バンカーで大叩きして戦意喪失しました。商品がもらえるように頑張りたいです。寒くなくて良かったです。
大久保 彰	OUT46、IN47、GROSS93でした。メンバーに恵まれ優勝できました。ありがとうございました。
茨木 信博	天気とメンバーに恵まれ、良いゴルフ日和でしたが……
木村 政彦	スコアはいまいちでしたが楽しくラウンドさせて頂く事ができました。また宜しくお願い致します。
寺村 仁	今日も楽しくラウンドさせて頂きました。いつもありがとうございます。次回も宜しくお願い致します。
阪下 直樹	上達したと思っていましたが、久しぶりに120もたたいてしまいました。また次回頑張ります。



ゴルフコンペ成績表

平成28年11月20日(日)
太平洋クラブ 益子コース

	NAME	OUT	IN	グロス	HDCP	NET		NAME	OUT	IN	グロス	HDCP	NET
1	大久保 彰	46	47	93	23.6	69.4	9	関本慎一郎	43	45	88	12.8	75.2
2	加藤 健	46	53	99	28.4	70.6	10	石崎 道治	56	44	100	23.6	76.4
3	苗加 謙応	48	50	98	27.2	70.8	11	中村 恭子	57	61	118	40.4	77.6
4	稲葉 全郎	46	49	95	23.6	71.4	12	大塚 信行	55	56	111	33.2	77.8
5	高橋 佳二	47	45	92	20	72	13	茨木 信博	50	55	105	26	79
6	木村 政彦	48	44	92	18.8	73.2	14	山崎 駿	66	54	120	40.4	79.6
7	柏瀬 宗弘	53	51	104	29.6	74.4	15	寺村 仁	69	59	128	45.2	82.8
8	阪下 直樹	56	64	120	45.2	74.8	16						

故 松 島 雄 二 先生 追悼



御 略 歴

生年月日：昭和11年8月8日

学 歴：

昭和36年3月 新潟大学医学部卒業
昭和37年3月 長岡赤十字病院インターン終了
昭和37年4月 新潟大学医学部眼科学教室入局
昭和41年3月 新潟大学医学部医学研究科博士課程
医学博士
昭和44年5月 松島眼科医院を佐野市に開設
平成4年2月 医療法人社団松島眼科医院開設
同理事長就任

平成29年4月14日逝去

表 彰：

平成19年1月 栃木県学校保健会功労者表彰
平成20年10月 公衆衛生事業功労者厚生労働大臣
表彰
平成28年10月 学校保健・学校安全文部科学大臣
表彰

松島雄二先生を偲んで

ゴルフ担当理事 石 崎 道 治（壬生町）

ゴルフが大好きな松島雄二先生が平成29年4月14日に亡くなられた。享年81歳でした。長男の松島博之先生にお聞きしたところ、3年前から腎臓がんと直腸がんで手術・化学療法・放射線治療を受け先月までは順調だったとの事でした。実際、平成28年12月7日に獨協医科大学病院2階の検査室の前で偶然お会いしたときは、顔艶もよく大変お元気そうでした。「検査データも良好」「お互い体に気を付けて、春になったらまた一緒にゴルフをしましょう」と当時体調を崩していた私を励ましてくれました。一緒にゴルフをする事は叶わなくなりましたが眼科医会親睦ゴルフコンペの写真には楽しんでいる先生の姿が幾つもありました。

記録を見ると最後に参加していただいたのは平成25年10月、宮の森カントリー倶楽部で行われた第79回のコンペでした。悪天候によりハーフで中止になりましたが、見事優勝なさいました。平成25年4月の第78回は佐野ヒルクレストコースで行われ夫人の優子さんが優勝され、「良い天気、山も新芽がでて本当に美しい景色でした」と楽しんでおられました。

先生と一諸にプレーした楽しいゴルフが思い出されます。

ありがとうございました。安らかにお休みください。



第78回栃木県眼科医会親睦ゴルフコンペ 平成29年5月

故 原 たか子 先生 追悼



御 略 歴

生年月日：昭和10年 8 月11日

学 歴：

昭和36年 女子医科大学卒業

昭和37年 東京医科大学眼科学教室入局

昭和54年 静的視野で医学博士号取得

職 歴：

昭和39年 医療法人圭明会 原眼科病院 勤務

昭和47年 同 副院長

平成29年 3 月14日 逝去（81歳）

原たか子先生を偲んで

小暮眼科 小 暮 正 子 (宇都宮市)

原たか子先生が、平成29年3月14日82歳でご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

ご家族の方々のお見送りを受けて旅立たれたとのご連絡を受けた時は、絶句してしまいました。先生は病と闘いながらも最後まで原眼科病院の一翼を担っておいででしたから、ご遺族様のご心痛と落胆はいかばかりであったかとお察し申し上げます。

昨年来、原眼科病院は増改築工事の最中で、先生は毎日槌音をお聞きになりながら、その完成を心待ちにしておられたことでしょう。落成を見届けることなく、急ぎ旅立たれてしまいました。心残りは計り知れないと思われ、残念でなりません。

先生は昭和36年3月東京女子医大を卒業され、東京第二病院にてインターン後、東京医大眼科入局と学外にお出に成られました。従って昭和37年4月入学の私とは、河田町でともに過ごしたと言うことはありませんでした。

後年、私が栃木県に転居してきた時、「宇都宮にすごい女医さんがいる」としばしば聞かされました。当時先生は、顕微鏡手術とTV中継、眼内レンズ、超音波白内障手術、網膜光凝固術と最先端の眼科手術の魁けとしてご活躍でした。孜先生のロンドン留学を機に原眼科病院に移られ、留守を守られました。帰国後はご自身が医局に復帰して研究を続行し、博士論文を仕上げられました。ご家庭にあっては、4人のお子様を立派に養育されました。常に孜先生とは車の両輪として診療、

経営に携わり、まさに八面六臂のご活躍です。

このような日々を過ごされている先生には容易に近づき難く、気軽に世間話をすると言う雰囲気ではありませんでした。

昭和50年代半ば「ベラドンナの会」という眼科女医の親睦会が出来ました。当時は6人位で発足しましたが、今では第3世代に引き継がれ、大いに発展しております。この会をきっかけに、研究会や学会でお会いする機会が増え、親しくお話をさせていただくようになりました。先生は大変明るく、ユーモアのある会話はとても楽しいものでした。声を出して笑ったりと親しみやすいお人柄であり、大きな瞳の美しいお顔立ちは憧れでもありました。

「写真で綴る原眼科病院の歩み」の中に岳先生の手術の練習を後ろから腕組みしながら指導監督してる先生の一葉の写真があります (p.86)。背中に緊張感のが漂う岳先生、一方軽くほほえみながら視線の先の人に話しかけているようなたか子先生、お二人の対比が映し出されたひとコマです。

先輩眼科医として、母親として、この一枚の写真の中に原たか子先生ご自身が凝縮されております。それは東京女子医大創立者吉岡弥生学頭の理念とする女医像そのものであるからです。

手術の訓練を受けられた4代目は立派に成長され、更なる発展飛躍に邁進しておられます。先生、どうかご安心下さい。

心からのご冥福をお祈り致します。



獨協医大の近況

獨協医大眼科 医局長 永田 万由美

栃木県眼科医会会員の皆様には平素より大変お世話になっております。恒例ですが、平成29年度の獨協医大眼科学教室の近況を報告させていただきます。

まず、昨年末から今年度にかけての当院院内感染による診療業務縮小の影響で、栃木県眼科医会会員の皆様には大変ご迷惑、ご心配をお掛けし、申し訳ございませんでした。現在は、給食センターのシステムを改善し、通常通り業務を行っております。皆様の御協力に心より感謝申し上げます。

現在の医局の現状ですが、平成29年5月現在、大学内は21名の常勤医（レジデント3名、女医支援枠4名含む）、非常勤講師5名、非常勤助教1名の27名で構成されています。その他に済生会宇都宮病院3名、うつのみや病院2名、西大宮病院2名、那須赤十字病院1名、那須南病院1名、石橋総合病院1名、小沢眼科病院（茨城）1名、計11名の学外派遣医がおります。

外来診療は相変わらず診察までの待ち時間が長く、患者様には大変ご迷惑をお掛けしております。現在、手術は2部屋並列で行っており、Zeiss Rescan 700も導入され、角膜移植や眼底疾患の術中診断に活用しています。緊急患者様にも早めに対応するようにしていますが、眼科病棟が満床になってしまうことも多く、当日の入院が厳しい場合もありますのでご理解いただければ幸いです。

今年は新入医局員として千葉矩史先生、棕木かれら先生という2名のレジデントの先生が入局してくれました。千葉先生は千葉桂三准教授のご子息で、学生のころから医局員とも親しかったせ

いか、以前からずっと入局していたように？医局になじんでいます。野球部のエースとして培った体力とダンス部としての身のこなしで、診療業務だけでなく、医局員の結婚式の余興でも活躍しています。棕木先生は岩手医科大学から当教室に入局してくれました。「かれら」という名前にふさわしく、車に関する知識量は当教室の岡安先生を凌ぐほどです。とても努力家で新しい環境で早く仕事に慣れようと毎日頑張っています。2人とも高身長でイケメン（たぶん？）、というわけで、「獨協医大with B」としてこれから活躍してくれることを期待しています。

若手の先生が増えたことで医局も活気があふれています。勉強会の他、ウェットラボも月に2、3回は開催し、皆、切磋琢磨して診療や手術手技の習得に励んでいます。

今年は第56回日本白内障学会総会を当教室主催（会長：松島博之）で8月4日～6日に宇都宮東武ホテルグランデで開催いたします。（学会HP <http://www.congre.co.jp/2017jsr/>）有意義で充実した学会になるよう、事務局長の青瀬雅資医員を中心に鋭意準備してまいります。栃木県眼科医会の皆様には一層のご指導とお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年も妹尾正教授を中心に、医局員一同、地域医療および眼科学の発展に貢献していきたいと考えております。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



自治医大の近況

自治医大眼科 医局長 新井 悠介

栃木県眼科医会の先生方には平素より大変お世話になっております。この場を借りて感謝申し上げます。平成28年度より医局長を務めさせていただいております、新井悠介と申します。どうぞよろしくお願い致します。

現在の自治医大眼科の医局の現状を申し上げます。本年度は自治医大眼科入局者が2名と東京大学眼科入局の2名の先生が派遣され計4名の先生が入局しました。平成29年4月現在で、川島秀俊教授以下16名の常勤医の体制です。ここ数年は医局員が減っていましたのでうれしい限りです。4名の若々しい研修医達は、検査、外来、手術と大変な毎日を過ごしておりますが、とても熱心に勉強しており、今後の活躍が非常に楽しみです。

また、4月より芳賀赤十字病院に常勤として坂本晋一先生が派遣となりました。今まで外来のみの診療で、芳賀地区の先生方には大変ご迷惑をおかけしておりました。硝子体注射、5月からは入院での白内障手術も開始いたします。体制が整い次第、ゆくゆくは硝子体手術も開始できるよう鋭

意準備を行っております。こちらに関しましても、どうぞよろしくお願い致します。

さて、すでにご存知のことと思いますが、平成12年から長きにわたり自治医大眼科に勤務された小幡博人先生が、平成29年1月埼玉医科大学総合医療センター眼科教授としてご栄転されました。先生は、眼腫瘍、角膜、眼形成と多岐の分野で診療してこられ、若手医師がその教えを引き継ぎつつ外来診療を継続しております。眼科医会の先生方には何かとご迷惑をおかけする場合もあるかと思いますが、ご容赦の程よろしくお願い致します。現在、自治医大病院では「断らない医療」を推進しております。時間外でも緊急の対応が必要とされる患者さんにはしっかり対応させていただきますので、どうぞよろしくお願い致します。

最後になりましたが、教授のもと医局員一同日々努力し、栃木県の眼科医療に貢献して参りますので、今後も何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

新入会員自己紹介



堀 秀 行
(ほり眼科クリニック)
宇都宮市

この度、栃木県眼科医会A会員に入会させていただきました、堀 秀行と申します。

私は、昭和47年岐阜県出身で、平成9年に東京大学を卒業したのち、自治医科大学眼科学教室に入局し、眼科の臨床に携わってまいりました。

大学からの派遣で県内の病院では、済生会宇都宮病院、芳賀赤十字病院、国立栃木病院（現 栃木医療センター）に勤務する機会を与えていただき、2011年、自治医大を退局後は、日光市の阿久津医院に勤務しておりました。

地方の出身ですので、ビルの林立する大都市よりも、夜空の見渡せる地方で働きたいと考えていました。宇都宮は私の育った岐阜県とよく似ていて、北には山々がそびえ、周囲は河川に囲まれており、自然が豊かな環境なのに大都市へのアクセスが容易で、このようなくらしやすいところで診療できればと考えておりました。

本年1月10日に、妻の実家の近くである宇都宮市北部に、眼科クリニックを開業いたしました。地域の皆さま方に、目の悩みについて気軽に相談できるかかりつけ医として、また、大きな病院まで行くのが困難な患者様のサポートとしての役割を、全力で果たして参りたいと考えております。

開業医としては全くの初心者ですので、診療以外の面で悪戦苦闘しながらの毎日です。栃木県眼科医会の先生方にはいろいろご迷惑をおかけすることがあるかと存じますが、よろしくご指導のほどお願い申し上げます。



長谷川 憲 司
(インターパークビレッジ眼科)
宇都宮市

この度、栃木県眼科医会に入会させていただきました、医療法人社団翠光会 インターパークビレッジ眼科の長谷川憲司と申します。

私は、広島生まれの広島育ちで、根っからのカープ男子です。平成7年に東京医科歯科大学に進学し、卒業後は、母校の眼科医局に進みました。東京・埼玉・静岡と周ったのち開業し、先日まで、東京にて医療法人社団翠光会上野毛クリニックの理事長兼院長をしておりました。そちらのクリニックでは、眼科分野の往診に力を入れており、老人ホームなどへの往診を行い、眼科に通えない患者さんの診察・治療をしておりました。ご存知通り、眼科は専用の医療機器がないと診察が難しく、総合的に患者さんを診る在宅医療では、特殊検査が難しいのが実情です。在宅でのケアの一助として、眼科医が主治医の補佐を行うことで、地域医療に貢献できたのではないかと思います。現在、宇都宮では外来のみしか行えておりませんが、将来的には東京で培った眼科の往診も行っていきたいと考えておりますので、在宅をされている先生で、眼科疾患followでお困りの事がございましたら、お声がけ頂けると幸いです。

さて、私事ですが、趣味は、スキーとトライアスロンに汗を流すことで、そしてなにより、その後のお酒は外せません。以前より、冬の休日はハンターマウンテンに通い、宇都宮で餃子を食べ、東京に帰る、というのを楽しみにしておりました。そのため、仕事では宇都宮との縁は薄かったのですが、個人的には非常に愛着を感じている街でした。この度、福田屋のインターパーク内に開業させて頂いたのですが、その話を頂いた時も、やはりこれもご縁だなと確信し決断いたしました。

隣には、翠光会のインターパークビレッジ内科外科もありますので、院長の藍原有弘先生とも力を合わせ、地域の医療に貢献したいと思っております。

で、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



鈴木悦子
(柏瀬眼科)
足利市

この度、栃木県眼科医会に入会させていただきました鈴木悦子と申します。よろしくお願い申し上げます。

私は平成8年に東京医科大学を卒業し、同大学眼科学教室に入局。大学病院、また出張病院である戸田中央総合病院、東京医大八王子医療センター、蕨市立病院などで勤務してきました。

高校卒業まで過ごしたこの地に戻って来ることとなり、町の様子も大分変わったことに驚いておりますが、こちらでの生活にもやっと慣れてきたところです。

これからも今までの経験を生かし、少しでも地域医療に貢献できればと考えております。

今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



佐野一矢
(自治医科大学眼科)

栃木県眼科医会に入会させていただきました佐野一矢と申します。

初期研修2年間は自治医大病院で行い、その後は出身地である島根県出雲市に在ります島根大学病院・松江赤十字病院で勤務しておりました。このたび縁あって自治医科大学眼科学講座にお世話になることとなりました。

当講座内の雰囲気は良く、忙しい中においても日々楽しく仕事をさせて頂いております。微力ながら栃木県眼科医療のお役に立てるよう頑張る所存でございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



今泉敦志
(新小山市民病院眼科)

この度、栃木県眼科医会に入会させていただきました今泉敦志と申します。よろしくお願いいたします。

「空っ風とかかあ天下」で知られる群馬県の赤城山の麓で生まれ育ち、昭和大学へ入学。平成10年昭和大学眼科に入局し、昭和大学付属東病院、御代田中央記念病院、今泉西病院等に出向した後、2006年友愛記念病院へ出向してきました。

昨年、地域医療に貢献できればと新小山市民病院へ入職致しました。

新小山市民病院は、昨年現在の地に移転し、ドラマのロケで使われそうなどともきれいな施設・環境です。地域医療の中核を担い、「チーム医療」を心掛け医師・職員一同団結して地域の皆さまの信頼と安心を得られるよう努力しております。

これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



山崎駿
(獨協医科大学眼科)

この度、栃木県眼科医会に入会させていただきました山崎駿と申します。

獨協高校を卒業後に獨協医科大学に進学し、母校での2年間の臨床研修を終え2016年に獨協医科大学眼科学教室に入局しました。諸先輩方の熱心で丁寧なご指導の下、毎日充実した生活を送らせていただいております。

もともと父が眼科医であったため学生時代から眼科に興味を持っていました。母校での初期研修期間中に眼科を回らせていただき、その奥深さや面白さ、また獨協医大眼科学教室の素晴らしい雰囲気に魅了され入局を決意しました。

まだまだ未熟者であり栃木県眼科医会の先生方にはご迷惑をおかけしますが、日々精進していく所存です。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



私の庭遊び

大 柳 静 香 (下野市)

我が家の庭には10年程前から鉄骨が立ち、防球ネットが張られていました。夫が自分のゴルフ練習のためと子供の野球練習用に作ったのです。しかし、キャッチボールの相手はできなくなるほど子供の投球は強くなり、ゴルフの練習も庭では物足りなくなったので無用の長物となっていました。2年前にやっと鉄骨とネットを取り除き、放置していた庭の手入れを始めました。

それまでは雑草が伸び放題でもネットが隠してくれていたのですが、見渡しがよくなると雑草が丸見えです。仕方なく草むしりを始めたのですが、これがやってみるととても楽しいことに気がきました。ひたすら作業をしながら、誰にも邪魔されることがなくいろいろな事を考える最高の時間を持つことができるのです。鳥や虫の声を聴いたり、

風の音や香り、木や草花そして土の香りをゆったりと感じながらの作業は、心と体の安らぎを実感することができます。夏の暑さの中での草むしりはつらいですが、たくさん汗をかいて水分をとり代謝を促すことで、毎日冷房のきいた診察室で過ごして溜まった老廃物を排出できている気がします。蚊だけはストレスですが。

また、土いじりの作業は自然とスクワット運動をしています。気付かないうちに、すごい回数を行っていたりします。このあたりも、園芸作業が心と体のリハビリ治療として有効といわれるところなのでしょう。

好きな木や草花を植えるようになると、害虫が気になります。苦手な青虫も、花や若葉を食べていると怒りが先に立ち、思わずつかみとって駆除することができるようになりました。カナヘビやトカゲは、アブラムシや青虫を食べてくれる大事な生き物なので大歓迎です。クモも以前は苦手でしたが、虫を捕えてくれるので庭では共生しています。今の時期（5月）には新芽にアブラムシがつき始めます。アリとアブラムシの共生はよく知られていることですが、アリはアブラムシから甘い汁をもらって天敵のテントウムシから守っているだけではありません。よくよく見ると、アブラムシを捕まえて巣に持ち帰っていたりします。まるで家畜のような、牛や鶏と人間の関係に似ています。飛んできたばかりのアブラムシを恨みを込めて捕殺していると、出産中に遭遇。昆虫なのに卵ではなく子供を産むのを初めて知りました。何匹産むのかと観察していたら、20を数えたあたりで気分が悪くなり殺虫剤を撒いてしまいました。調べてみると、春のアブラムシは全てがメスらしく、オスはいないようです。クローン生殖するのでメスだけで増えます。つまりたくさんついたアブラムシは、遺伝子が全く同じ子供なので



す。しかもその子供も胎内にすでに子供を宿している。生まれて1週間で出産し、1か月間出産し続ける。ネズミ算どころではない、驚異的な繁殖力です。逃げる能力のないアブラムシは、この繁殖力で個体維持しているのだなと感心してしまいます。そんなことを考えながらながめていると、あっという間に時間が過ぎてしまいます。子供の頃にも庭にいる昆虫に夢中になっていたことを思い出します。数年前、小学生がよく使用する学習帳の表紙から昆虫の写真が消えました。「気持ち悪い」という声が親や教師から寄せられたそうです。しかしその後、1970年代から2000年代までの年代別に表紙の人気投票を行ったところ、全ての年代で昆虫がトップになったそうです。子供たちは昆虫が好きなのに、大人はいつから嫌いになってしまったのでしょうか。

木や花が増えると、昆虫だけでなく野鳥もやってくるようになりました。特に冬、野山の餌が少なくなるからなのでしょう、庭に野鳥が増えてきます。赤や黄のきれいな実が食べられてしまうとがっかりするのですが、食べている様子がなんと

も可愛らしい。スズメ、シジュウカラ、メジロ、モズ、ムクドリやヒヨドリはよくやってきます。たまにウグイスも飛んできて、鳴き声の大きさに驚かされます。冬の姿は丸々として可愛いのですが、よく見るととても野性的な顔立ちです。庭に面する縁側からガラス越しに鳥を観察するのが冬の楽しみなので、今年はエサ台を作ろうかと考えています。そうしないと、小鳥たちは木の実だけではなく、パンジーの可愛い花まで食べてしまうので。

庭遊びを始める前は特に趣味もなく、毎日の仕事と家事に追いまわられて、季節の変化にも気付かず年月が過ぎ去っていました。庭で草木や小さな生き物たちと関わることで、わずかな気温の変化を感じられるようになり、たくましい生命力に触れてパワーをもらっています。それまで春は「学校検診と視力検査が忙しい季節」でしたが、「たくさんの花が咲くうれしい季節」に変わりました。今はバラの開花を心待ちにして毎日庭に出ています。私の一番の癒しの空間です。





平成28年度 栃木県アイバンク募金 協力医療機関への御礼

公衆衛生担当理事 堤 雅 弘（鹿沼市）

栃木県眼科医会会員の皆様におかれましては、平素アイバンク募金へのご協力を賜り誠にありがとうございます。

本年度も例年のごとく募金の回収を4月の総会時に直接アイバンクの方に直接手渡すという形で回収させていただきました。各医療機関の皆様には毎年お手を煩わすかたちとなり、誠に恐縮に存じ上げるとともに皆様のご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、平成28年度も20の医療機関のご協力を得て、合計212,694円の募金を頂きました。
今後とも募金活動のご協力をお願い申し上げます。

協力医療機関一覧は以下のとおりです（順不同・敬称略）

旭眼科内科クリニック・金子眼科・のうか眼科・早津眼科医院・福島眼科医院・宮下眼科
医院・つつみ眼科クリニック・吉沢眼科医院・しろやま眼科・自治医大眼科学講座・田島
眼科医院・かとう眼科医院・斉藤眼科医院・城南眼科クリニック・原眼科医院・宮澤眼科
クリニック・井岡眼科医院・柏瀬眼科医院・国際医療福祉大学塩谷病院・たかはし眼科

ご協力ありがとうございました



Rhoキナーゼ阻害薬－緑内障・高眼圧症治療剤－ 薬価基準収載

ガラナテック®点眼液0.4%

GLANATEC®ophthalmic solution 0.4% (リバスジル塩酸塩水和物点眼液)

処方箋医薬品：注意－医師等の処方箋により使用すること

Kowa

製造販売元（資料請求先）
興和株式会社
東京都中央区日本橋本町三丁目4-14
販売元
興和創薬株式会社
東京都中央区日本橋本町三丁目4-14

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

16.7作成

お し ら せ

○日眼医通信の転送を希望される方へ

現在、日本眼科医会では「日眼医通信」というメールマガジンを発行しています。

日眼医のホームページによれば「理事会速報、ホームページ更新情報、その他、会員の皆様のお役に立つ速報性のある情報提供手段」とされています。(詳しくは日眼医ホームページ参照)

メールマガジン「日眼医通信」を希望される方は下記のメールアドレスに、氏名、所属、メールアドレスを送ってください。

登録いただければ、日眼医からの日眼医通信を受け次第、転送いたします。

Eメール kouhouganka@gmail.com

栃木県眼科医会 広報担当 大柳 静香

○ASCRSで永田麻由美先生が受賞

本年5月にロサンジェルスで開催されたASCRS Film Festivalに於いて、当会会員の永田万由美先生がBest of the Best を受賞されました。ASCRSは米国で開催地を変えながら行われる世界的に大きな眼科学会の一つで、Film Festival は毎年話題にのぼります。そこで永田先生が受賞されたことは、栃木県眼科医会にとりまして誠に名誉なことと思います。今後の先生の御活躍を期待し、会員の皆様に御報告いたします。

ASCRS Film Festival Best of the Bestを受賞して

獨協医科大学眼科学教室 永 田 万由美

今年のASCRS (American Society of Cataract and Refractive Surgery) はロサンゼルスで開催されました。今回私は初めてFilm Festivalに応募し、幸運にもCataract Complication 部門でBest of the Bestを受賞することができました。

今回報告したフィルムのタイトルは、「Prevention of anterior capsulorhexis contraction」で、3種の形状の異なるIOL (ZCB00V (AMO)、SN 60WF (Alcon)、FY-60AD (HOYA)) の前囊収縮を比較し、前囊収縮抑制のメカニズムについて検討しました。術後1週、1ヶ月、3ヶ月に前眼部写真を撮影し、AreaQという解析ソフトを用いて前囊収縮率を解析しました。すると、前囊収縮率はZCB00Vで統計学的有意に少ないことが解りました。この結果に強い疑問を抱き、細隙灯顕微鏡で前眼部の状態を詳しく観察したところ、SN 60WFとFY-60ADでは前囊切開縁はIOL前面と接し線維性混濁が生じていましたが、ZCB00VではIOL前面の間に隙間があり、前囊切開縁の線維性混濁が少なくなっていることに気づきました。なぜ、IOLとの隙間があると前囊線維性混濁が生じにくいのでしょうか？以前より、房水に含まれるサイトカインが水晶体上皮細胞 (LEC) の増殖を抑制し、アポトーシスを誘導することが報告されており^{1) 2)}、実は、房水のLEC増殖抑制効果についての研究は既に当教室の青瀬先生を中心に家兎を用いた研究を報告しています³⁾。さて、前囊収縮の少ないZCB00Vの形状に着目すると、他のIOLと異なり光学部周辺にrimと呼ばれる窪みを持ち、前囊切開縁が光学部に接しにくい構造になっていることが解ります。この結果、ZCB00Vでは前囊下に房水が溜流し、前囊切開縁のLECの術後増殖と線維性混濁の進行が制御され、前囊収縮が抑制されたと考えました。これまでの獨協医大の研究成果を考察に引用し、臨床結果に疑問を

持ち、原因を実験的に解明したことが評価されたようです。

フィルム作成には半年以上の歳月をかけて、研究成果のまとめや構成を煮詰めてきましたが、まさか自分がこのような賞をもらえるとは考えておらず、受賞後にスピーチを求められましたが、緊張の余り何を言ったか覚えていません。研究が評価されたことは大変うれしく、これからも白内障術後合併症の抑制につながるような研究を続けていきたいと思います。

最後に、今回のフィルム作成のためにご指導頂いた妹尾教授、構成や研究内容を一緒に考えてくださった松島准教授、基礎研究に夜遅くまで取り組んでいただいた向井先生、およびお手伝い頂いた医局員の先生方に心より御礼申し上げます。

- 1) Buke J, Foster S, Herschler J. Aqueous humor as a modulator of growth in fibroblast cultures. *Curr Eye Res* 1982-1983; 2: 835-841
- 2) Kurosaka D, Nagamoto T. Inhibitory effect of TGF- β 2 in human aqueous humor on bovine lens epithelial cell proliferation. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 1994; 35: 3408-3412. Available at: <http://www.iovs.org/cgi/reprint/35/9/3408>. Accessed August 30, 2014
- 3) Aose M, Matsushima H, Mukai K, Katsuki Y, Gotoh N, Senoo T. Influence of intraocular lens implantation on anterior capsule contraction and posterior capsule opacification. *J Cataract Refract Surg* 2014; 40: 2128-2133

眼内レンズ形状と前嚢収縮抑制のメカニズム



ZCB00Vは光学部周辺にrimと呼ばれる窪みを持ち、前嚢切開縁が光学部に接しにくい構造になっている(矢印部)。この結果、前嚢下に房水が滞流し、前嚢切開縁のLECの術後増殖と線維性混濁の進行が制御され、前嚢収縮が抑制される。



松島博之准教授、後藤憲仁先生と ASCRS Film Festival 授賞式にて

自治医科大学眼科外来診察担当者

(H29年6月現在)

	月	火	水	木	金	土
午 前	川 島 新 井 伊野田 高橋(良) 粕 谷 長 岡 福 与	牧 野 富 永 渡 辺 添 田 恩 田 粕 谷 福 与	井 上 富 永 新 井 佐 野 高橋(良) 添 田 福 与	高橋(秀) 富 永 渡 辺 佐 野 恩 田 粕 谷 長 岡	伊野田 高橋(良) 添 田 恩 田 長 岡 【ぶどう膜】 川 島 【網膜硝子体】 高橋(秀) 坂 本	
午 後	【緑内障】 原 渡 辺 佐 野 【網膜硝子体】 新 井	【角膜】 渡 辺	【弱視斜視】 牧 野	【黄斑】 高橋(秀) 井 上 竹 澤 富 永 伊野田	【弱視斜視】 牧 野	

獨協医科大学眼科外来診察担当者

(H29年6月現在)

	月	火	水	木	金	土
午 前	妹尾 正 松島 博之 須田 雄三 後藤 憲仁 佐藤 久生 斎藤 文信 荒川 恭子	千葉 桂三 鈴木 重成 永田万由美 青瀬 雅資 渡邊 智子 石井洋次郎 山崎 駿	松島 博之 須田 雄三 鈴木 重成 永田万由美 青瀬 雅資 中村 恭子 坂東 誠	千葉 桂三 中村 恭子 宮下 博行 斎藤 文信 石井洋次郎 坂東 誠 新井亜由美	妹尾 正 高橋 佳二 後藤 憲仁 佐藤 久生 山下由佳子 宮下 博行 武村 千紘	【交代制】 (1班) 鈴木 重成 後藤 憲仁 中村 恭子 石井洋次郎 千葉 矩史
午 後	【屈折矯正】 千葉 桂三 後藤 憲仁	【ぶどう膜】 鈴木 重成 渡邊 智子 石井洋次郎	【黄 斑】 須田 雄三 中村 恭子 坂東 誠	【角 膜】 千葉 桂三 中村 恭子 斎藤 文信 石井洋次郎 坂東 誠		(2班) 松島 博之 佐藤 久生 斎藤 文信 坂東 誠 山崎 駿 (3班) 須田 雄三 永田万由美 青瀬 雅資 宮下 博行 新井亜由美 椋木かれら
		【ロービジョン】 鈴木 重成 渡邊 智子	【未熟児網膜症】 永田万由美 青瀬 雅資 宮下 博行 武村 千紘	【斜視・弱視】 早津 宏夫 宮下 博行 武村 千紘		

平成28年度 眼科コメディカル講習会修了証授与者（6名）

日 野 舞 子（みどり眼科クリニック）	岡 田 浩 美（斎藤眼科医院）
石 崎 愛 梨（みどり眼科クリニック）	和久井 綾 乃（斎藤眼科医院）
舩 山 恵 美（みどり眼科クリニック）	北 条 康 子（井野田眼科クリニック）

～平成28年度 眼科コメディカル講習会～

平成28年1月より5月にかけて5回の講習会が、東京の帝京大学にて行われました。全部で8名が参加し、3回以上の出席者6名に対して修了証書が授与されました。

おめでとうございます。

表紙の言葉 市貝町芝桜公園

25万株のカラフルな芝桜に包まれ植栽面積としては本州最大級を誇るこの公園は2006年に開園されました。

園内のどの場所からも素晴らしい眺めを堪能できますが、展望台から見下ろす小貝川の流れをイメージしたというピンク色の絨毯が広がる様はまさに圧巻です。

芝桜まつりには多くの人でにぎわいます。

おすすめの時期は4月中旬から5月上旬です。

市貝町芝さくら公園：芳賀郡市貝町大字見上614-1

JR烏山線烏山駅～タクシーで約15分

北関東自動車道 宇都宮上三川ICより約40分

文・写真 大野研一（佐野市）

栃木県眼科一次救急診療規程

(目的)

第1条 この規程は、県民の休日における眼科一次救急診療確保のために定めるものである。

(構成)

第2条 栃木県眼科医会会員のうち、基幹病院に勤務する会員を除く70歳未満の医師で構成する。

(対象日)

第3条 診療の対象日は、日曜日、祝祭日および年末年始（12月30日から1月3日）とする。

(当番目)

- 第4条 当番医の順番については総会で会員の承認を得て決定する。
2. 当番日の都合が悪くなった場合は、各自交代する医師を決定し、本会事務局、診療施設、タクシー会社への報告を義務とする。

(受付時間及び受付業務)

第5条 受付時間は、午前10時から午後5時とし、受付業務は当該施設事務職員が行うものとする。

(診療時間)

第6条 診療時間は、受付時間内に受付した患者の診療が完了するまでとする。

(診療室)

第7条 診察室は、NHO栃木医療センター（以下、「医療センター」という）眼科診察室とする。

(看護師および医療器具)

第8条 看護師は当該診療施設勤務の看護師とし、医療器具は当該診察室のものを使用する。

(給与)

第9条 眼科一次救急診療を行った者には、医療センターと本会の契約により、医療センター臨時医師給与規程に基づいて当該病院より給与が支給される。

(通勤手段)

第10条 通勤は、県全域すべて契約タクシーを利用する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、理事会の決議を経て決定する。

付 則 この規程は平成26年5月11日より施行する。

栃木県眼科医会選挙規程

(趣旨)

第1条 この規程は、栃木県眼科医会会長選挙について定めるものである。

(選挙管理委員長)

第2条 栃木県眼科医会は、選挙を公正かつ円滑に推進するため、正会員の中から選挙管理委員長を選任し、理事会の承認を経て委嘱する。但し、理事はこれを兼任することはできない。

- 2 前項の選任を行ったとき、会長は、その旨を本人に通知しなければならない。
- 3 選挙管理委員長は、選挙管理委員会の議長となり、必要に応じて選挙管理委員会を招集する。また、開票の管理及び当選人の決定その他選挙の管理に関し、必要な事務を統理する。

(選挙管理委員)

第3条 選挙管理委員長は、正会員の中から選挙管理委員2名を選任し理事会の承認を経て、委嘱する。但し、理事はこれを兼任することはできない。

- 2 前項の選任を行ったとき、選挙管理委員長は、その旨を本人に通知しなければならない。

(選挙管理委員会)

第4条 選挙管理委員会は選挙管理委員長と選挙管理委員で構成される。

- 2 選挙管理委員会の事務局は本会事務局に置く。
- 3 選挙管理委員会は選挙人名簿を作成管理する。
- 4 選挙管理委員会は、立候補受付期間を定め、選挙の被選挙人の受付及び資格審査を行い、適格とした立候補者（以下「立候補者」という）に対して立候補の受理を通知する。
- 5 選挙管理委員会は立候補者を告示する。
- 6 選挙管理委員会は立候補者が複数の場合には、選挙管理委員長名で選挙実施通知書、投票用紙及び投票用紙封入用の封筒を会員宛に送付する。投票用紙には栃木県眼科医会の印を押印する。
- 7 選挙管理委員会は投票用紙の管理を行う。
- 8 選挙管理委員会は任期中の選挙事務を記録した選挙録と開票事実を記録した開票録を作成しなければならない。
- 9 選挙管理委員会はその他選挙に必要な事項を遂行する。
- 10 選挙管理委員会は、選挙終了直後の総会後直ちに解散する。

(選挙の告示)

第5条 選挙を必要とする場合、選挙管理委員会は、当選者の任期開始前3カ月から2カ月の間に選挙に関する必要事項を告示しなければならない。

- 2 前項の告示は、本会ホームページへの掲載及び、選挙の告示日に正会員として在籍している者に対して郵送にて行う。

(立候補の届出)

第6条 立候補者は、選挙の告示日に正会員として在籍している者とし、別紙に定める所定の立候補届出書を選挙管理委員会に提出する。

(無投票当選)

第7条 立候補の届出が、1名であるときには、無投票当選により当選者を決定する。

- 2 立候補届出期間内に立候補の届出がないときは、選挙管理委員会が立候補届出期間の延長を決議し、会長に申し出、その承認を経て立候補届出期間を延長できる。

(選挙の方法)

第8条 選挙は、選挙人の無記名投票により行う。

- 2 前項の投票は、選挙管理委員会が送付した所定の投票用紙による郵便投票により行う。
- 3 前項の郵便投票は、選挙人に投票用紙が届いた時から選挙の期日までに行い、選挙期日の消印は有効とし、期日以降の消印は無効とする。

(投票の方法)

- 第9条 選挙人は、立候補者のうちから、1名を投票用紙に記載し、選挙管理委員会宛に郵送する。
- 2 選挙管理委員会は、郵送された投票用紙を厳重に管理する。
 - 3 開票日は、投票締切日の2日後とする。

(開票立会人)

- 第10条 選挙管理委員長は、予め正会員の中から開票立会人3名を指名し、開票に立ち会わせる。ただし、立候補者は開票立会人になることはできない。

(無効投票)

- 第11条 次の投票を無効とする。
- (1) 正規の投票用紙を用いないもの、又は所定の記載方法によらないもの。
 - (2) 前項以外の事項は、選挙管理委員会が、開票立会人の意見を聞き、有効・無効を判定する。

(開票)

- 第12条 開票は、開票事務を行う者を選挙管理委員会の指揮監督の下に置き、開票立会人が立会って行う。
- 2 選挙管理委員会は、投票総数、有効票、無効票の判定及びそれぞれの数と立候補者ごとの得票数を確定する。
 - 3 無効投票の判定は、前条に基づき選挙管理委員長が行う。
 - 4 選挙管理委員は、開票結果を開票録に記載し、選挙管理委員長に報告する。

(当選者の決定)

- 第13条 選挙管理委員長は、開票録に基づき、最多得票者を当選者として決定する。

(選挙結果の告示)

- 第14条 選挙管理委員長は、前条の決定に基づき、当選者の決定後直ちに、本人に当選の告知を行い、就任を要請する。
- 2 選挙管理委員長は、正会員に対し、前項の選挙結果及び当選者を本会ホームページ及び直近に発行する理事会だより、会報に掲載し報告する。

(選挙録の作成及び保存)

- 第15条 選挙管理委員長は、選挙の経過及び結果を記載した選挙録を、開票録を添えて会長に提出する。会長はこれを5年間保存しなければならない。

(選挙の無効)

- 第16条 選挙は、この規程に違反することがあって、選挙の結果に異動を生じるおそれがある場合に限り無効とする。

(経費の負担)

- 第17条 選挙に要した費用は、本会が負担する。
- 2 選挙に労務を提供した者に対し、手当を支給する。その額については、本会会則施行細則別表に記載する。

(雑則)

- 第18条 この規程に定めるもののほか、必要な事項は、理事会の決議を経て決定する。

付則 本規程は、平成29年4月16日より施行する。

栃木県眼科医会会則

〈名称および事務所〉

- 第1条 本会は栃木県眼科医会と称し、公益社団法人日本眼科医会（以下、「日本眼科医会」という）と連携を持つ。
- 2 本会は事務局を会長の指定するところに置く。

〈構成〉

- 第2条 本会は栃木県内で眼科を標榜する医師にして、入会を希望し、且つ理事会の承認を得た者を以て構成する。

〈目的〉

- 第3条 本会は医道の昂揚、医学向上、地域医療の充実に寄与し、併せて会員相互の親睦及び福祉の増進を図ることを目的とし、その目的達成のため、各種の事業を行う。

〈会員〉

- 第4条 本会に入会しようとする者は、別に定める入会の手続きをとらなければならない。
- 第5条 本会会員は別に定める会費及び負担金を納めなければならない。
- 第6条 会員が正当な業務上の権利を侵害され、又は名誉を毀損されたと認めるときは、これを本会に申告し、理事会の調停又は裁定をもとめることができる。
- 第7条 会員が本会会員としての義務を著しく怠り、又は本会の名誉を傷つけ、若しくは目的に反する行為をしたときは、理事会の決議を経て、戒告または除名されることがある。

〈役員の種別および選任〉

- 第8条 本会に次の役員を置く。
- （1）会長 1名 （2）副会長 2名 （3）理事 若干名 （4）監事 2名
- 2 会長及び副会長は理事とする。
- 第9条 会長は本会を代表し、会務を総理する。
- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代行する。
- 3 理事は会長の旨を受けて会務する。
- 4 監事は会務を監査する。
- 第10条 各役員の任期は2年とする。但し再任を妨げない。
- 2 任期が満了しても後任者が職務を行うまでは、その職務を行わなければならない。
- 第11条 会長は会員による選挙によって選出され、副会長、理事、監事は会長が此等を指名、推薦又は囑託する。
- 2 会長の選出は、選挙規定による。
- 第12条 日本眼科医会代議員及び予備代議員の選出は、日本眼科医会の定めに従うこととし、本会役員との兼任を妨げない。
- 第13条 本会に名誉会長及び顧問若干名を置くことができる。
- 2 名誉会長及び顧問は理事会の議を経て会長が委嘱し、任期は会長の任期とする。
- 第14条 会長は必要と認めるときは委員会を設けることができる。

〈会議〉

- 第15条 会議は定例総会、臨時総会、理事会及び委員会とする。
- 第16条 定例総会は毎年1回会長が召集する。臨時総会、理事会及び委員会は必要に応じて会長が召集する。

第17条 総会は、会員の過半数が出席しなければ成立しない。但し、委任状を提出した者は出席とみなす。

第18条 総会の議決は出席会員の過半数の同意を要する。

第19条 次の事項は総会の承認又は議決を経なければならない。但し臨時急施を要する場合はこの限りではない。

(1) 収支決算及び予算

(2) 事業報告及び事業計画

(3) 会費の賦課、徴収方法

(4) 会則の改正

(5) その他総会の決議を要すると理事会が認めた事項

〈会計〉

第20条 本会の経費は、入会金、会費、負担金、寄付金及びその他収入を以てあてる。

第21条 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

〈雑則〉

第22条 会務執行上必要ある事項は別に施行細則を設けることができる。

2 選挙規定を設ける。

付則 本会則は、平成 2 年 4 月16日より施行する。

本会則は、平成24年 4 月15日一部改訂する。

本会則は、平成26年 5 月11日一部改訂する。

本会則は、平成29年 4 月16日一部改訂する。

○ご投稿のお願い

会報編集委員会では。会員の先生方の原稿を募集しております。随筆・旅行記・ご意見・趣味の話など楽しい原稿をお待ちしております。原稿に写真を添えることも可能です。カラー写真で寄稿されてもモノクロ印刷になることがあります。あらかじめご了承ください。

○原稿送り先

〒329-0507 下野市文教2-7-14
大柳内科・眼科（内）
栃木県眼科医会報編集委員会
大柳 静香
TEL 0285-51-2400
FAX 0285-51-2900
Eメール kouhouganka@gmail.com

パソコンをお使いの方は、データでのご投稿を歓迎します。

○原稿〆切

常時受け付けております。
但し、第51号の〆切は5月末日です。

○栃木県眼科医会ホームページ

<http://www.tochigan.jp>



広報 大柳 静香
(下野市)

○編集後記

編集作業も2回目となり、昨年よりは多少要領を得てきたかと思います。今回の随筆の担当であったことはわかっていたのですが、重なる時には重なるもので、日本の眼科の「新東西南北」と地区医師会会報誌の随筆依頼が同時期にあり、今年の春はずっと原稿用紙にとらめっこをして過ごしていました。ほぼ同時期にそれぞれ刊行されると思います。稚拙な文章ですが、御一読いただければ幸いです。

各種報告、學術欄に原稿をお寄せ下さった会員の皆様のおかげを持ちまして、第50号栃木県眼科医会報が出来ましたことを厚く御礼申し上げます。

最後に、栃木県眼科医会の進歩、発展に多大な寄与、貢献をされた松島雄二先生、原たか子先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

(大柳 静香)

編 集 委 員

委員長 大柳 静香

委員 牧野 伸二

後藤 憲仁

大野 研一

早津 宏夫

栃木県眼科医会報（第50号）

発行日：平成29年6月30日

発行所：栃木県眼科医会

〒321-0151 栃木県宇都宮市西川田町9-29-4

旭眼科内科クリニック内

発行人：栃木県眼科医会

原 裕

印刷所：株式会社ヤスノプランニング

〒321-0151 宇都宮市西川田町1092

新発売



緑内障・高眼圧症治療剤 処方箋医薬品*

ミケルナ® 配合点眼液

Mikeluna® combination ophthalmic solution 薬価基準収載

カルテオロール塩酸塩・ラタノプロスト配合点眼液

* 注意—医師等の処方箋により使用すること

◇効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等は、添付文書をご参照ください。



製造販売元

大塚製薬株式会社

東京都千代田区神田司町2-9

資料請求先

大塚製薬株式会社 医薬情報センター

〒108-8242 東京都港区港南2-16-4

品川グランドセントラルタワー



提携

千寿製薬株式会社

大阪市中央区平野町2-5-8

資料請求先

千寿製薬株式会社 カスタマーサポート室

〒541-0046 大阪市中央区平野町2-5-8

〈'17.01作成〉



ずっと輝く瞳に。メニコン

瞳の健康を第一に考えた、安心アイライフはじめませんか？

定額制コンタクト

M MELS PLAN

安心保証のもと常にベストコンディションでコンタクトをご使用いただけます。

お支払いは月々の定額制、コンタクトの購入は必要ありません。

※初回入会時に入会金が必要となります。

新しい一日は

新しい1DAYレンズで。

1日使い捨て終日装着ソフトコンタクトレンズ



1箱6枚入り

1DAY Menicon

Premio

プレミオ

販売名:1DAYメニコン プレミオ / 医療機器承認番号:22700BZX00303000

約1mmの発明。

これは1DAYコンタクトレンズ。



※10シート・30枚入り

Magic

1day Menicon Flat Pack

販売名:メニコン1DAY フラットバック 医療機器承認番号:22100BZX01098000

※「Magic」は包装から派生した製品ブランドであり、コンタクトレンズの視覚的機能・効果ではありません。

お願い:コンタクトレンズは高度管理医療機器です。必ず眼科医の指示を受けてお求めください。●装着時間・期間を正しくお守りください。●取扱方法を守り、正しくご使用ください。●眼の検査は必ずお受けください。●少しでも異常を感じたら直ちに眼科医の検査をお受けください。●添付文書をよく読み、正しくご使用ください。

株式会社メニコン 宇都宮営業所 〒321-0953 宇都宮市東宿郷4丁目1-20 山口ビル6階 TEL(028)635-9655 <http://www.menicon.co.jp>

薬価基準収載



広範囲抗菌点眼剤

処方箋医薬品（注意—医師等の処方箋により使用すること）

トスフロ[®]点眼液0.3%

TOSUFLO Ophthalmic Solution 0.3%

トスフロキサシントシル酸塩水和物点眼液

【効能・効果】、【用法・用量】、【禁忌】を含む
【使用上の注意】等については、製品添付文書をご
参照ください。



製造販売元



日東メディック株式会社

富山県富山市八尾町保内1-14-1

（資料請求先） 日東メディック株式会社 おくすり相談窓口
〒104-0033 東京都中央区新川1-17-24

2016年5月作成

栄養機能食品（ビタミンC、ビタミンE、亜鉛）

オプティエイド[®] DE

OPTIAiD DE

乳酸菌
WB2000

ラクトフェリン
Lactoferrin

EPA・DHA
Omega-3 fatty acid

涙に着目した サプリメント登場

食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。

販売者



わかもと製薬株式会社
東京都中央区日本橋本町二丁目2番2号



2016.6K

AZORGA.

炭酸脱水酵素阻害剤／ β 遮断薬配合
緑内障・高眼圧症治療剤

薬価基準収載

アゾルガ®配合懸濁性点眼液

プリンゾラミド／チモロールマレイン酸塩配合懸濁性点眼液

処方箋医薬品：注意－医師等の処方箋により使用すること

「効能・効果」、「用法・用量」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等につきましては、製品添付文書をご参照ください。

Alcon Pharma

販売提携 (資料請求先)
アルコン ファーマ株式会社
東京都港区虎ノ門 1-23-1

アルコンファーマダイレクト
0120-067-719
受付時間 月～金 9:00～17:30
(祝祭日及び当社休日を除く)

製造販売（輸入）
ノバルティス ファーマ株式会社
東京都港区虎ノ門 1-23-1

2017年4月作成

プロstagランジンF₂ α 誘導体
緑内障・高眼圧症治療剤

薬価基準収載

キサタタン®点眼液 0.005%

Xalatan® Eye Drops 0.005%

ラタノプロスト点眼液

処方箋医薬品：注意－医師等の処方箋により使用すること

緑内障・高眼圧症治療剤

薬価基準収載

ザラカム®配合点眼液

Xalacom® Combination Eye Drops

ラタノプロスト・チモロールマレイン酸塩配合

処方箋医薬品：注意－医師等の処方箋により使用すること

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。



製造販売
ファイザー株式会社
〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7
資料請求先：製品情報センター

XCM72G006A

2016年1月作成

手術動画の簡単管理

WEBブラウザ閲覧

ライブ画像配信可能

簡単タップ操作

手術動画管理システム
OPELIO one

タッチパネル操作で簡易編集が可能

Webブラウザで動画・静止画を手軽に検索

2チャンネルのHD動画を同時に録画

※「OPELIO one」は、(株)セブンスディメンションデザインの製品です。



Eye & Health Care

株式会社 ニデック

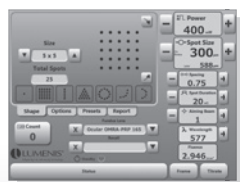
本社／愛知県蒲郡市拾石町前浜34番14 〒443-0038 TEL.0533-67-8840
営業拠点／札幌・仙台・埼玉・東京・千葉・横浜・蒲郡・金沢・京都・大阪・高松・広島・福岡
URL <http://www.nidek.co.jp> <埼玉支店> TEL (048)640-2280

Vision One

マルチカラーレーザー光凝固装置

**Array
LaserLink™**

Array レーザリンクデリバリーシステム



Versatility

多彩なスキャンパターンはあらゆる
症例に対応します

Now ready to shift to the
next stage **with Array**

**More Colors ;
More Choices**

必要な波長 (カラー) を、
必要なときに

一般的名称：眼用レーザー光凝固装置
販売名：Vision One マルチカラーレーザー光凝固装置
承認番号：22400BZX00353000

Lumenis®
Energy to Healthcare

製造販売業者 株式会社 日本ルミナス

本社 〒140-0014 東京都品川区大井1-14-3 K-3ビル 5F TEL: 03-4431-8300 FAX: 03-4431-8301
オペレーションセンター 〒135-0064 東京都江東区青海4-4-18 TACS TEL: 03-4431-8310 FAX: 03-4431-8311
E-mail: ophlaser.japan@lumenis.com URL: <http://www.lumenis.co.jp>

TECNIS® OptiBlue iTec Preloaded Delivery System

更なる安心感をプリロードで

粘弾性物質(OVD)または灌流液によるセッティング

TECNIS
OptiBlue
iTec

販売名: テクニス オプティブルー iTec
医療機器承認番号: 22500BZX00366000

エイムオー・ジャパン 株式会社 東京営業所
〒108-6306 東京都港区三田3-5-27 住友不動産 三田ツインビル 西館6F
TEL.03-5444-2541 FAX.03-5444-2542

TECNIS, OptiBlue are trademarks owned by or licensed to Abbott Laboratories, its subsidiaries or affiliates.
©2017 Abbott Medical Optics Inc.



Reliability (信頼性)

Efficiency (効率性)

Safety (安全性)

Johnson & Johnson VISION

M310APCB0-17Q20007

CooperVision®

ない上質は、つくればいい。

世界中で、私たちにしかつけないプレミアムなコンタクトレンズがある。
時代の先を行くスマートシリコン™素材。その世界初の技術だから実現できた
新発想のやわらかさ。このレンズで、あなたの毎日をもっと素敵に華やかに。



クラフトマンシップとサイエンスが生んだ

プレミアム1day コンタクトレンズ MyDay®上陸

マイディ クーパービジョン

検索

・コンタクトレンズは高度管理医療機器です。眼科医による検査、処方をお願いします。特に異常を感じなくても定期検査は必ず受けるようにご指導ください。・患者様がコンタクトレンズを使用する前に、必ず添付文書をよく読み、取扱方法を守り、正しく使用するようにご指導ください。販売名 マイディ 承認番号 22700BZX00320000 クーパービジョン・ジャパン株式会社

Johnson & Johnson
JOHNSON & JOHNSON K.K.
VISION CARE COMPANY



集中する



乾燥した空気



忙しい毎日

過酷な環境でも一日中、疲れ知らずな眼へ。



ワンデー アキュビュー® オアシス®

◎コンタクトレンズは高度管理医療機器です。眼科医による検査・処方をお願いします。特に異常を感じなくても定期検査は必ず受けるようにご指導ください。◎患者さんがコンタクトレンズを使用する前に、必ず添付文書をよく読み、取扱い方法を守り、正しく使用するようにご指導ください。

詳しい製品情報についてはこちらをご覧ください。

ホーム
ページ

<http://acuvue.jnj.co.jp>

従来型携帯電話からはご利用になれません。

※QRコード対応の
携帯電話でのみ右記
バーコードで使用
になります。(機種に
よってはアクセスで
きない場合があります。)



ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニー
東京都千代田区西神田3丁目5番2号 販売名: ワンデー アキュビュー オアシス
承認番号: 22800BZX00049000 ©登録商標 ©J&J KK 2017



HEIWA
IYOU SHOKAI

株式会社 平和医用商会

営業案内

代表取締役 柳 瀬 信 也

- 眼科用医療器械・器具・備品
眼内レンズ・消耗品全般取扱い
- 眼科光学器械の修理
- 眼科一般開業設備 一式

本 社

〒331-0825 埼玉県さいたま市北区櫛引町2-185-6
TEL:048-664-1503 FAX:048-652-5744

宇都宮営業所

〒321-0153 栃木県宇都宮市北若松原2丁目9番5号
TEL:028-655-5527 FAX:028-655-5528

東京営業所

〒175-0094 東京都板橋区成増2-10-3-107
TEL:03-6904-1360 FAX:03-6904-1362

本郷営業所

〒113-0033 東京都文京区本郷1-35-24-702
TEL:03-5842-3501 FAX:03-5842-3502

高崎営業所

〒370-0062 群馬県高崎市稲荷町32-204
TEL:027-365-2490 FAX:027-365-2491

新潟営業所

〒950-0923 新潟県新潟市中央区姥ヶ山5-14-77 A-102
TEL:025-250-5707 FAX:025-250-5710



JQA-QMA12113
本社認証取得

<http://www.heiwaiyou.co.jp/>



REIMAGINING EYE CARE

アイケアのこれからを描く

アルコンのミッションは、より良く見える、すこやかな毎日のために、新しい発想で医療に貢献することです。私たちは過去70年間、日本においては1973年の創立以来、このミッションを果たすべく事業に取り組んでまいりました。

アルコンは、眼科用手術機器や、コンタクトレンズ、レンズケア製品など幅広いアイケア製品群を取り揃え、年間数百万人にもおよぶ、白内障、緑内障、網膜疾患、屈折異常に悩む人々の生活の質の向上に寄与しています。

アイケアのこれからを描く—— アルコンは、イノベーションの最先端を築き、アイケア専門家とともに、視力という贈り物を世界中のより多くの人々に届けてまいります。

www.alcon.co.jp

幅広い度数設定で
さまざまなニーズに対応！

シート Pure シリーズ

ピュア



日本品質で
安心をお届け



高い
うるおい保持力



瞳を守る
UVカット付き

1day タイプ

国産 1日使い捨てソフトコンタクトレンズ

シート 1day Pure
シート ワンデーピュア
うるおいプラス

+8.00D から
-16.00D まで
対応！



販売名：シート 1dayPure UP 承認番号：221008ZX00759000

◆ベースカーブ 8.8mm

◆直径 14.2mm

◆度数	+8.00D ～ +5.50D (0.50D ステップ)	-0.50D ～ -6.00D (0.25D ステップ)
	+5.00D ～ +0.50D (0.25D ステップ)	-6.50D ～ -16.00D (0.50D ステップ)
	±0.00D	

2week タイプ

国産 2週間交換ソフトコンタクトレンズ

シート 2week Pure
シート ツーウィークピュア
うるおいプラス

+10.00 から
-24.00 まで
対応！



販売名：シート 2weekPure UP
承認番号：225008ZX00276000

◆ベースカーブ 8.6mm ◆直径 13.8mm / 14.2mm

◆度数	+10.00D ～ +5.50D (0.50D ステップ)	-0.50D ～ -6.00D (0.25D ステップ)
	+5.00D ～ +0.50D (0.25D ステップ)	-6.50D ～ -16.00D (0.50D ステップ)
	±0.00D	-17.00D ～ -24.00D (1.00D ステップ)

+10.00D ～ +5.50D (0.50D ステップ) ・ -17.00D ～ -24.00D (1.00D ステップ) は、直径 14.2mm のみ



株式会社 シード

Vivinex[®] iSert[®] Model XY1

疎水性アクリル素材「Vivinex」を用いた
1ピース非球面眼内レンズ

極小切開対応プリロードIOL

販売名：HOYA Vivinex アイサート
承認番号：22400BZX00498000

●PCO抑制に寄与

(国内3施設にて実施した臨床試験結果：
当社「HOYA エイエフー1 (UY)」比)

●極小切開に対応

(推奨切開創サイズ：強角膜1.8mm～角膜2.0mm～)

iSert[®] Micro Toric

Aspheric 1-Piece
Hydrophobic Acrylic

極小切開対応プリロードトーリック IOL

Model 355T3
355T4
355T5

トーリックIOL搭載の
極小切開対応プリロード

- 強角膜2.2mm～/角膜2.4mm～
- 3種類の円柱度数をラインナップ

特徴のあるレンズデザイン

- HOYA独自の非球面設計(ABCデザイン)
- ブルーの支持部先端により視認性を向上
- シャープエッジの採用

使いやすさ、簡便さ

- 再現性・操作性に優れたプリロードシステム
- 器具の洗浄・滅菌が不要

※CGによるイメージにつき、
実物とは異なります。

販売名：HOYA アイサート Micro Toric
承認番号：22600BZX00003000

モデル別円柱度数			
モデル名	355T3	355T4	355T5
眼内レンズ面	1.50	2.25	3.00
角膜面*	1.03	1.55	2.06

※平均的な偽水晶体眼モデル眼による換算

製造販売元：HOYA 株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 6-10-1

HOYA Surgical Optics

HOYA株式会社 メディカル事業部

お問い合わせ先：関東営業所

〒164-8545 東京都中野区中野4-10-2 中野セントラルパークサウス 6F

TEL 03-5913-2341

HOYA
SURGICAL OPTICS

2017-04-14_H50J_XY1_355_AD_JP_01

MANI®

The Ultimate in Sharpness

究極の切味



MANI®

MANI, INC. マニー株式会社

〒321-3231 栃木県宇都宮市清原工業団地 8-3

お問い合わせ先 Tel : 028-667-9911

Fax : 028-667-6177

URL : <http://www.mani.co.jp>

E-mail : seg-dms@ms.mani.co.jp

8-3 KIYOHARA INDUSTRIAL PARK, UTSUNOMIYA, TOCHIGI 321-3231, JAPAN
Phone: +81286677565 Fax: +81286676177